

第2回みえ県民意識調査

《 報告書 》

平成 25 年 4月

三重県戦略企画部

目 次

I 調査の概要.....	1
1. 調査の目的	1
2. 調査の概要	1
3. 調査の内容	1
4. 回収結果	1
5. 報告書の見方	2
6. 回答者の属性	3
II 集計結果.....	4
1. 幸福感	4
2. 地域や社会の状況についての実感	19
3. 家族や精神的なゆとり	56
4. 地域や社会への参画	75
5. 家計や仕事のこと	102
III その他.....	126

I 調査の概要

1. 調査の目的

県では、平成24年度に策定した「みえ県民力ビジョン」において、「県民力でめざす『幸福実感日本一』の三重」を基本理念として掲げており、県民の皆さんの「幸福実感」を把握し、県政運営に活用するため、「みえ県民意識調査」を実施しました。

2. 調査の概要

- | | |
|------------|---|
| (1) 調査地域 | 三重県全域 |
| (2) 調査対象 | 県内居住の20歳以上の男女 |
| (3) 標本数 | 10,000人 |
| (4) 抽出方法 | 各市町の選挙人名簿を使用した等間隔無作為抽出法によります。標本数は各市町の選挙人名簿登録者数の比率によって割り当てました。 |
| (5) 調査方法 | 郵送による発送・回収 |
| (6) 調査期間 | 平成25年1月～平成25年2月 |
| (7) 調査主体 | 三重県戦略企画部戦略企画総務課 |
| (8) 調査委託機関 | 株式会社百五経済研究所 |

3. 調査の内容

下記の6つの調査項目により構成しています。

- | | |
|---------------------|-------------|
| (1) 幸福感 | |
| (2) 地域や社会の状況についての実感 | |
| (3) 家族や精神的なゆとり | |
| (4) 地域や社会への参画 | |
| (5) 家計や仕事のこと | |
| (6) 自由意見 | (質問総数 51 問) |

4. 回収結果

- | | |
|-----------|---------------------|
| (1) 標本数 | 10,000人 |
| (2) 実回収総数 | 5,443人(回収率 54.4%) |
| (3) 有効回答数 | 5,432人(有効回答率 54.3%) |
| (4) 無効回答数 | 11人 |

調査地域区分と地域別標本数、ならびに有効回答数は次表のとおりです。

図表 1-4-1 調査地域区分と地域別標本数

居住地域	市町	標本数	有効回答数	有効回答率 (%)	構成比 (%)
北勢地域	四日市市、桑名市、鈴鹿市、 亀山市、いなべ市、木曽岬町、 東員町、菰野町、朝日町、 川越町	4,451	2,394	53.8	44.1
伊賀地域	名張市、伊賀市	966	557	57.7	10.3
中南勢地域	津市、松阪市、多気町、明和町、 大台町	2,706	1,516	56.0	27.9
伊勢志摩地域	伊勢市、鳥羽市、志摩市、 玉城町、度会町、大紀町、 南伊勢町	1,431	751	52.5	13.8
東紀州地域	尾鷲市、熊野市、紀北町、 御浜町、紀宝町	446	214	48.0	3.9
合計		10,000	5,432	54.3	100.0

5. 報告書の見方

- (1) 報告書中の「n」は、その設問におけるサンプル数（＝有効回答数）を表しています。
- (2) 比率は全て百分率で表し、小数点第2位を四捨五入しているため、百分率の合計が 100% にならない場合があります。
- (3) 複数回答の質問の比率は、回答数の合計をサンプル数（n）で割った比率となっており、比率の合計は通常 100%を超えます。
- (4) 図表の見出しや回答の選択肢の表現では、スペース等の都合上、趣旨が変わらない程度に簡略化して記載している場合があります。
- (5) スペースの関係で、原則として、図表には 5%未満の値を表示していません。
- (6) 属性項目間の比較で大きな差が見られない属性や第1回調査から大きな変化が見られない属性等については、記述を省略しています。
- (7) サンプル数（n）が 50 未満の属性項目、ならびに主な職業の「その他の職業」、世帯構成の「その他」、本人の年間収入の「わからない」の3つの属性項目については、原則として記述を省略しています。

6. 回答者の属性

- (1) 集計結果を分析するための基本的な属性は、地域、性別、年代、主な職業、結婚、世帯構成、本人の年間収入の7つとしました。
- (2) 世帯構成については、前回調査との比較を行うため、同居家族（問8－3）の回答の組み合わせにより判断しています。

※組み合わせの例は128ページを参照

- (3) 本人の年間収入について、前回調査では世帯全体の年間収入を質問していることから、前回調査との比較はできません。
- (4) 回答者の属性についての特徴は次の通りです。

- ・地域別では、「北勢地域」、「伊賀地域」は前回調査より、それぞれ0.1ポイント、0.9ポイント高くなり、「中南勢地域」、「伊勢志摩地域」はそれぞれ0.7ポイント、0.2ポイント低くなっています。
- ・性別では、「男性」が1.9ポイント低くなった一方、「女性」が1.5ポイント高くなり、前回調査時より男女間の差が拡大しています。
- ・年代別では、「40歳代」と「70歳以上」は前回調査よりそれぞれ0.8ポイント、1.8ポイント高く、それ以外の年代は低くなっています。
- ・主な職業別では、「農林水産業」、「自営業、自由業」、「企業、役所、団体などの正規職員」が前回調査より低くなり、「無職」などが高くなっています。
- ・結婚別では「既婚」、「離婚・死別」、「未婚」が前回調査から低下している一方、「不明」の割合は高くなっています。
- ・世帯構成別では、「一世代世帯」は前回調査より2.7ポイント、「二世代世帯」は1.4ポイント低下しています。
- ・本人の年間収入別では、「100万円未満」が27.8%と最も高く、次いで「100万円以上～200万円未満」が19.0%、「200万円以上～300万円未満」（14.8%）などとなっています。

図表 1-6-1 回答者の属性

属性	属性項目	件数	構成比		(対前回差)
			今回	前回	
地域	北勢地域	2,394	44.1	44.0	(0.1)
	伊賀地域	557	10.3	9.4	(0.9)
	中南勢地域	1,516	27.9	28.6	(-0.7)
	伊勢志摩地域	751	13.8	14.0	(-0.2)
	東紀州地域	214	3.9	3.9	(0.0)
	不明	0	0.0	0.0	(-)
性別	男性	2,441	44.9	46.8	(-1.9)
	女性	2,869	52.8	51.3	(1.5)
	不明	122	2.2	1.8	(0.4)
年代	20歳代	321	5.9	6.6	(-0.7)
	30歳代	666	12.3	13.1	(-0.8)
	40歳代	864	15.9	15.1	(0.8)
	50歳代	937	17.2	17.5	(-0.3)
	60歳代	1,291	23.8	24.6	(-0.8)
	70歳以上	1,254	23.1	21.3	(1.8)
	不明	99	1.8	1.7	(0.1)
主な職業	農林水産業	175	3.2	3.7	(-0.5)
	自営業、自由業	524	9.6	10.9	(-1.3)
	正規職員	1,358	25.0	26.2	(-1.2)
	パート・バイト・派遣	972	17.9	17.5	(0.4)
	その他の職業	205	3.8	2.7	(1.1)
	学生	68	1.3	1.3	(0.0)
	専業主婦・主夫	742	13.7	13.6	(0.1)
	無職	1,237	22.8	21.8	(1.0)
結婚	不明	151	2.8	2.3	(0.5)
	未婚	635	11.7	12.6	(-0.9)
	既婚	3,932	72.4	74.3	(-1.9)
	離婚・死別	509	9.4	10.6	(-1.2)
世帯構成	不明	356	6.6	2.5	(4.1)
	単身世帯	414	7.6	7.4	(0.2)
	一世代世帯	1,473	27.1	29.8	(-2.7)
	二世代世帯	2,376	43.7	45.1	(-1.4)
	三世代世帯	731	13.5	14.2	(-0.7)
	その他	305	5.6	1.4	(4.2)
本人の年間収入	不明	133	2.4	2.1	(0.3)
	100万円未満	1,509	27.8	-	-
	100～200万円未満	1,034	19.0	-	-
	200～300万円未満	803	14.8	-	-
	300～400万円未満	514	9.5	-	-
	400～500万円未満	376	6.9	-	-
	500～600万円未満	264	4.9	-	-
	600～800万円未満	319	5.9	-	-
	800～1,000万円未満	122	2.2	-	-
	1,000万円以上	80	1.5	-	-
	わからない	179	3.3	-	-
	不明	232	4.3	-	-
有効回答数		5,432	100.0	100.0	

Ⅱ 調査結果の分析

1. 幸福感

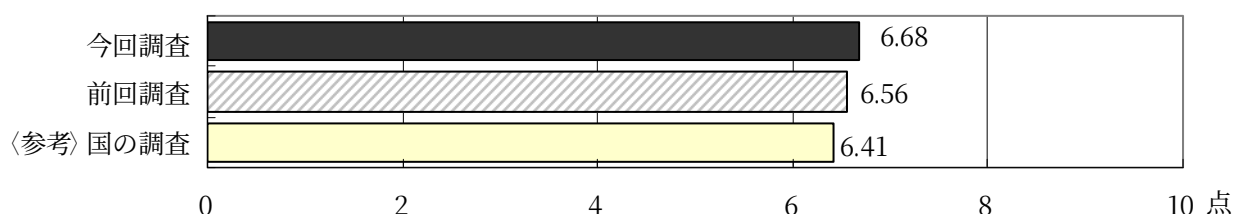
問1-1 現在、あなたはどの程度幸せですか。「とても幸せ」を10点、「とても不幸」を0点とすると、何点くらいになると思いますか。いずれかの数字を1つだけ○で囲んでください。(○は1つだけ)

県民の皆さんが日ごろ感じている幸福感（以下、「幸福感」と記載）について、10点満点で質問したところ、平均値は6.68点で、前回調査と比較すると0.12点高くなっています。

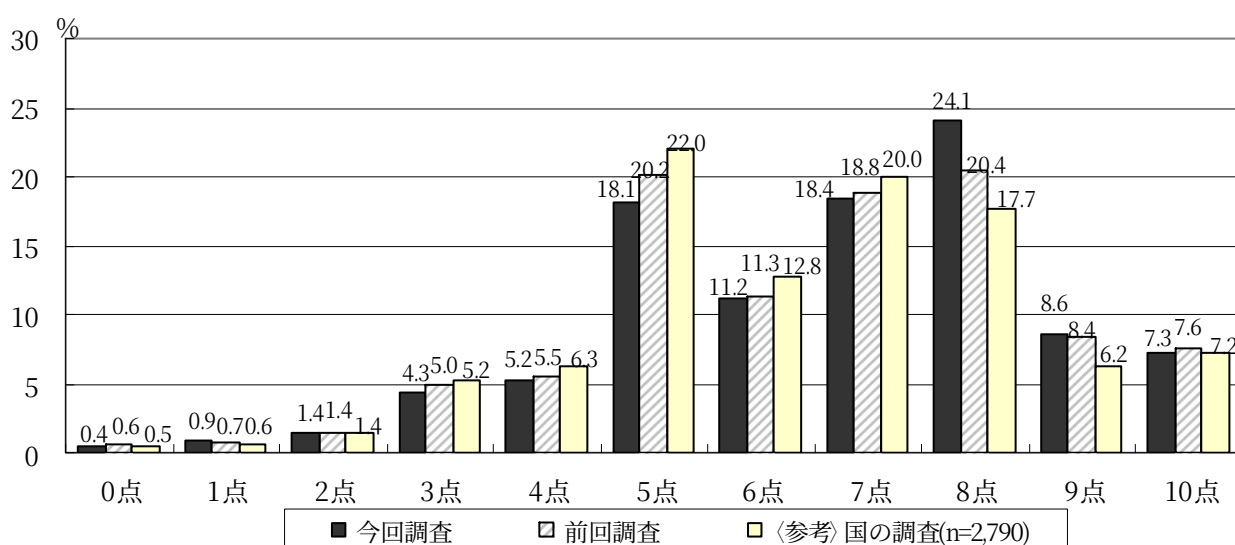
点数の分布をみると、「8点」が24.1%と最も高く、次いで「7点」（18.4%）、「5点」（18.1%）となっており、M字曲線を描いています。前回調査の分布と比較すると「8点」の割合が3.7ポイント高くなっています。

なお、平成24年3月に内閣府が実施した平成23年度国民生活選好度調査（以下、「国の調査」と記載）では、平均値は6.41点となっています。また、点数の分布をみると、「5点」が22.0%と最も高く、次いで「7点」（20.0%）、「8点」（20.4%）となっています。

図表2-1-1 日ごろ感じている幸福感の平均値



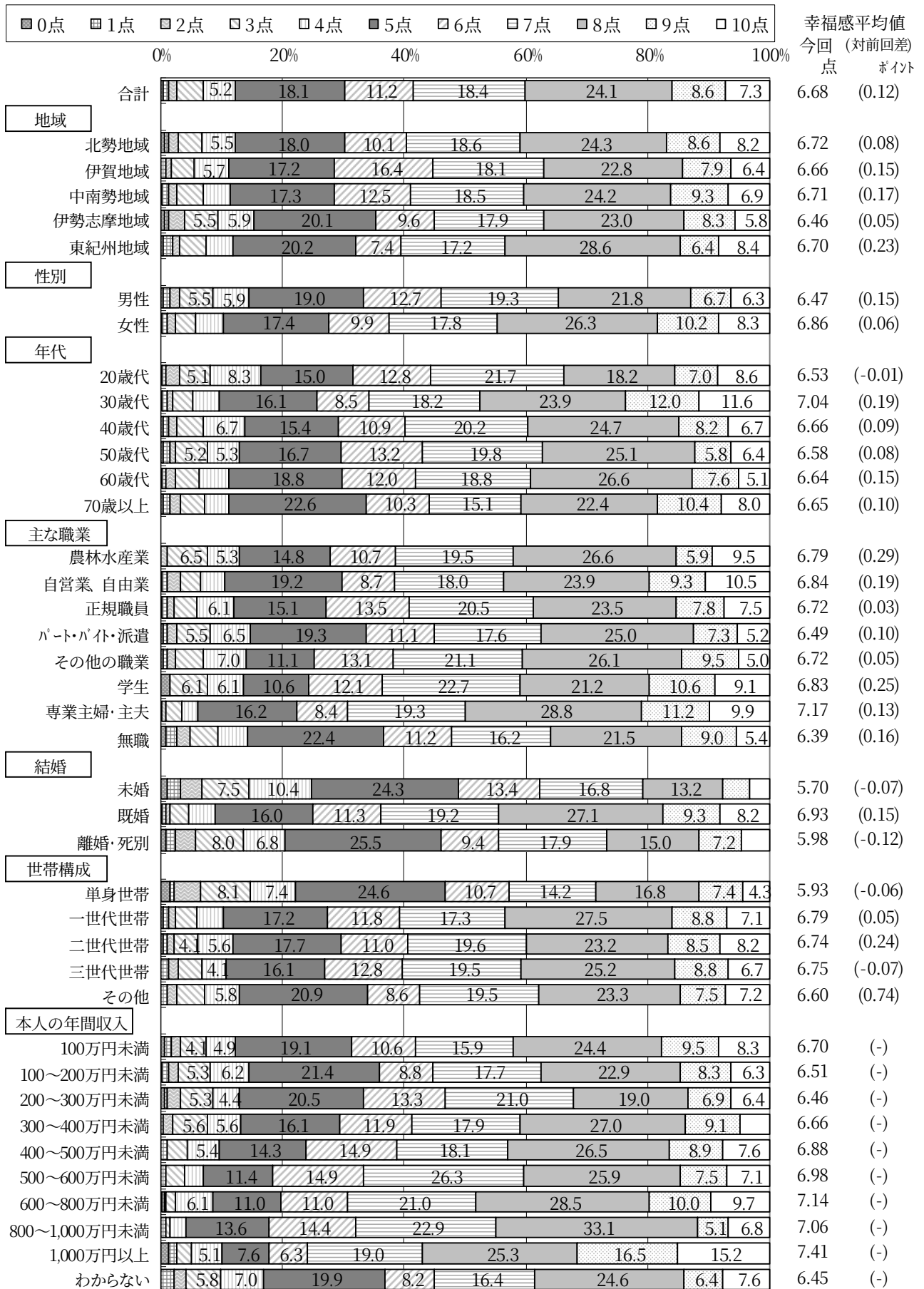
図表2-1-2 日ごろ感じている幸福感の分布



※「国民生活選好度調査」は、15歳以上80歳未満を対象としていることや、調査員が調査票を配布、回収する個別訪問留置法であることなど、本県の調査方法と異なる点があり、注意が必要です。

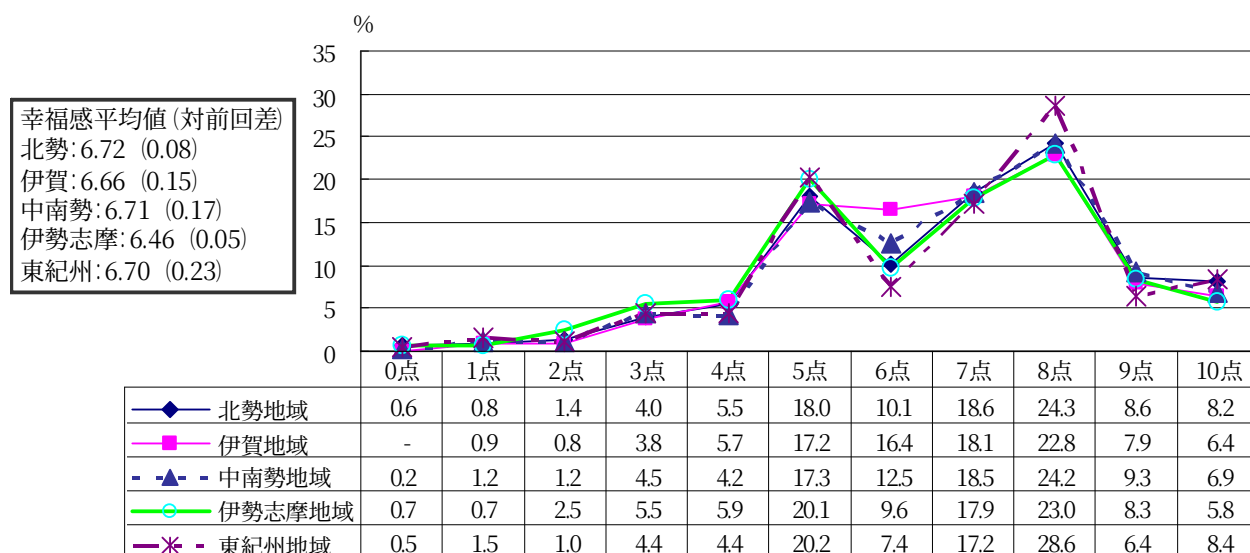
※国の調査・・・平成23年度国民生活選好度調査（内閣府、平成24年3月実施）

図表2-1-3 日ごろ感じている幸福の平均値と分布(属性項目別)



地域別では、北勢地域が6.72点と最も高く、次いで中南勢が6.71点、東紀州地域が6.70点、伊賀地域が6.66点、伊勢志摩地域が6.46点となっています。前回調査と比較すると、すべての地域で平均値は高くなっており、東紀州地域は0.23点、中南勢地域は0.17点、伊賀地域は0.15点高くなっています。

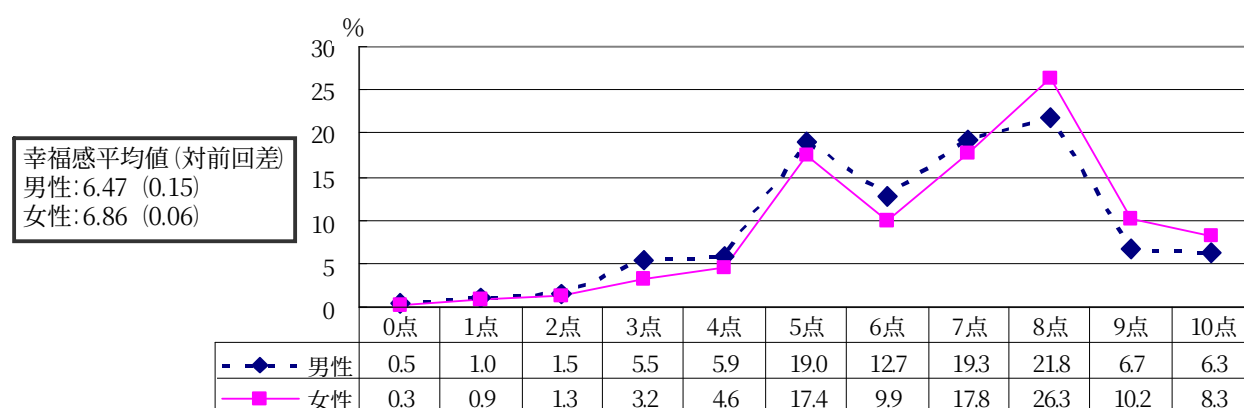
図表2-1-4 日ごろ感じている幸福感的平均値と分布(地域別)



性別では、女性が6.86点と男性(6.47点)より0.39点高くなっています。前回調査と比較すると、男性は0.15点高くなっています。

分布をみると、女性は7点以上の割合が62.6%で、男性(54.1%)より8.5ポイント高くなっています。

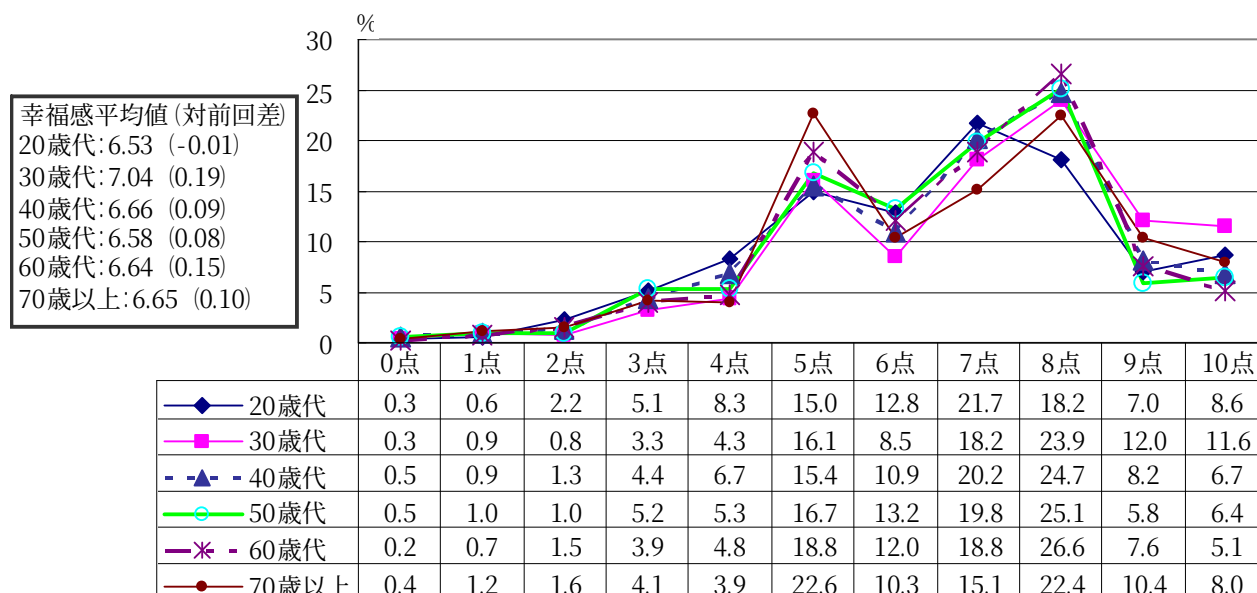
図表2-1-5 日ごろ感じている幸福感的平均値と分布(性別)



年代別では、30歳代が7.04点と最も高く、次いで40歳代が6.66点、70歳以上が6.65点となっています。前回調査と比較すると、20歳代を除くすべての年代で高くなっており、30歳代は0.19点、60歳代は0.15点高くなっています。

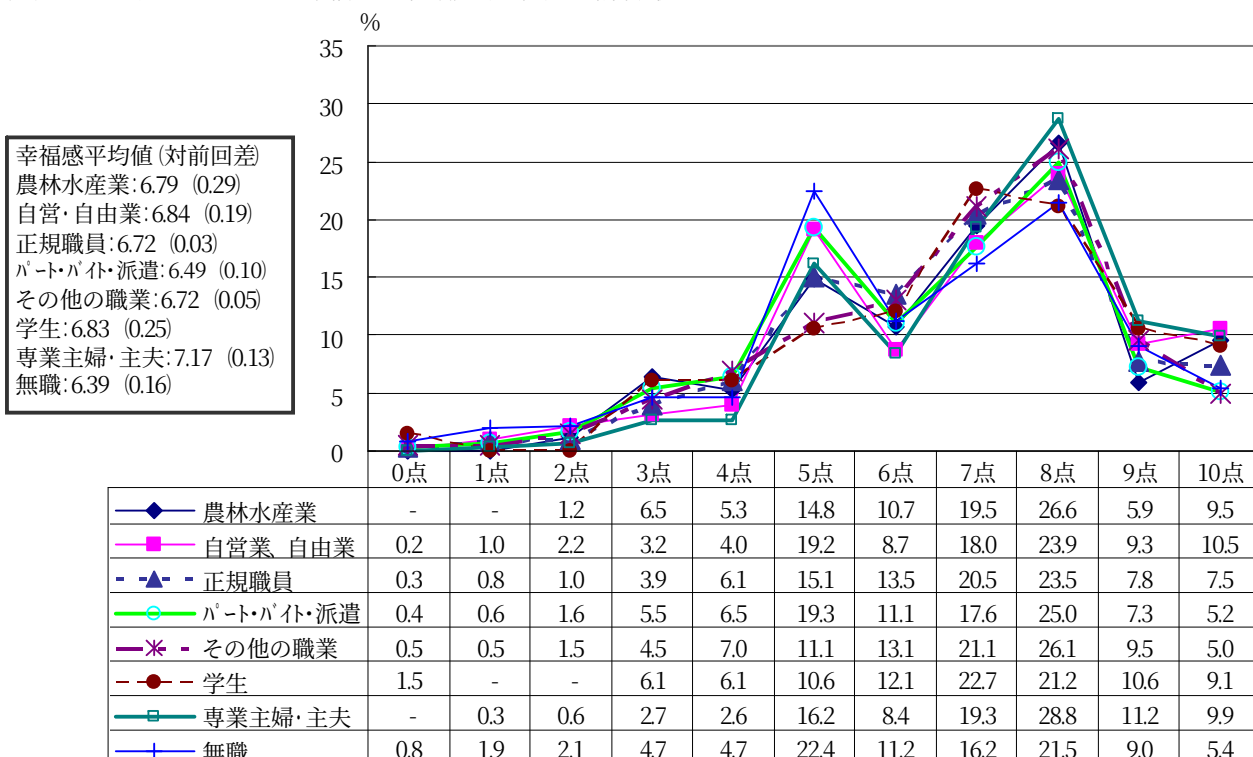
分布をみると、20歳代は「7点」、30歳代から60歳代は「8点」、70歳以上は「5点」が最も高くなっています。特に、30歳代は7点以上の割合が65.7%と年代の中で最も高くなっています。

図表2-1-6 日ごろ感じている幸福感的の平均値と分布(年代別)



主な職業別では、専業主婦・主夫が7.17点と最も高く、次いで自営業・自由業が6.84点、学生が6.83点となっています。一方、無職は6.39点で、職業の中で最も低くなっています。前回調査と比較すると、農林水産業は0.29点、学生は0.25点、自営・自由業は0.19点、無職は0.16点高くなっています。

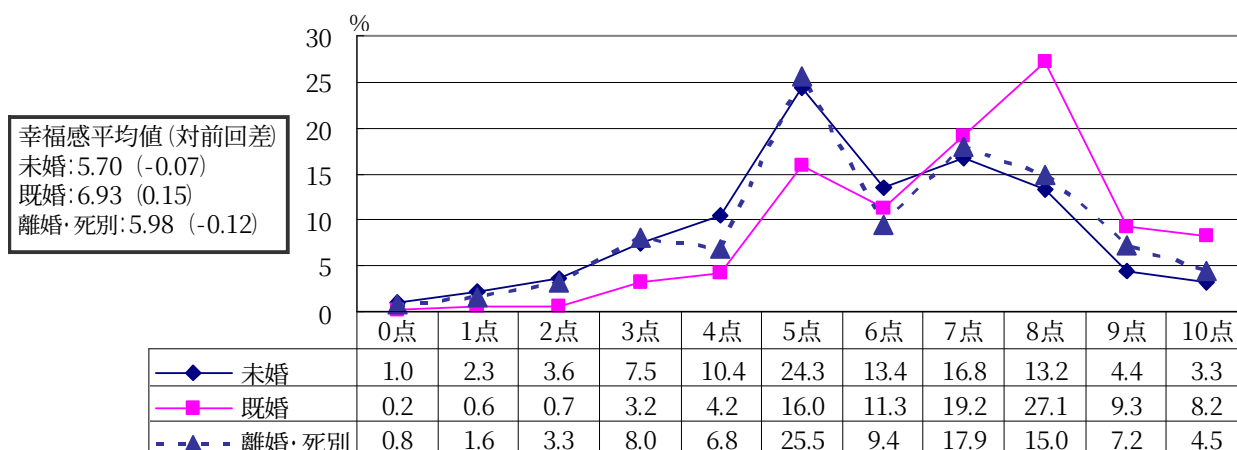
図表2-1-7 日ごろ感じている幸福感的の平均値と分布(主な職業別)



結婚別では、既婚が6.93点と最も高く、次いで離婚・死別が5.98点、未婚が5.70点となっています。前回調査と比較すると、既婚は0.15点高くなっている一方、未婚、離婚・死別は低くなっています。

分布をみると、既婚は8点が27.1%と最も高くなっているのに対し、未婚、離婚・死別は5点がそれぞれ24.3%、25.5%と最も高くなっています。また、既婚は7点以上が63.8%であるのに対し、未婚は37.7%にとどまっています。

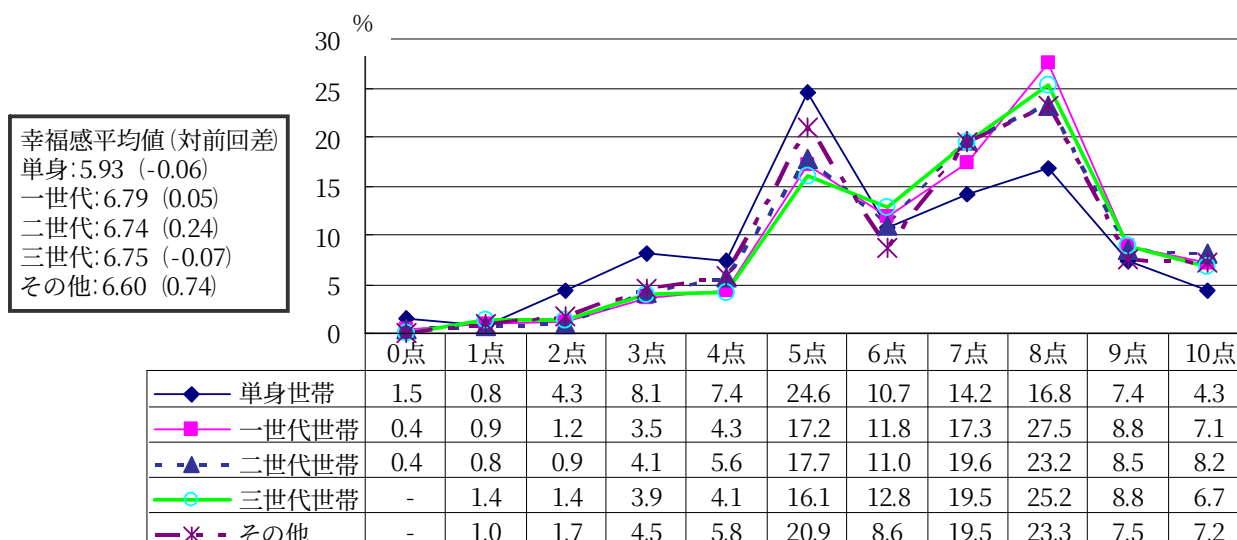
図表2-1-8 日ごろ感じている幸福感的の平均値と分布(結婚別)



世帯構成別では、一世代世帯、二世帯世帯、三世帯世帯のいずれも6.7点台であるのに対し、単身世帯は5.93点と低くなっています。

分布をみると、単身世帯を除くすべての世帯で8点が最も高くなっており、7点以上の割合が約6割となっています。一方、単身世帯は5点が最も高くなっており、7点以上の割合が42.7%にとどまっています。

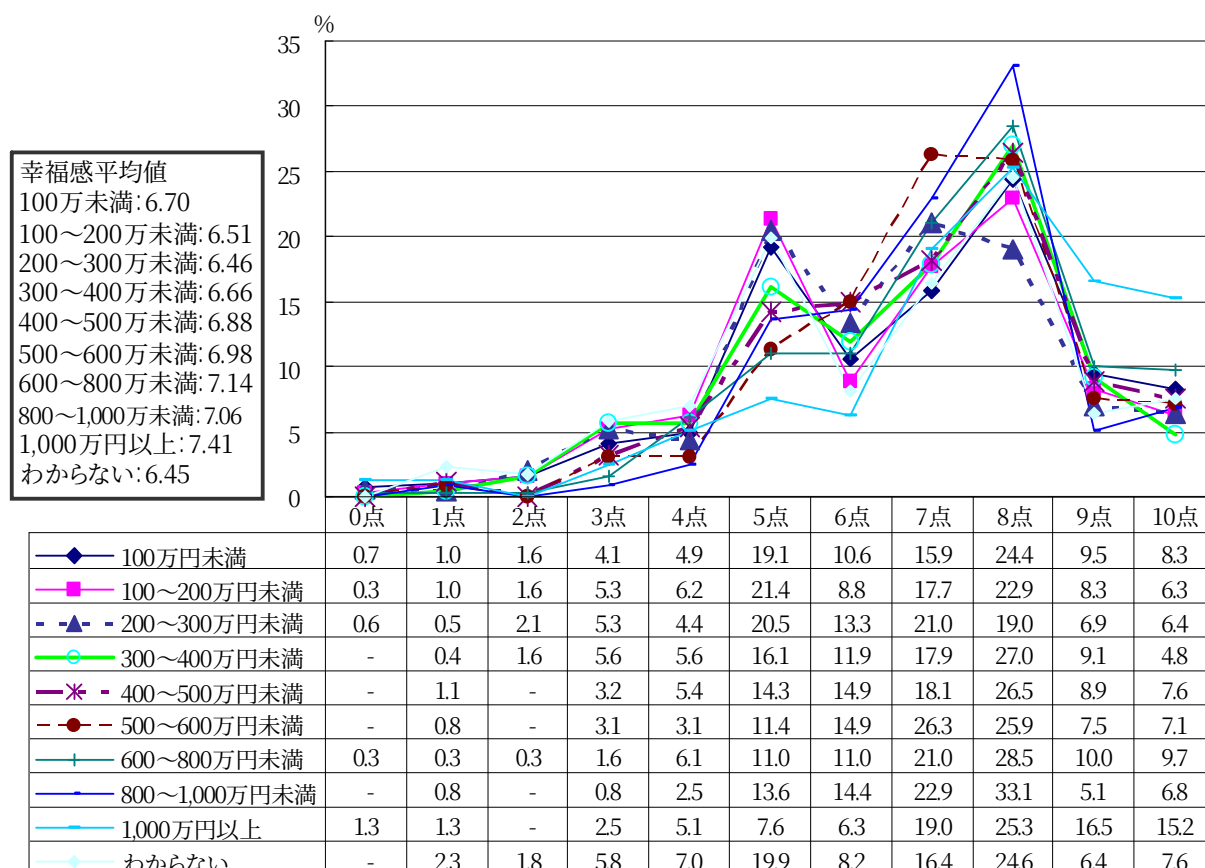
図表2-1-9 日ごろ感じている幸福感的の平均値と分布(世帯構成別)



本人の年間収入別では、1,000万円以上の層が7.41点と最も高く、次いで600万円から800万円未満の層が7.14点、800万円から1,000万円未満の層が7.06点となっており、600万円以上の層は7点台となっています。

分布をみると、200万円から300万円未満の層、500万円から600万円未満の層を除くすべての層で8点が最も高くなっています。また400万円未満の層は7点以上が5割台であるのに対し、1,000万円以上の層は76.0%となっています。

図表2-1-10 日ごろ感じている幸福感の平均値と分布(本人の年間収入別)



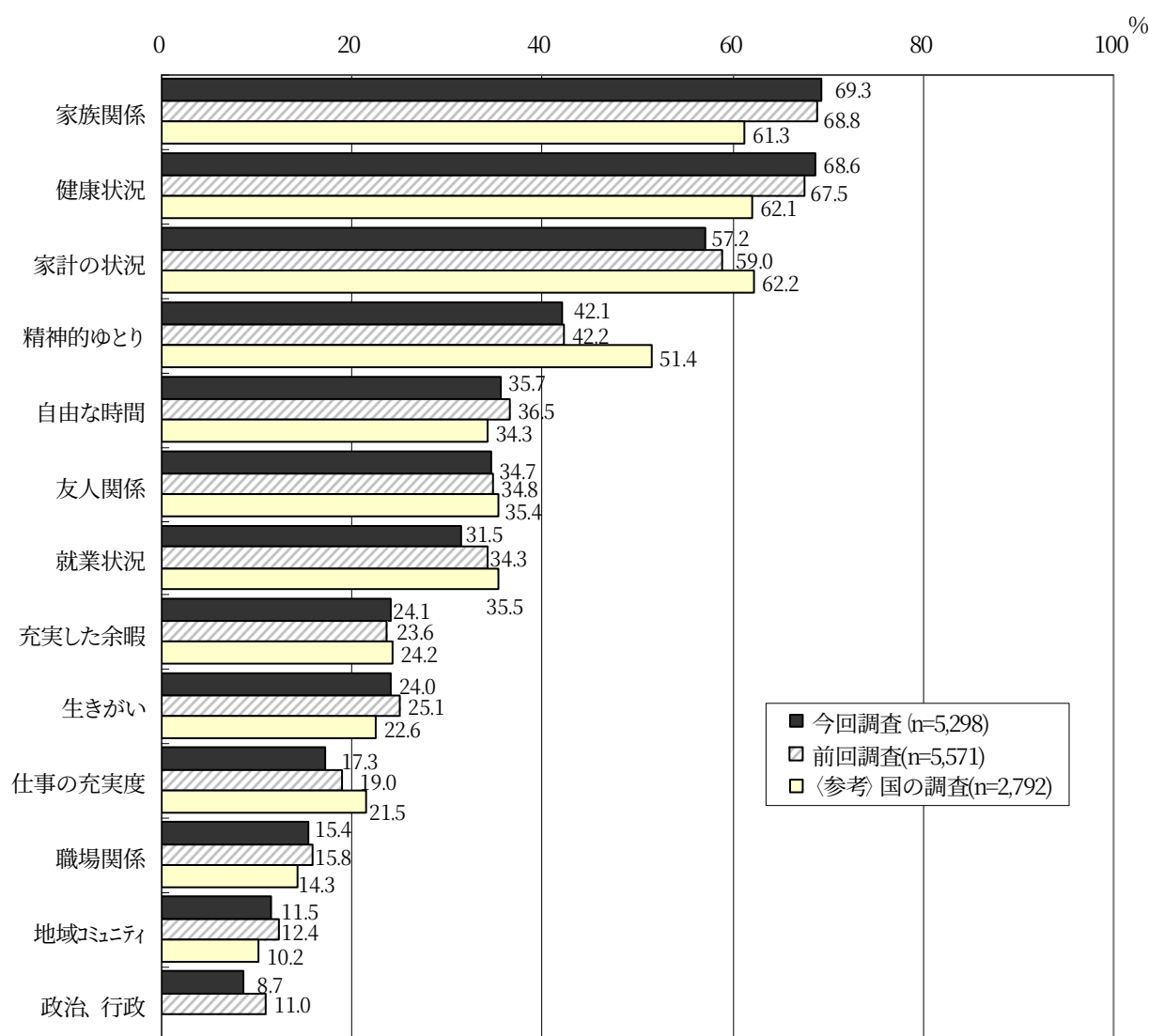
問1－2 幸福感を判断する際に、重視した事項は何ですか。次の中からあてはまるものすべてに○をつけてください。(○はいくつでも)

幸福感を判断する際に重視した事項では、「家族関係」が69.3%と最も高く、次いで「健康状況」(68.6%)、「家計の状況(所得・消費)」(57.2%)となっています。

前回調査と比較すると、「生きがい」(前回：8位、今回：9位)と「充実した余暇」(前回：9位、今回：8位)で順位の入れ替わりが見られたものの、特に大きな変化はみられません。

なお、国の調査との比較では、「家族関係」は県の今回調査の方が8.0ポイント高く、「精神的なゆとり」は国の調査の方が9.3ポイント高くなっています。

図表 2-1-11 幸福感を判断する際に重視した事項〔複数回答〕



※国の調査では、「政治、行政」の選択肢はありません。

※国の調査・・・平成23年度国民生活選好度調査（内閣府、平成24年3月実施）

地域別では、すべての地域で「家族関係」が最も高く、上位4位までは同じ項目となっています。

前回調査と比較すると東紀州地域は「家族関係」が10.4ポイント低くなっています。また、5位は北勢地域が「友人関係」から「自由な時間」に、中南勢地域は「自由な時間」から「友人関係」にそれぞれ変わっています。

図表2-1-12 幸福感を判断する際に重視した事項(複数回答)(地域別上位5項目)

(単位:% カッコ内は対前回差)

地域	1位	2位	3位	4位	5位
北勢地域	健康状況 家族関係 69.5 69.5	(1.9) (0.8)	家計の状況 59.2 (-1.0)	精神的ゆとり 42.1 (-1.5)	自由な時間 36.2 (1.6)
伊賀地域	家族関係 70.1 (-1.1)	健康状況 68.8 (-2.1)	家計の状況 57.4 (0.3)	精神的ゆとり 44.6 (4.0)	自由な時間 37.3 (0.5)
中南勢地域	家族関係 70.3 (0.9)	健康状況 69.3 (1.2)	家計の状況 55.8 (-4.0)	精神的ゆとり 41.9 (1.2)	友人関係 34.6 (2.0)
伊勢志摩地域	家族関係 67.9 (2.3)	健康状況 66.8 (2.2)	家計の状況 54.8 (0.3)	精神的ゆとり 42.3 (0.1)	自由な時間 35.5 (-2.4)
東紀州地域	家族関係 61.7 (-10.4)	健康状況 58.4 (-6.7)	家計の状況 51.7 (-9.2)	精神的ゆとり 37.3 (-3.6)	自由な時間 35.4 (-5.1)

性別では、男性は「健康状況」(67.6%)、女性は「家族関係」(72.9%)が最も高く、上位4位までは同じ項目となっていますが、5位は男性が「自由な時間」、女性は「友人関係」となっています。

前回調査と比較すると、男性の5位が「就業状況」から「自由な時間」に変わっています。

図表2-1-13 幸福感を判断する際に重視した事項(複数回答)(性別上位5項目)

(単位:% カッコ内は対前回差)

性別	1位	2位	3位	4位	5位
男性	健康状況 67.6 (0.6)	家族関係 65.5 (-0.1)	家計の状況 56.9 (-3.2)	精神的ゆとり 39.5 (-1.5)	自由な時間 33.4 (1.3)
女性	家族関係 72.9 (1.1)	健康状況 69.7 (1.5)	家計の状況 58.0 (-0.4)	精神的ゆとり 44.5 (0.9)	友人関係 41.1 (-0.1)

年代別では、20歳代から40歳代までは「家族関係」、50歳代以上は「健康状況」が最も高くなっています。20歳代は「友人関係」が54.3%と年代の中で最も高く、2位となっています。

前回調査と比較すると、50歳代の1位が「家族関係」から「健康状況」に変わっています。また、40歳代は「就業状況」が前回調査の4位から今回調査では5位になっている一方、「精神的ゆとり」が5位から4位になっています。

図表2-1-14 幸福感を判断する際に重視した事項(複数回答)(年代別上位5項目)

(単位:% カッコ内は対前回差)

年代	1位	2位	3位	4位	5位
20歳代	家族関係 61.9 (1.4)	友人関係 54.3 (2.3)	健康状況 53.0 (3.9)	家計の状況 48.6 (-0.7)	就業状況 47.3 (0.6)
30歳代	家族関係 73.3 (-0.9)	健康状況 63.0 (0.8)	家計の状況 60.4 (-0.6)	就業状況 46.0 (0.7)	精神的ゆとり 40.5 (-2.7)
40歳代	家族関係 74.1 (1.5)	健康状況 69.8 (1.3)	家計の状況 67.1 (-1.9)	精神的ゆとり 46.3 (6.0)	就業状況 43.5 (-7.2)
50歳代	健康状況 74.0 (4.5)	家族関係 73.3 (2.2)	家計の状況 67.0 (-1.4)	就業状況 47.7 (-1.5)	精神的ゆとり 46.6 (4.1)
60歳代	健康状況 73.2 (2.1)	家族関係 67.8 (1.1)	家計の状況 57.3 (-2.5)	精神的ゆとり 41.6 (-3.3)	自由な時間 39.8 (2.1)
70歳代以上	健康状況 66.1 (-4.6)	家族関係 65.0 (-1.0)	自由な時間 45.6 (-5.8)	家計の状況 43.7 (-2.0)	友人関係 37.1 (-2.2)

性・年代別について、20歳代の男性は、「家計の状況」（前回：1位、今回：4位）、「就業状況」（前回：3位、今回：5位）、「友人関係」（前回：4位、今回1位）など、順位の変動が見られます。

20歳代、30歳代の女性は、「就業状況」が今回調査ではそれぞれ5位、4位に入っている一方、「精神的ゆとり」（前回調査でそれぞれ3位、5位）が上位5項目から外れています。

図表2-1-15 幸福感を判断する際に重視した事項（複数回答）（男性・年代別上位5項目）（単位：％、カッコ内は対前回差）

男性・年代	1位	2位	3位	4位	5位
20歳代	家族関係 友人関係	53.1 (2.0) 53.1 (4.2)	健康状況 51.0 (2.1)	家計の状況 49.7 (-1.4)	精神的ゆとり 49.0(5.2) 就業状況 49.0(-0.4)
30歳代	家族関係 64.4 (-2.3)	家計の状況 57.9 (-3.8)	健康状況 54.8 (-3.5)	就業状況 46.7 (-1.3)	精神的ゆとり 35.6 (-6.5)
40歳代	家族関係 68.6 (-0.1)	健康状況 62.9 (-1.6)	家計の状況 62.6 (-6.4)	就業状況 43.7 (-6.7)	精神的ゆとり 41.4 (4.3)
50歳代	健康状況 70.2 (3.6)	家族関係 69.3 (2.7)	家計の状況 63.3 (-4.6)	就業状況 50.9 (-2.6)	精神的ゆとり 42.0 (-0.2)
60歳代	健康状況 75.3 (3.5)	家族関係 66.8 (-0.9)	家計の状況 57.3 (-5.3)	精神的ゆとり 39.2 (-5.6)	自由な時間 37.2 (5.3)
70歳代以上	健康状況 70.4 (-2.9)	家族関係 62.9 (-1.6)	家計の状況 49.1 (1.1)	自由な時間 42.5 (-3.4)	精神的ゆとり 35.7 (-1.3)

図表2-1-16 幸福感を判断する際に重視した事項（複数回答）（女性・年代別上位5項目）（単位：％、カッコ内は対前回差）

女性・年代	1位	2位	3位	4位	5位
20歳代	家族関係 69.4 (0.2)	友人関係 55.3 (0.2)	健康状況 54.7 (5.7)	家計の状況 47.6 (0.1)	就業状況 45.9 (2.0)
30歳代	家族関係 79.3 (-0.7)	健康状況 68.5 (3.3)	家計の状況 62.1 (1.6)	就業状況 45.5 (2.2)	友人関係 45.0 (-1.0)
40歳代	家族関係 77.9 (2.4)	健康状況 74.5 (3.1)	家計の状況 70.1 (1.1)	精神的ゆとり 49.6 (6.9)	就業状況 43.2 (-7.6)
50歳代	健康状況 77.8 (5.6)	家族関係 77.2 (2.0)	家計の状況 70.8 (1.9)	精神的ゆとり 51.2 (8.5)	就業状況 44.8 (-0.5)
60歳代	健康状況 71.6 (1.2)	家族関係 68.8 (2.9)	家計の状況 57.3 (0.2)	精神的ゆとり 43.6 (-1.3)	自由な時間 42.4 (-1.1)
70歳代以上	家族関係 67.3 (-0.1)	健康状況 62.5 (-5.4)	自由な時間 48.2 (-9.5)	友人関係 42.7 (-5.7)	家計の状況 39.3 (-4.3)

主な職業別について、前回調査と比較すると、学生は「健康状況」が10.8ポイント高くなり、前回調査の5位から2位となっています。また、農林水産業は「家族関係」が前回調査の2位から1位となっています。

図表2-1-17 幸福感を判断する際に重視した事項（複数回答）（主な職業別上位5項目）（単位：％、カッコ内は対前回差）

主な職業	1位	2位	3位	4位	5位
農林水産業	家族関係 71.1 (3.8)	健康状況 65.3 (-4.0)	家計の状況 56.1 (4.4)	精神的ゆとり 42.2 (1.7)	自由な時間 38.2 (2.6)
自営業、自由業	健康状況 71.8 (2.8)	家族関係 68.8 (0.4)	家計の状況 59.4 (-0.7)	精神的ゆとり 41.0 (-1.0)	就業状況 37.6 (-4.9)
正規職員	家族関係 71.1 (1.1)	健康状況 67.6 (0.8)	家計の状況 62.7 (-3.9)	就業状況 50.5 (-3.1)	精神的ゆとり 42.3 (0.9)
パート・アルバイト・派遣	家族関係 72.8 (6.0)	健康状況 71.4 (6.1)	家計の状況 61.9 (-0.2)	就業状況 45.1 (-3.1)	精神的ゆとり 44.3 (4.4)
その他の職業	家族関係 71.5 (6.8)	健康状況 64.0 (0.0)	家計の状況 59.5 (1.5)	精神的ゆとり 46.5 (7.2)	就業状況 44.5 (7.8)
学生	友人関係 65.7 (-1.8)	健康状況 62.7 (10.8)	家族関係 56.7 (-8.2)	自由な時間 55.2 (-0.6)	精神的ゆとり 52.2 (-7.5)
専業主婦・主夫	家族関係 75.8 (-3.0)	健康状況 71.8 (-0.3)	家計の状況 60.4 (-0.2)	精神的ゆとり 46.2 (0.1)	友人関係 42.4 (0.6)
無職	健康状況 66.4 (-2.7)	家族関係 61.6 (-2.5)	自由な時間 47.2 (-2.9)	家計の状況 46.9 (-2.8)	精神的ゆとり 37.5 (-5.6)

結婚別では、既婚は「家族関係」、未婚、離婚・死別は「健康状況」が最も高くなっています。特に既婚は「家族関係」が74.8%と高くなっています。未婚は「就業状況」が46.4%で、5位となっています。

図表2-1-18 幸福感を判断する際に重視した事項(複数回答)(結婚別上位5項目) (単位:% カッコ内は対前回差)

結婚	1位	2位	3位	4位	5位
未婚	健康状況 59.5 (1.7)	家計の状況 51.1 (-4.2)	家族関係 51.0 (1.7)	精神的ゆとり 46.9 (-1.5)	就業状況 46.4 (-1.6)
既婚	家族関係 74.8 (1.0)	健康状況 71.2 (1.3)	家計の状況 60.5 (-0.9)	精神的ゆとり 42.3 (0.8)	自由な時間 33.3 (-1.2)
離婚・死別	健康状況 64.1 (0.1)	家族関係 54.1 (-4.5)	家計の状況 51.8 (1.1)	自由な時間 40.6 (-4.2)	精神的ゆとり 39.6 (-2.6)

世帯構成別では、単身世帯、一世代世帯は「健康状況」、二世代世帯、三世代世帯は「家族関係」が最も高くなっています。一世代世帯は「健康状況」が2位から1位に変わっています。また、単身世帯は、「家族関係」が44.0%と他の世帯構成に比べて低く、4位となっています。

図表2-1-19 幸福感を判断する際に重視した事項(複数回答)(世帯構成別上位5項目) (単位:% カッコ内は対前回差)

世帯構成	1位	2位	3位	4位	5位
単身世帯	健康状況 62.3 (-4.7)	家計の状況 49.8 (-1.9)	自由な時間 45.0 (-2.8)	家族関係 44.0 (0.2)	精神的ゆとり 40.0 (-7.0)
一世代世帯	健康状況 70.8 (0.2)	家族関係 68.2 (-2.6)	家計の状況 54.2 (-5.1)	精神的ゆとり 40.4 (-2.6)	自由な時間 39.7 (-1.7)
二世代世帯	家族関係 72.4 (3.2)	健康状況 68.9 (2.7)	家計の状況 61.4 (0.2)	精神的ゆとり 43.3 (1.4)	就業状況 37.6 (-2.7)
三世代世帯	家族関係 77.2 (0.0)	健康状況 70.1 (2.3)	家計の状況 58.6 (1.3)	精神的ゆとり 44.0 (4.1)	友人関係 37.2 (-0.5)
その他	家族関係 70.8 (5.8)	健康状況 63.6 (7.3)	家計の状況 51.5 (-2.3)	精神的ゆとり 42.3 (-5.2)	自由な時間 37.1 (0.8)

本人の年間収入別では、100万円未満の層、400万円から1,000万円未満の層は「家族関係」、100万円から400万円未満の層、1,000万円以上の層は「健康状況」が最も高くなっています。800万円以上の層は「家計の状況」が2位、「仕事の充実度」が5位となっています。また、400万円以上の層は「就業状況」が4位となっています。

図表2-1-20 幸福感を判断する際に重視した事項(複数回答)(本人の年間収入別上位5項目) (単位:% カッコ内は対前回差)

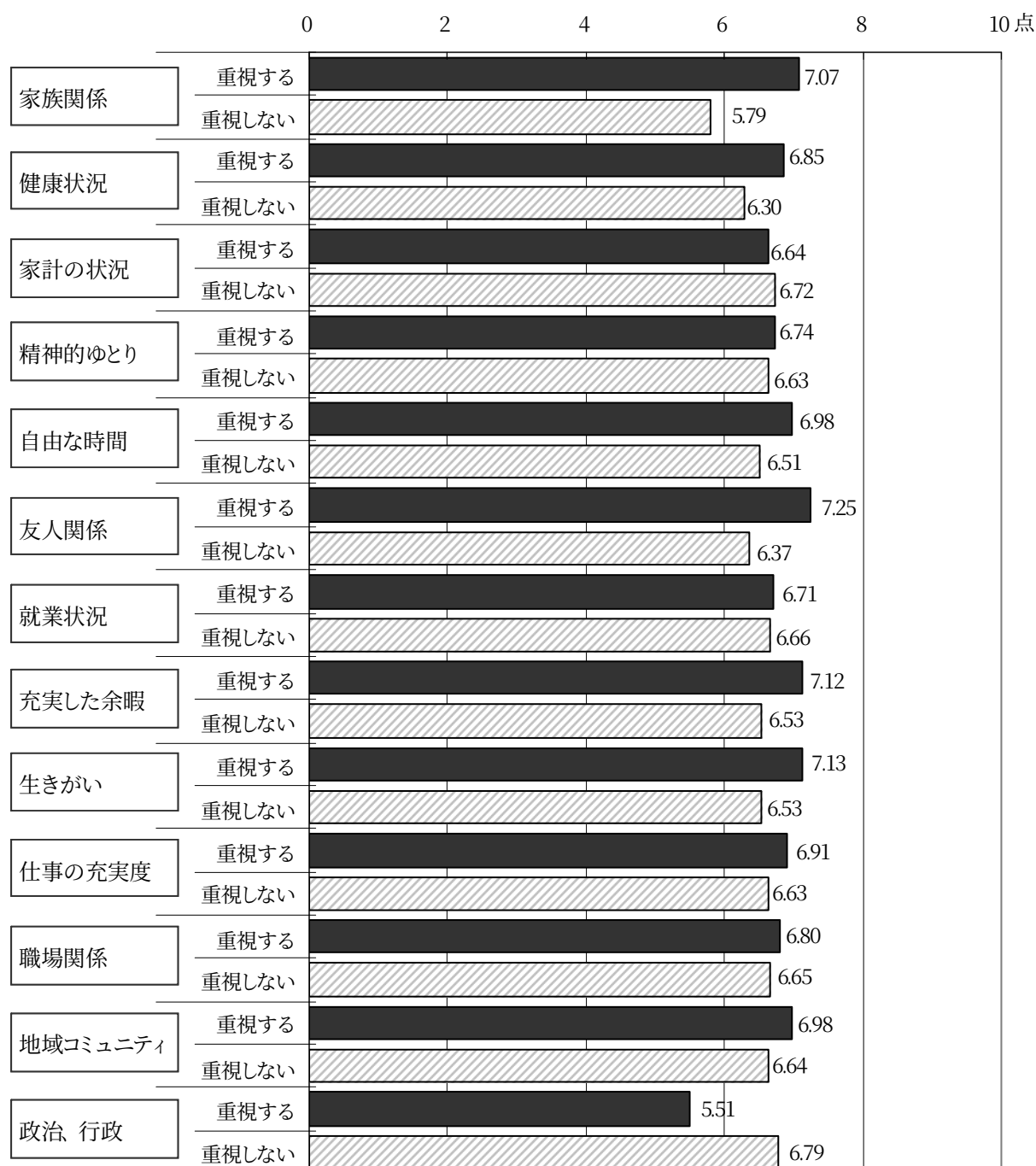
本人の年間収入	1位	2位	3位	4位	5位
100万円未満	家族関係 70.9 (-)	健康状況 67.3 (-)	家計の状況 55.7 (-)	精神的ゆとり 44.2 (-)	友人関係 39.0 (-)
100万円～200万円未満	健康状況 67.5 (-)	家族関係 65.6 (-)	家計の状況 54.1 (-)	自由な時間 42.1 (-)	精神的ゆとり 39.7 (-)
200万円～300万円未満	健康状況 69.7 (-)	家族関係 66.5 (-)	家計の状況 54.5 (-)	精神的ゆとり 44.4 (-)	自由な時間 37.9 (-)
300万円～400万円未満	健康状況 71.2 (-)	家族関係 70.6 (-)	家計の状況 60.1 (-)	精神的ゆとり 40.3 (-)	就業状況 38.9 (-)
400万円～500万円未満	家族関係 72.4 (-)	健康状況 70.0 (-)	家計の状況 65.1 (-)	就業状況 43.7 (-)	精神的ゆとり 42.4 (-)
500万円～600万円未満	家族関係 72.4 (-)	健康状況 69.3 (-)	家計の状況 66.3 (-)	就業状況 44.4 (-)	精神的ゆとり 42.5 (-)
600万円～800万円未満	家族関係 75.6 (-)	健康状況 72.1 (-)	家計の状況 67.9 (-)	就業状況 49.2 (-)	精神的ゆとり 45.7 (-)
800万円～1,000万円未満	家族関係 80.8 (-)	家計の状況 73.3 (-)	健康状況 72.5 (-)	就業状況 60.8 (-)	仕事の充実度 40.8 (-)
1,000万円以上	健康状況 75.0 (-)	家計の状況 72.5 (-)	家族関係 70.0 (-)	就業状況 50.0 (-)	仕事の充実度 45.0 (-)
わからない	家族関係 65.5 (-)	健康状況 63.2 (-)	家計の状況 46.2 (-)	自由な時間 39.2 (-)	精神的ゆとり 38.0 (-)

（幸福感を判断する際に重視した事項と幸福感との関係について）

幸福感を判断する際に重視した事項について、選択した（重視する）人の幸福感の平均値と、選択しなかった（重視しない）人の幸福感の平均値を比較したところ、「家計の状況」と「政治、行政」を除き、選択した（重視する）人の平均値が選択しなかった（重視しない）人の平均値より高くなっています。最も差が大きいのは、「家族関係」で、選択した（重視する）人が7.07点で、選択しなかった人（5.79点）より1.28点高くなっています。

一方、「家計の状況」と「政治、行政」は選択した（重視する）人の平均値が選択しなかった（重視しない）人の平均値より低く、特に「政治、行政」は選択した（重視する）人の平均値（5.51点）が、選択しなかった（重視しない）人の平均値（6.79点）より1.28点低くなっています。

図表2-1-21 幸福感を判断する際に重視した事項を選択した（重視する）人と選択しない（重視しない）人の幸福感の平均値

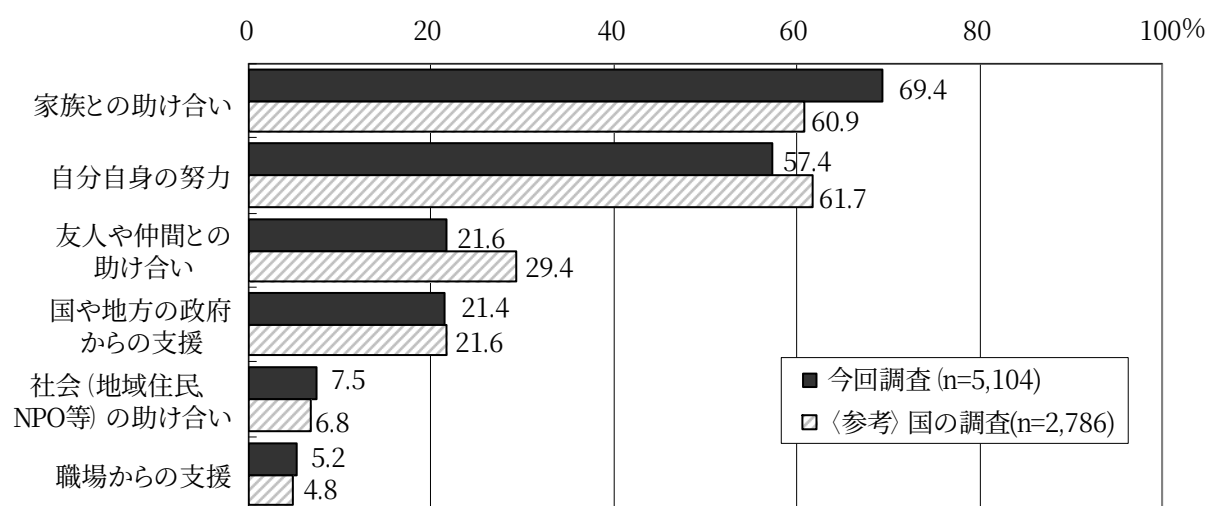


問1－3 あなたの幸福感を高めるために有効な手立ては何ですか。次の中から、あなたのお考えにもっとも近いものに2つまで○をつけてください。(○は2つまで)

幸福感を高める手立てでは、「家族との助け合い」が 69.4%と最も高く、次いで「自分自身の努力」(57.4%)となっています。一方、「社会(地域住民、NPO等)の助け合い」、「職場からの支援」はそれぞれ 7.5%、5.2%となっています。

国の調査との比較では、「家族との助け合い」は県の調査(69.4%)が国の調査(60.9%)より 8.5 ポイント高く、「友人や仲間との助け合い」は国の調査(29.4%)が県の調査(21.6%)より 7.8 ポイント高くなっています。

図表2-1-22 幸福感を高める手立て(2つまでの複数回答)(国との比較)



※国の調査・・・平成23年度国民生活選好度調査(内閣府、平成24年3月実施)

地域別では、すべての地域で「家族との助け合い」が最も高く、次いで「自分自身の努力」となっており、上位2位までは同じ項目となっています。北勢地域、伊賀地域、伊勢志摩地域は3位が「国や地方の政府からの支援」、4位が「友人や仲間との助け合い」となっており、中南勢地域、東紀州地域は3位が「友人や仲間との助け合い」、4位が「国や地方の政府からの支援」となっています。

図表2-1-23 幸福感を高める手立て(2つまでの複数回答)(地域別上位5項目) (%)

地域	1位	2位	3位	4位	5位
北勢地域	家族との助け合い 70.8	自分自身の努力 56.9	国や地方の政府からの支援 22.1	友人や仲間との助け合い 21.7	社会(地域住民、NPO等)の助け合い 7.1
伊賀地域	家族との助け合い 70.8	自分自身の努力 58.4	国や地方の政府からの支援 19.8	友人や仲間との助け合い 19.5	社会(地域住民、NPO等)の助け合い 7.6
中南勢地域	家族との助け合い 67.2	自分自身の努力 59.1	友人や仲間との助け合い 22.5	国や地方の政府からの支援 19.5	社会(地域住民、NPO等)の助け合い 8.7
伊勢志摩地域	家族との助け合い 69.2	自分自身の努力 56.6	国や地方の政府からの支援 24.2	友人や仲間との助け合い 20.6	社会(地域住民、NPO等)の助け合い 6.6
東紀州地域	家族との助け合い 65.0	自分自身の努力 52.5	友人や仲間との助け合い 22.0	国や地方の政府からの支援 21.5	社会(地域住民、NPO等)の助け合い 7.0

性別では、男女とも「家族との助け合い」が最も高く、次いで「自分自身の努力」となっています。男性は3位が「国や地方の政府からの支援」、女性は「友人や仲間との助け合い」となっています。

図表2-1-24 幸福感を高める手立て(2つまでの複数回答)(性別上位5項目) (%)

性別	1位	2位	3位	4位	5位
男性	家族との助け合い 65.4	自分自身の努力 59.5	国や地方の政府からの支援 22.8	友人や仲間との助け合い 18.1	社会(地域住民、NPO等)の助け合い 8.8
女性	家族との助け合い 72.8	自分自身の努力 55.9	友人や仲間との助け合い 24.5	国や地方の政府からの支援 20.1	社会(地域住民、NPO等)の助け合い 6.3

年代別では、20歳代は「自分自身の努力」が最も高く、次いで「家族との助け合い」となっているのに対し、それ以外の年代は「家族との助け合い」が最も高く、次いで「自分自身の努力」となっています。また、20歳代と70歳以上は、「友人や仲間との助け合い」が3位となっており、特に20歳代は43.2%となっています。20歳代から40歳代までは5位が「職場からの支援」となっている一方、50歳代以上は「社会(地域住民、NPO等)の助け合い」となっています。

図表2-1-25 幸福感を高める手立て(2つまでの複数回答)(年代別上位5項目) (%)

年代	1位	2位	3位	4位	5位
20歳代	自分自身の努力 59.9	家族との助け合い 49.7	友人や仲間との助け合い 43.2	国や地方の政府からの支援 16.8	職場からの支援 11.0
30歳代	家族との助け合い 68.2	自分自身の努力 54.6	国や地方の政府からの支援 24.4	友人や仲間との助け合い 23.0	職場からの支援 9.0
40歳代	家族との助け合い 67.8	自分自身の努力 57.0	国や地方の政府からの支援 25.4	友人や仲間との助け合い 17.8	職場からの支援 10.7
50歳代	家族との助け合い 72.1	自分自身の努力 53.8	国や地方の政府からの支援 23.2	友人や仲間との助け合い 17.1	社会(地域住民、NPO等)の助け合い 7.8
60歳代	家族との助け合い 71.9	自分自身の努力 60.0	国や地方の政府からの支援 20.4	友人や仲間との助け合い 19.0	社会(地域住民、NPO等)の助け合い 8.4
70歳以上	家族との助け合い 71.4	自分自身の努力 59.7	友人や仲間との助け合い 24.1	国や地方の政府からの支援 17.2	社会(地域住民、NPO等)の助け合い 10.6

主な職業別では、学生を除くすべての職業で「家族との助け合い」が最も高く、次いで「自分自身の努力」となっています。特に専業主婦・主夫は「家族との助け合い」が80.2%で、職業の中で最も高くなっています。一方、学生は「自分自身の努力」(71.0%)が最も高く、次いで「友人や仲間との助け合い」となっています。また、正規職員は5位が「職場からの支援」(12.2%)となっています。

図表2-1-26 幸福感を高める手立て(2つまでの複数回答)(主な職業別上位5項目)

(%)

主な職業	1位	2位	3位	4位	5位
農林水産業	家族との助け合い 70.8	自分自身の努力 65.5	国や地方の政府からの支援 23.2	友人や仲間との助け合い 17.3	社会(地域住民、NPO等)の助け合い 10.7
自営業 自由業	家族との助け合い 69.7	自分自身の努力 62.7	友人や仲間との助け合い 22.0	国や地方の政府からの支援 19.1	社会(地域住民、NPO等)の助け合い 6.3
正規職員	家族との助け合い 67.2	自分自身の努力 55.5	国や地方の政府からの支援 21.4	友人や仲間との助け合い 20.1	職場からの支援 12.2
パート・バイト・派遣	家族との助け合い 68.1	自分自身の努力 58.1	国や地方の政府からの支援 25.4	友人や仲間との助け合い 19.3	社会(地域住民、NPO等)の助け合い 6.8
その他の職業	家族との助け合い 63.8	自分自身の努力 59.6	友人や仲間との助け合い 29.3	国や地方の政府からの支援 20.7	職場からの支援 6.9
学生	自分自身の努力 71.0	友人や仲間との助け合い 56.5	家族との助け合い 41.9	国や地方の政府からの支援 11.3	社会(地域住民、NPO等)の助け合い 4.8
専業主婦・主夫	家族との助け合い 80.2	自分自身の努力 53.5	友人や仲間との助け合い 23.2	国や地方の政府からの支援 20.4	社会(地域住民、NPO等)の助け合い 7.0
無職	家族との助け合い 68.5	自分自身の努力 57.0	国や地方の政府からの支援 21.1	友人や仲間との助け合い 20.5	社会(地域住民、NPO等)の助け合い 12.1

結婚別では、既婚は「家族との助け合い」が最も高く、未婚、離婚・死別は「自分自身の努力」が最も高くなっています。特に既婚は「家族との助け合い」が75.0%で、未婚、離婚・死別と比べて10ポイント以上高くなっています。また、既婚、離婚・死別は3位が「国や地方の政府からの支援」となっています。一方、未婚は3位が「友人や仲間との助け合い」(38.1%)で、既婚、離婚・死別より10ポイント以上高くなっているほか、5位が「職場の支援」(10.6%)となっています。

図表2-1-27 幸福感を高める手立て(2つまでの複数回答)(結婚別上位5項目)

(%)

結婚	1位	2位	3位	4位	5位
未婚	自分自身の努力 64.0	家族との助け合い 41.8	友人や仲間との助け合い 38.1	国や地方の政府からの支援 21.3	職場からの支援 10.6
既婚	家族との助け合い 75.0	自分自身の努力 55.9	国や地方の政府からの支援 21.2	友人や仲間との助け合い 18.2	社会(地域住民、NPO等)の助け合い 7.7
離婚・死別	自分自身の努力 60.7	家族との助け合い 57.3	国や地方の政府からの支援 25.9	友人や仲間との助け合い 25.7	社会(地域住民、NPO等)の助け合い 7.4

世帯構成別では、単身世帯を除くすべての世帯は「家族との助け合い」が最も高くなっています。単身世帯は、「自分自身の努力」(67.6%)が最も高く、「家族との助け合い」が43.6%と他の世帯に比べて低くなっています。

図表2-1-28 幸福感を高める手立て〔2つまでの複数回答〕(世帯構成別上位5項目) (%)

世帯構成	1位	2位	3位	4位	5位
単身世帯	自分自身の努力 67.6	家族との助け合い 43.6	友人や仲間との助け合い 29.2	国や地方の政府からの支援 23.2	社会(地域住民、NPO等)の助け合い 8.9
一世代世帯	家族との助け合い 74.3	自分自身の努力 57.9	友人や仲間との助け合い 19.7	国や地方の政府からの支援 19.5	社会(地域住民、NPO等)の助け合い 8.1
二世帯世帯	家族との助け合い 69.4	自分自身の努力 56.6	国や地方の政府からの支援 22.7	友人や仲間との助け合い 20.5	社会(地域住民、NPO等)の助け合い 7.1
三世帯世帯	家族との助け合い 74.5	自分自身の努力 56.4	友人や仲間との助け合い 21.8	国や地方の政府からの支援 19.9	社会(地域住民、NPO等)の助け合い 7.2
その他	家族との助け合い 69.0	自分自身の努力 54.0	友人や仲間との助け合い 25.9	国や地方の政府からの支援 20.1	社会(地域住民、NPO等)の助け合い 7.7

本人の年間収入別では、1,000万円未満の層は「家族との助け合い」が最も高く、1,000万円以上の層は「自分自身の努力」が最も高くなっています。1,000万円以上の層は「友人や仲間との助け合い」(26.0%)が本人の年間収入別の層の中で最も高くなっている一方、「国や地方の政府からの支援」(10.4%)が最も低くなっています。

図表2-1-29 幸福感を高める手立て〔2つまでの複数回答〕(本人の年間収入別上位5項目) (%)

本人の年間収入	1位	2位	3位	4位	5位
100万円未満	家族との助け合い 72.3	自分自身の努力 54.4	国や地方の政府からの支援 23.1	友人や仲間との助け合い 22.6	社会(地域住民、NPO等)の助け合い 7.9
100～200万円未満	家族との助け合い 67.4	自分自身の努力 57.2	国や地方の政府からの支援 23.4	友人や仲間との助け合い 21.6	社会(地域住民、NPO等)の助け合い 8.8
200～300万円未満	家族との助け合い 66.4	自分自身の努力 58.3	友人や仲間との助け合い 23.1	国や地方の政府からの支援 20.7	社会(地域住民、NPO等)の助け合い 8.6
300～400万円未満	家族との助け合い 63.1	自分自身の努力 60.5	友人や仲間との助け合い 23.0	国や地方の政府からの支援 21.5	職場からの支援 8.4
400～500万円未満	家族との助け合い 69.1	自分自身の努力 61.2	友人や仲間との助け合い 20.8	国や地方の政府からの支援 18.3	職場からの支援 9.8
500～600万円未満	家族との助け合い 66.9	自分自身の努力 55.2	国や地方の政府からの支援 25.0	友人や仲間との助け合い 15.7	職場からの支援 11.3
600～800万円未満	家族との助け合い 73.0	自分自身の努力 66.1	国や地方の政府からの支援 18.2	友人や仲間との助け合い 14.7	社会(地域住民、NPO等)の助け合い 6.2
800～1,000万円未満	家族との助け合い 78.6	自分自身の努力 54.7	国や地方の政府からの支援 17.9	友人や仲間との助け合い 17.1	社会(地域住民、NPO等)の助け合い 9.4
1,000万円以上	自分自身の努力 71.4	家族との助け合い 67.5	友人や仲間との助け合い 26.0	国や地方の政府からの支援 10.4	職場からの支援 3.9
わからない	家族との助け合い 72.6	自分自身の努力 53.7	国や地方の政府からの支援 20.7	友人や仲間との助け合い 19.5	社会(地域住民、NPO等)の助け合い 7.3

2. 地域や社会の状況についての実感

「地域や社会の状況についての実感」は、平成24年度に策定した「みえ県民力ビジョン」で政策分野ごとに設定した16の「幸福実感指標」に対応した質問となっています。

「幸福実感指標」は、県民の皆さん一人ひとりが生活している中で感じる政策分野ごとの実感の推移を調べ、全体としての幸福実感を把握するための指標です。

なお、「幸福実感指標」とそれに関連する県の政策分野は以下のとおりです。

問2	幸福実感指標	関連する政策分野
(1)	災害等の危機への備えが進んでいると感じる県民の割合	危機管理
(2)	必要な医療サービスが利用できていると感じる県民の割合	命を守る
(3)	犯罪や事故が少なく、安全に暮らせていると感じる県民の割合	暮らしを守る
(4)	必要な福祉サービスが利用できていると感じる県民の割合	共生の福祉社会
(5)	身近な自然や環境を守る取組が広がっていると感じる県民の割合	環境を守る持続可能な社会
(6)	一人ひとりが尊重され、誰もが社会に参画できていると感じる県民の割合	人権の尊重と多様性を認め合う社会
(7)	子どものためになる教育が行われていると感じる県民の割合	教育の充実
(8)	地域社会の見守りの中で、子どもが元気に育っていると感じる県民の割合	子どもの育ちと子育て
(9)	スポーツを通じて夢や感動が育まれていると感じる県民の割合	スポーツの推進
(10)	自分の住んでいる地域に愛着があり、今後も住み続けたいと感じる県民の割合	地域との連携
(11)	文化芸術や地域の歴史等について、学び親しむことができると感じる県民の割合	文化と学び
(12)	三重県産の農林水産物を買いたいと感じる県民の割合	農林水産業
(13)	県内の産業活動が活発であると感じる県民の割合	強じんて多様な産業
(14)	働きたい人が仕事に就き、必要な収入を得ていると感じる県民の割合	雇用の確保
(15)	国内外に三重県の魅力が発信され、交流が進んでいると感じる県民の割合	世界に開かれた三重
(16)	道路や公共交通機関等が整っていると感じる県民の割合	安心と活力を生み出す基盤

問2 次の(1)から(16)までの16の質問それぞれについて、あなたの実感にもっとも近いものを1つだけ選んでください。(○はそれぞれ1つずつ)

地域や社会の状況についての実感聞いたところ、「実感している層」の割合は、『(12)三重県産の農林水産物を買いたい』が86.5%と最も高く、そのうち「感じる」も48.0%と最も高くなっています。次いで『(10)自分の住んでいる地域に愛着があり、今後も住み続けたい』(73.1%)、『(3)犯罪や事故が少なく、安全に暮らせている』(61.4%)となっています。

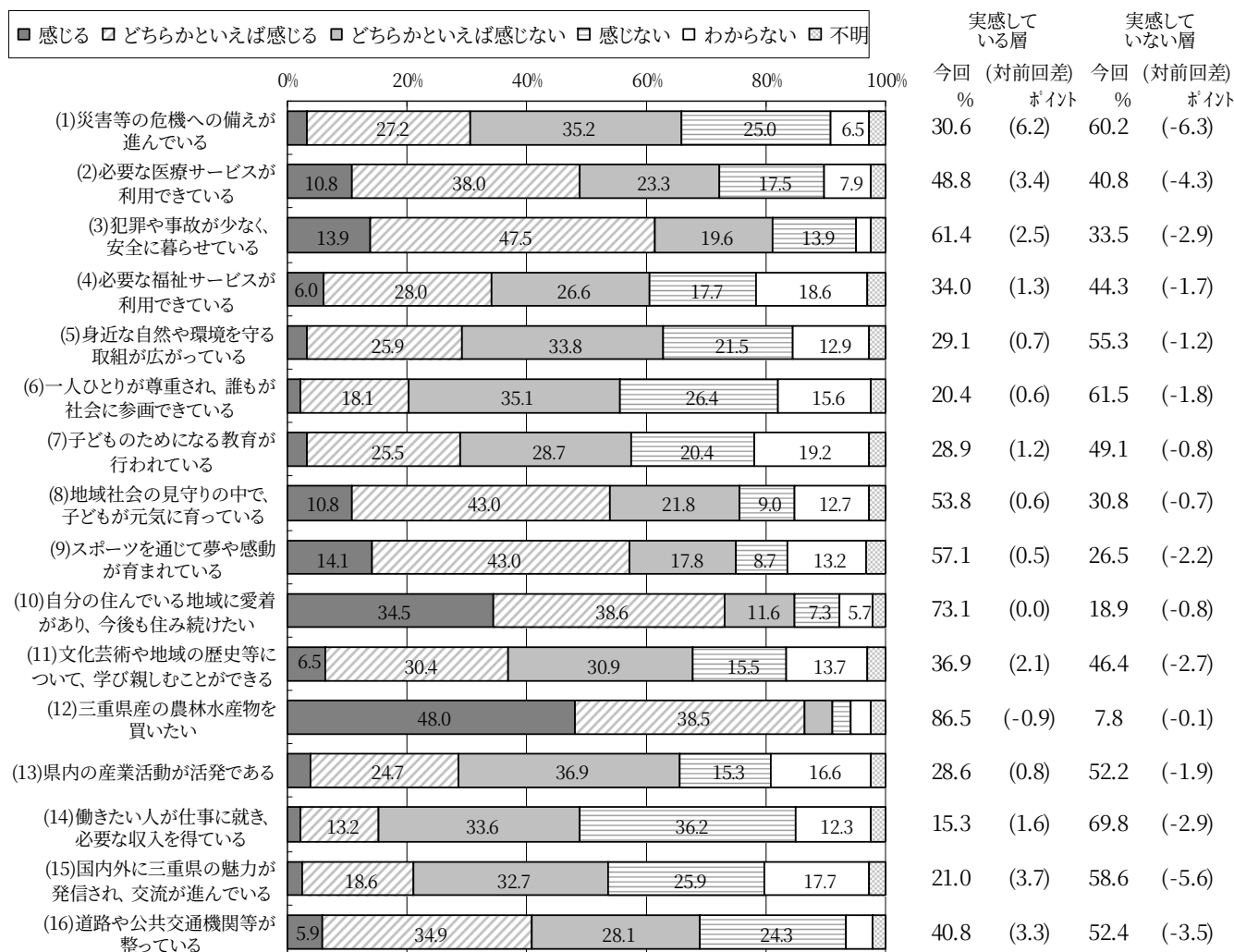
一方、「実感していない層」の割合は『(14)働きたい人が仕事に就き、必要な収入を得ている』が69.8%と最も高く、そのうち「感じない」も36.2%と最も高くなっています。次いで、『(6)一人ひとりが尊重され、誰もが社会に参画できている』(61.5%)、『(1)災害等の危機への備えが進んでいる』(60.2%)となっています。

前回調査と比較すると、「実感している層」の割合は『(12)三重県産の農林水産物を買いたい』を除いて、同率が高くなっています。前回調査との差で見ると、『(1)災害等の危機への備えが進んでいる』(+6.2ポイント)、『(15)国内外に三重県の魅力が発信され、交流が進んでいる』(+3.7ポイント)、『(2)必要な医療サービスが利用できている』(+3.4ポイント)の順に高くなっています。一方、「実感していない層」の割合は16項目すべてで低くなっています。

※「実感している層」の割合・・・「感じる」と「どちらかといえば感じる」の割合を小数点第2位で四捨五入した数値の合計

※「実感していない層」の割合・・・「感じない」と「どちらかといえば感じない」の割合を小数点第2位で四捨五入した数値の合計

図表2-2-1 地域や社会の状況についての実感(項目別)



地域別では、「実感している層」の割合は、すべての地域で『(12)三重県産の農林水産物を買いたい』が最も高く、次いで『(10)自分の住んでいる地域に愛着があり、今後も住み続けたい』となっており、順位は異なるものの上位5項目は同じ項目となっています。

一方、「実感していない層」はすべての地域で『(14)働きたい人が仕事に就き、必要な収入を得ている』が最も高く、『(6)一人ひとりが尊重され、誰もが社会に参画できている』と『(15)国内外に三重県の魅力が発信され、交流が進んでいる』の2項目も上位5項目に含まれています。

前回調査との差でみると、東紀州地域の『(16)道路や公共交通機関等が整っている』が「実感している層」の割合が11.2ポイント高く、「実感していない層」の割合が11.5ポイント低くなっています。また、伊勢志摩地域の『(15)国内外に三重県の魅力が発信され、交流が進んでいる』は、「実感していない層」の割合が10.7ポイント低くなっています。

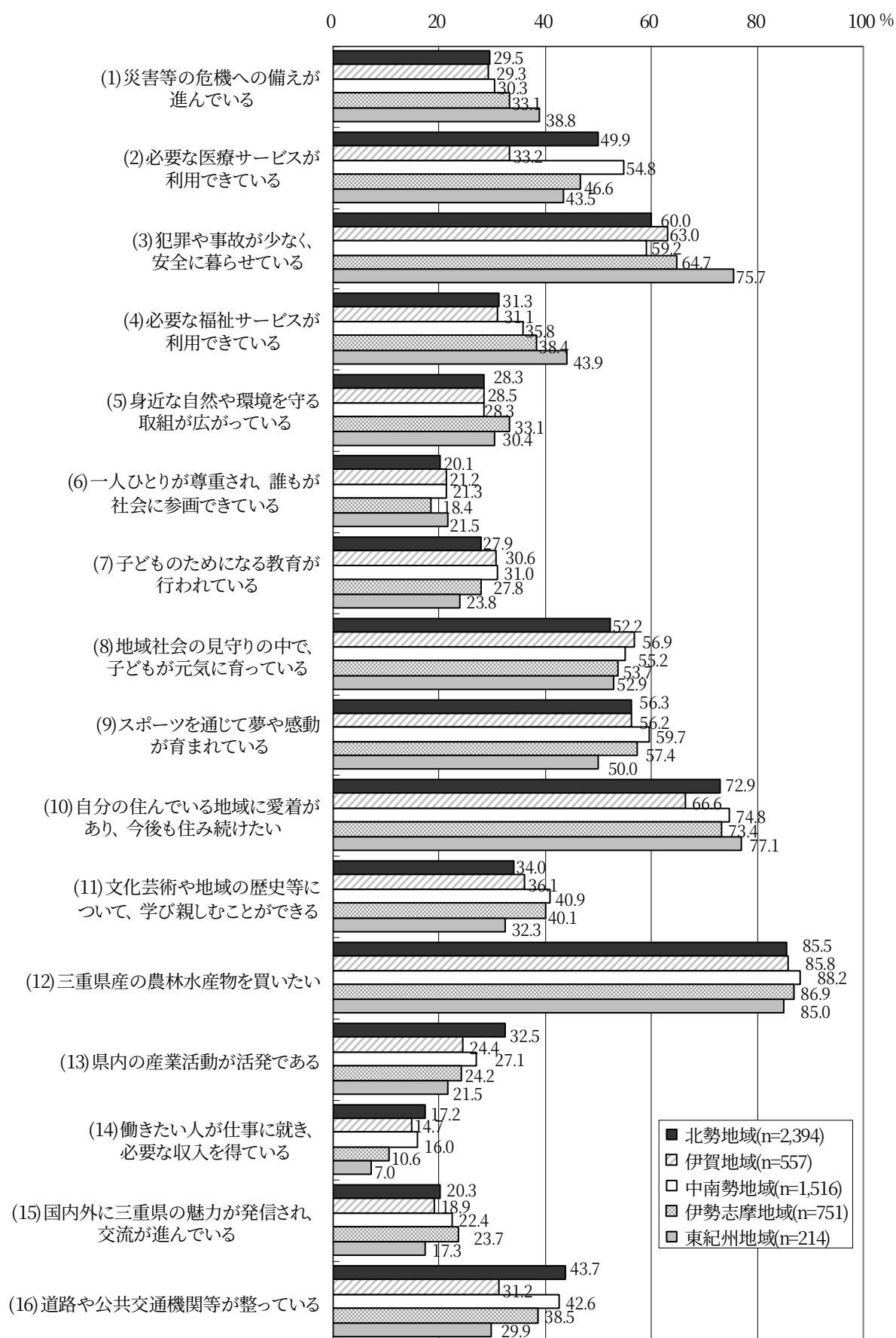
図表2-2-2 地域や社会の状況について「実感している層」の割合(地域別上位5項目) (%)

地域	1位	2位	3位	4位	5位
北勢地域	(12)三重県産の農林水産物を買いたい 85.5 (-1.5)	(10)自分の住んでいる地域に愛着があり、今後も住み続けたい 72.9 (-1.2)	(3)犯罪や事故が少なく、安全に暮らしている 60.0 (3.8)	(9)スポーツを通じて夢や感動が育まれている 56.3 (-2.2)	(8)地域社会の見守りの中で、子どもが元気に育っている 52.2 (-0.4)
伊賀地域	(12)三重県産の農林水産物を買いたい 85.8 (-1.3)	(10)自分の住んでいる地域に愛着があり、今後も住み続けたい 66.6 (-0.9)	(3)犯罪や事故が少なく、安全に暮らしている 63.0 (1.1)	(8)地域社会の見守りの中で、子どもが元気に育っている 56.9 (1.7)	(9)スポーツを通じて夢や感動が育まれている 56.2 (2.6)
中南勢地域	(12)三重県産の農林水産物を買いたい 88.2 (1.1)	(10)自分の住んでいる地域に愛着があり、今後も住み続けたい 74.8 (1.6)	(9)スポーツを通じて夢や感動が育まれている 59.7 (5.4)	(3)犯罪や事故が少なく、安全に暮らしている 59.2 (1.6)	(8)地域社会の見守りの中で、子どもが元気に育っている 55.2 (1.9)
伊勢志摩地域	(12)三重県産の農林水産物を買いたい 86.9 (-2.3)	(10)自分の住んでいる地域に愛着があり、今後も住み続けたい 73.4 (-0.2)	(3)犯罪や事故が少なく、安全に暮らしている 64.7 (1.4)	(9)スポーツを通じて夢や感動が育まれている 57.4 (0.2)	(8)地域社会の見守りの中で、子どもが元気に育っている 53.7 (1.2)
東紀州地域	(12)三重県産の農林水産物を買いたい 85.0 (-2.1)	(10)自分の住んでいる地域に愛着があり、今後も住み続けたい 77.1 (3.9)	(3)犯罪や事故が少なく、安全に暮らしている 75.7 (2.0)	(8)地域社会の見守りの中で、子どもが元気に育っている 52.9 (-2.4)	(9)スポーツを通じて夢や感動が育まれている 50.0 (-6.3)

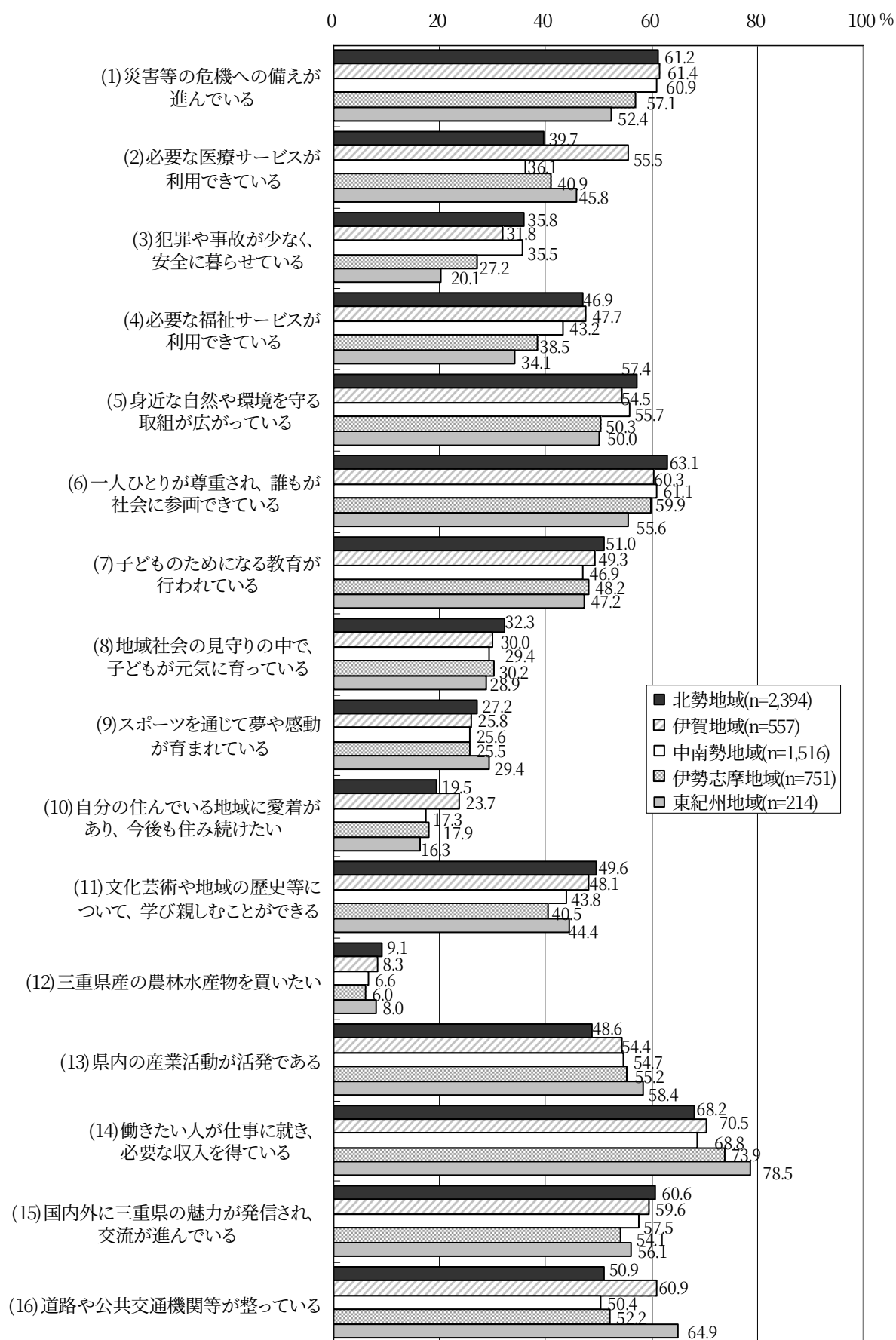
図表2-2-3 地域や社会の状況について「実感していない層」の割合(地域別上位5項目) (%)

地域	1位	2位	3位	4位	5位
北勢地域	(14)働きたい人が仕事に就き、必要な収入を得ている 68.2 (-3.1)	(6)一人ひとりが尊重され、誰もが社会に参画できている 63.1 (-1.8)	(1)災害等の危機への備えが進んでいる 61.2 (-7.9)	(15)国内外に三重県の魅力が発信され、交流が進んでいる 60.6 (-4.8)	(5)身近な自然や環境を守る取組が広がっている 57.4 (-0.1)
伊賀地域	(14)働きたい人が仕事に就き、必要な収入を得ている 70.5 (-3.7)	(1)災害等の危機への備えが進んでいる 61.4 (-3.1)	(16)道路や公共交通機関等が整っている 60.9 (-7.2)	(6)一人ひとりが尊重され、誰もが社会に参画できている 60.3 (-0.7)	(15)国内外に三重県の魅力が発信され、交流が進んでいる 59.6 (-6.9)
中南勢地域	(14)働きたい人が仕事に就き、必要な収入を得ている 68.8 (-2.1)	(6)一人ひとりが尊重され、誰もが社会に参画できている 61.1 (-1.1)	(1)災害等の危機への備えが進んでいる 60.9 (-4.1)	(15)国内外に三重県の魅力が発信され、交流が進んでいる 57.5 (-4.3)	(5)身近な自然や環境を守る取組が広がっている 55.7 (-1.0)
伊勢志摩地域	(14)働きたい人が仕事に就き、必要な収入を得ている 73.9 (-5.0)	(6)一人ひとりが尊重され、誰もが社会に参画できている 59.9 (-2.2)	(1)災害等の危機への備えが進んでいる 57.1 (-7.1)	(13)県内の産業活動が活発である 55.2 (-5.1)	(15)国内外に三重県の魅力が発信され、交流が進んでいる 54.1 (-10.7)
東紀州地域	(14)働きたい人が仕事に就き、必要な収入を得ている 78.5 (0.3)	(16)道路や公共交通機関等が整っている 64.9 (-11.5)	(13)県内の産業活動が活発である 58.4 (-1.5)	(15)国内外に三重県の魅力が発信され、交流が進んでいる 56.1 (-5.1)	(6)一人ひとりが尊重され、誰もが社会に参画できている 55.6 (-6.4)

図表2-2-4 地域や社会の状況について「実感している層」の割合(地域別)



図表2-2-5 地域や社会の状況について「実感していない層」の割合(地域別)



問2－（１） 災害等の危機への備えが進んでいると感じますか。

○災害等の危機への備えが進んでいるかどうかの実感については、「感じない」と「どちらかといえば感じない」を合計した「実感していない層」の割合が 60.2%で、「感じる」と「どちらかといえば感じる」を合計した「実感している層」の割合（30.6%）より 29.6 ポイント高くなっています。

問2の16項目の中では、『(14)働きたい人が仕事に就き、必要な収入を得ている』、『(6)一人ひとりが尊重され、誰もが社会に参画できている』に次いで3番目に「実感していない層」の割合が高くなっています。

○前回調査と比較すると「実感している層」の割合が 6.2 ポイント高くなっており、問2の16項目の中では最も上昇幅が大きくなっています。

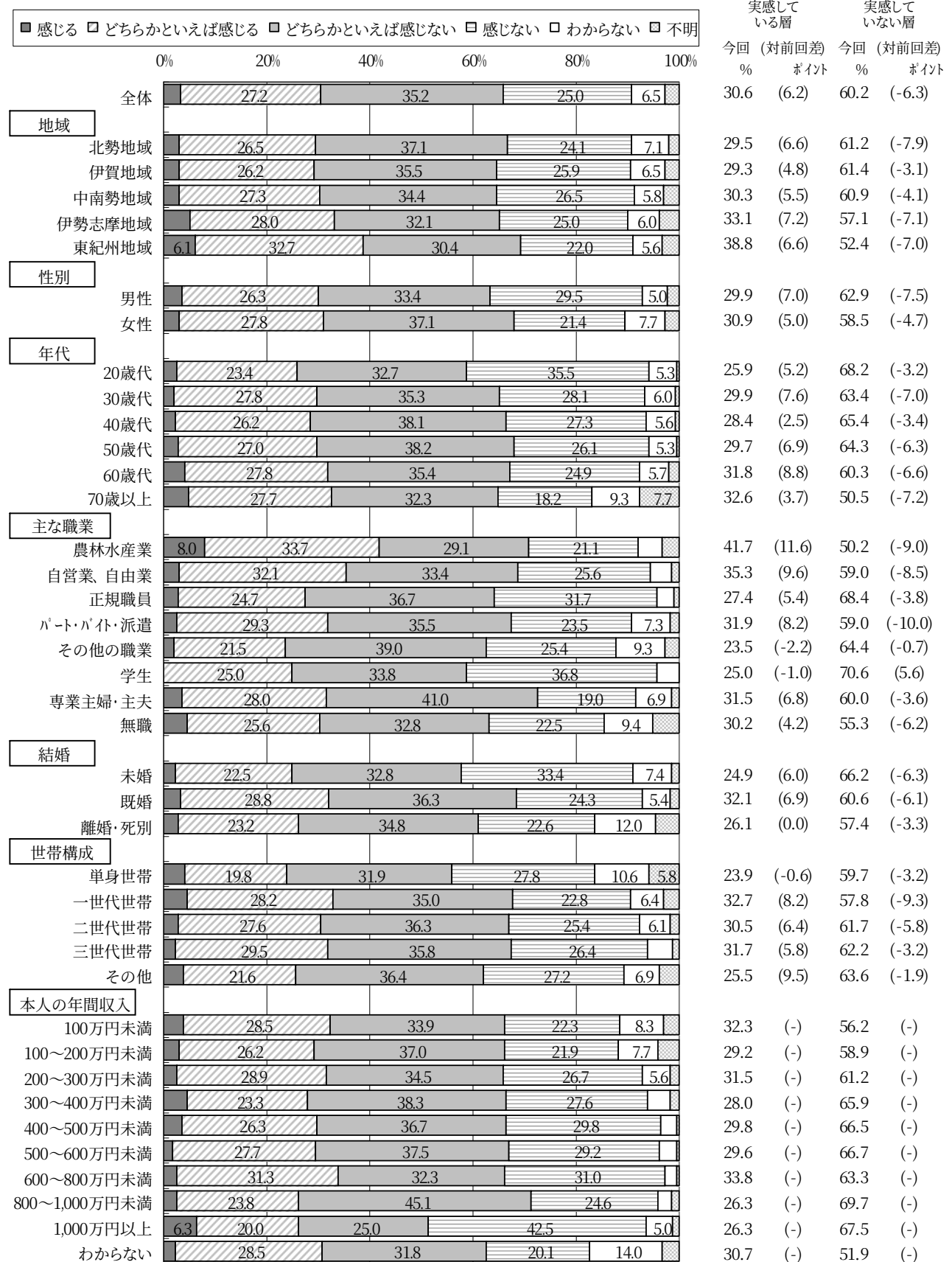
○県全体との比較において特徴の見られる主な属性項目は次のとおりです。

- ・20歳代の「感じない」の割合が 35.5%で、県全体より 10.5 ポイント高くなっています。
- ・農林水産業の「実感している層」の割合が 41.7%で、県全体より 11.1 ポイント高くなっています。また、前回調査と比較して「実感している層」の割合が 11.6 ポイント高くなっています。
- ・学生の「実感していない層」の割合が 70.6%、そのうち「感じない」の割合が 36.8%で、県全体よりそれぞれ 10.4 ポイント、11.8 ポイント高くなっています。また、前回調査と比較して「実感していない層」の割合が 5.6 ポイント高くなっており、県全体における前回調査との差（-6.3 ポイント）より 11.9 ポイント大きくなっています。
- ・本人の年間収入額が 1,000 万円以上の層の「感じない」の割合が 42.5%で、県全体より 17.5 ポイント高くなっています。

○属性項目間の比較において特徴が見られる主な属性は次のとおりです。

- ・年代別では、年代が若くなるほど「感じない」の割合が高く、70歳以上は 18.2%であるのに対し、20歳代は 35.5%となっています。
- ・主な職業別では、パート・アルバイト・派遣社員の「実感していない層」の割合（59.0%）が前回調査と比べて 10.0 ポイント減少しています。
- ・本人の年間収入別では、800 万円から 1,000 万円未満の層は「実感していない層」の割合が 69.7%と本人の年間収入別の層の中で最も高く、100 万円未満の層は 56.2%と最も低くなっています。また、1,000 万円以上の層は「感じない」の割合が 42.5%で、他の年間収入の層に比べて 10 ポイント以上高くなっています。

図表2-2-6 災害等への危機への備えが進んでいる



※「実感している層」の割合・・・「感じる」と「どちらかといえば感じる」の割合を小数点第2位で四捨五入した数値の合計

※「実感していない層」の割合・・・「感じない」と「どちらかといえば感じない」の割合を小数点第2位で四捨五入した数値の合計

問2－（2） 必要な医療サービスが利用できていると感じますか。

○必要な医療サービスが利用できているかどうかの実感については、「感じる」と「どちらかといえど感じる」を合計した「実感している層」の割合が 48.8%で、「感じない」と「どちらかといえど感じない」を合計した「実感していない層」の割合（40.8%）より 8.0 ポイント高くなっています。

○前回調査と比較すると「実感している層」の割合が 3.4 ポイント高くなっており、問2の16項目の中では、3番目に上昇幅が大きくなっています。

○県全体との比較において特徴が見られる主な属性項目は次のとおりです。

- ・伊賀地域は「実感していない層」の割合が 55.5%で県全体より 14.7 ポイント高くなっています。
- ・70 歳以上は「実感している層」の割合が 59.9%で、県全体より 11.1 ポイント高くなっています。
- ・農林水産業は「実感している層」の割合が前回調査より 12.0 ポイント高い 64.6%で、県全体より 15.8 ポイント高くなっています。

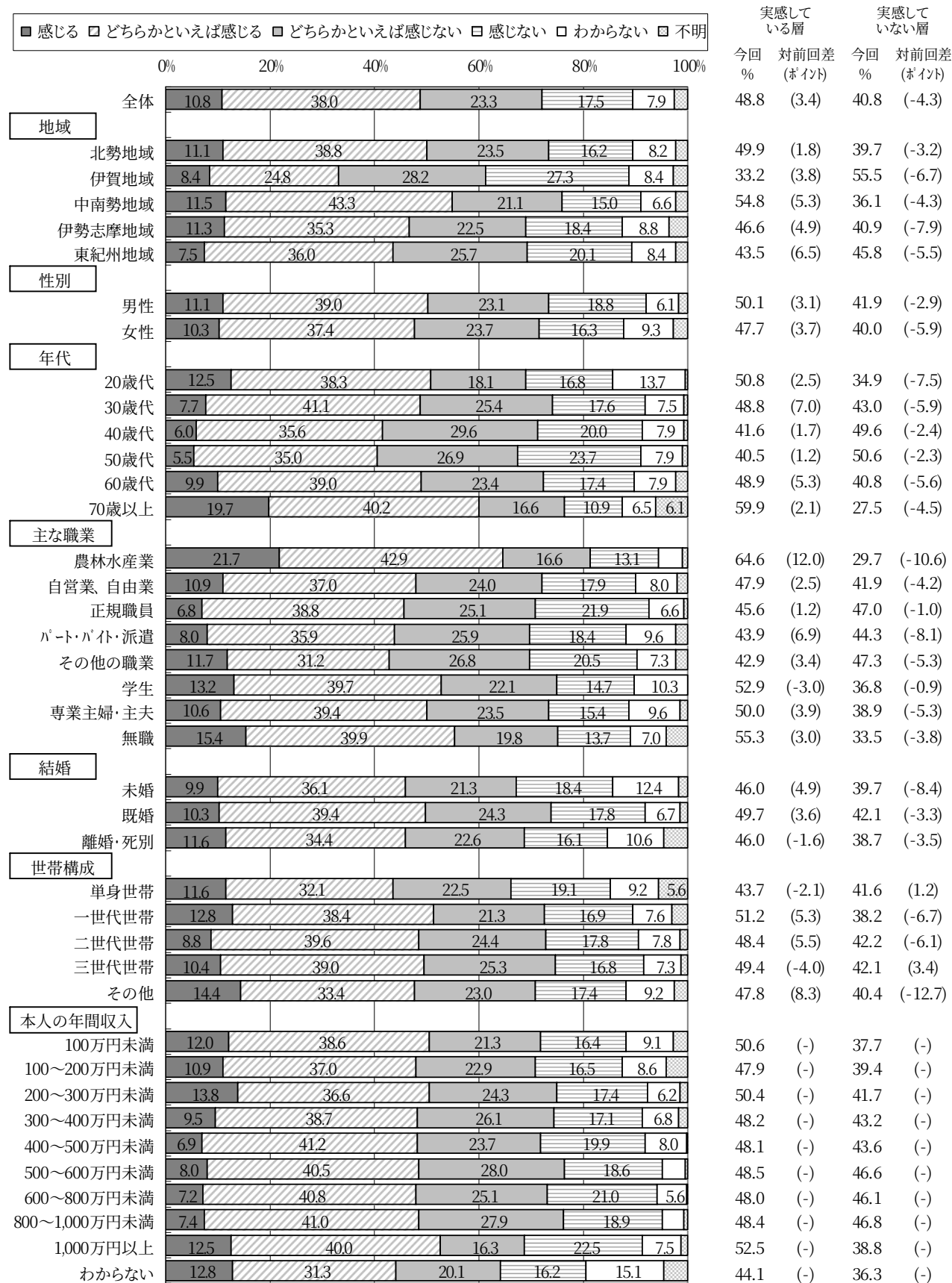
○属性項目間の比較において特徴が見られる主な属性は次のとおりです。

- ・地域別では、北勢地域、中南勢地域、伊勢志摩地域は「実感している層」の割合が「実感していない層」の割合より高くなっています。一方、伊賀地域、東紀州地域は「実感していない層」の割合が「実感している層」の割合より高くなっています。特に、伊賀地域は「実感していない層」の割合が 55.5%と地域の中で最も高くなっています。

また、伊勢志摩地域は、前回調査では「実感している層」の割合が「実感していない層」の割合よりも低くなっていましたが、今回調査では高くなっています。

- ・年代別では、50 歳代の「実感している層」の割合が 40.5%と最も低く、50 歳代を底辺としたU 字曲線となっています。
- ・主な職業別では、正規職員、パート・アルバイト・派遣社員は「実感していない層」の割合が「実感している層」の割合より高く、それ以外の職業は「実感している層」の割合が「実感していない層」の割合より高くなっています。

図表2-2-7 必要な医療サービスが利用できている



※「実感している層」の割合・・・「感じる」と「どちらかといえば感じる」の割合を小数点第2位で四捨五入した数値の合計

※「実感していない層」の割合・・・「感じない」と「どちらかといえば感じない」の割合を小数点第2位で四捨五入した数値の合計

問2－（3） 犯罪や事故が少なく、安全に暮らせていると感じますか。

○犯罪や事故が少なく、安全に暮らせているかどうかの実感については、「感じる」と「どちらかといえば感じる」を合計した「実感している層」の割合が 61.4%で、「感じない」と「どちらかといえば感じない」を合計した「実感していない層」の割合（33.5%）より 27.9 ポイント高くなっています。

問2の16項目の中では、『(12)三重県産の農林水産物を買いたい』、『(10)自分の住んでいる地域に愛着があり、今後も住み続けたい』に次いで3番目に「実感している層」の割合が高くなっています。

○前回調査と比較すると「実感している層」の割合が 2.5 ポイント高くなっています。

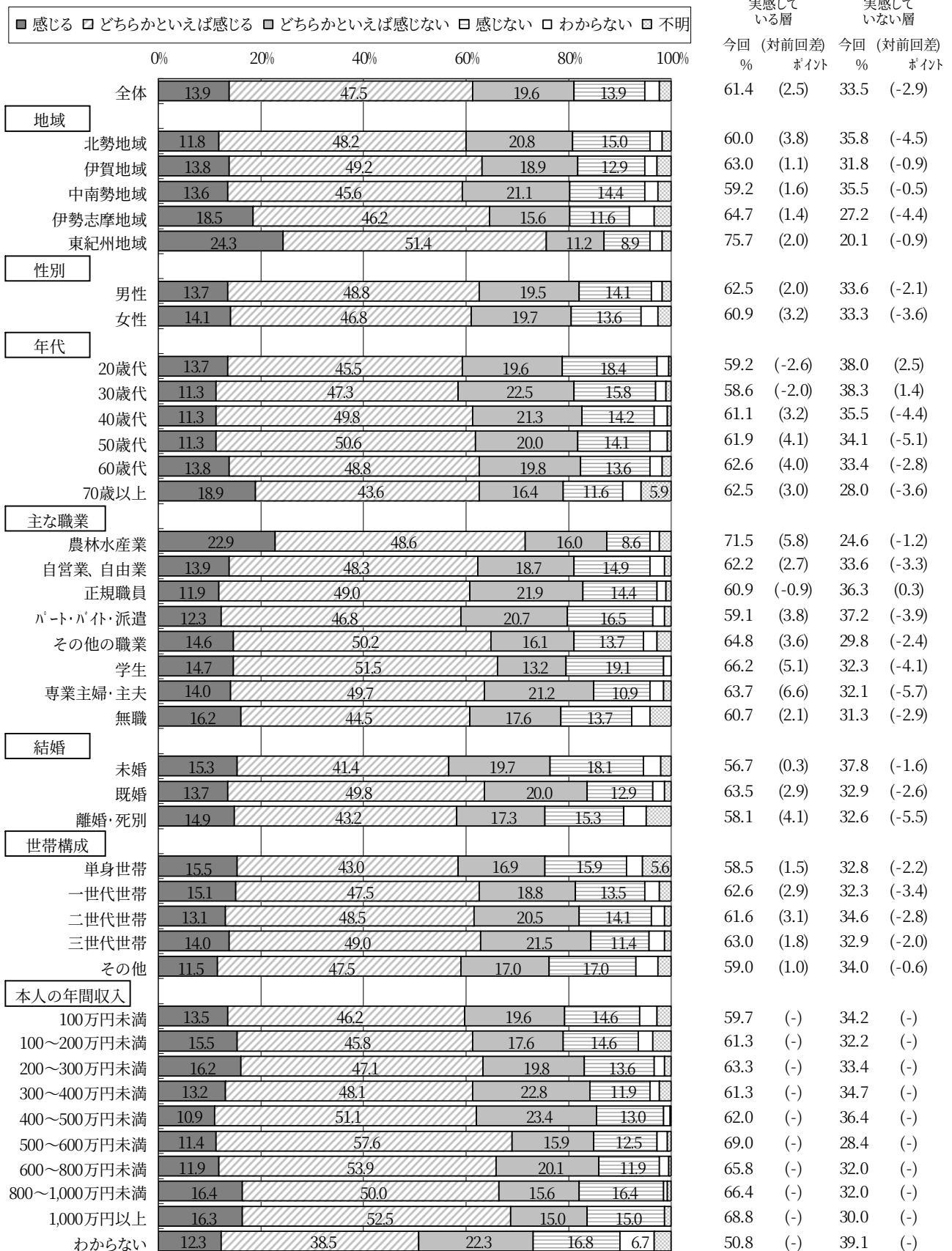
○県全体との比較において特徴の見られる主な属性項目は次のとおりです。

- ・東紀州地域の「実感している層」の割合が 75.7%、そのうち「感じる」の割合が 24.3%で、県全体よりそれぞれ 14.3 ポイント、10.4 ポイント高くなっています。
- ・農林水産業の「実感している層」の割合が 71.5%で、県全体より 10.1 ポイント高くなっています。
- ・県全体の「実感している層」の割合は前回調査と比較して 2.5 ポイント高くなっている一方、20 歳代、30 歳代の「実感している層」の割合は、それぞれ 2.6 ポイント、2.0 ポイント低くなっています。

○属性項目間の比較において特徴が見られる主な属性は次のとおりです。

- ・地域別では、東紀州地域は「実感している層」の割合が 75.7%と地域の中で最も高く、最も低い中南勢地域（59.2%）と比べて 16.5 ポイント高くなっています。

図表2-2-8 犯罪や事故が少なく、安全に暮らせている



※「実感している層」の割合・・・「感じる」と「どちらかといえば感じる」の割合を小数点第2位で四捨五入した数値の合計

※「実感していない層」の割合・・・「感じない」と「どちらかといえば感じない」の割合を小数点第2位で四捨五入した数値の合計

問2－(4) 必要な福祉サービスが利用できていると感じますか。

○必要な福祉サービスが利用できているかどうかの実感については、「感じない」と「どちらかといえば感じない」を合計した「実感していない層」の割合が 44.3%で、「感じる」と「どちらかといえば感じる」を合計した「実感している層」の割合 (34.0%) より 10.3 ポイント高くなっています。

○前回調査と比較すると「実感している層」の割合が 1.3 ポイント高くなっています。

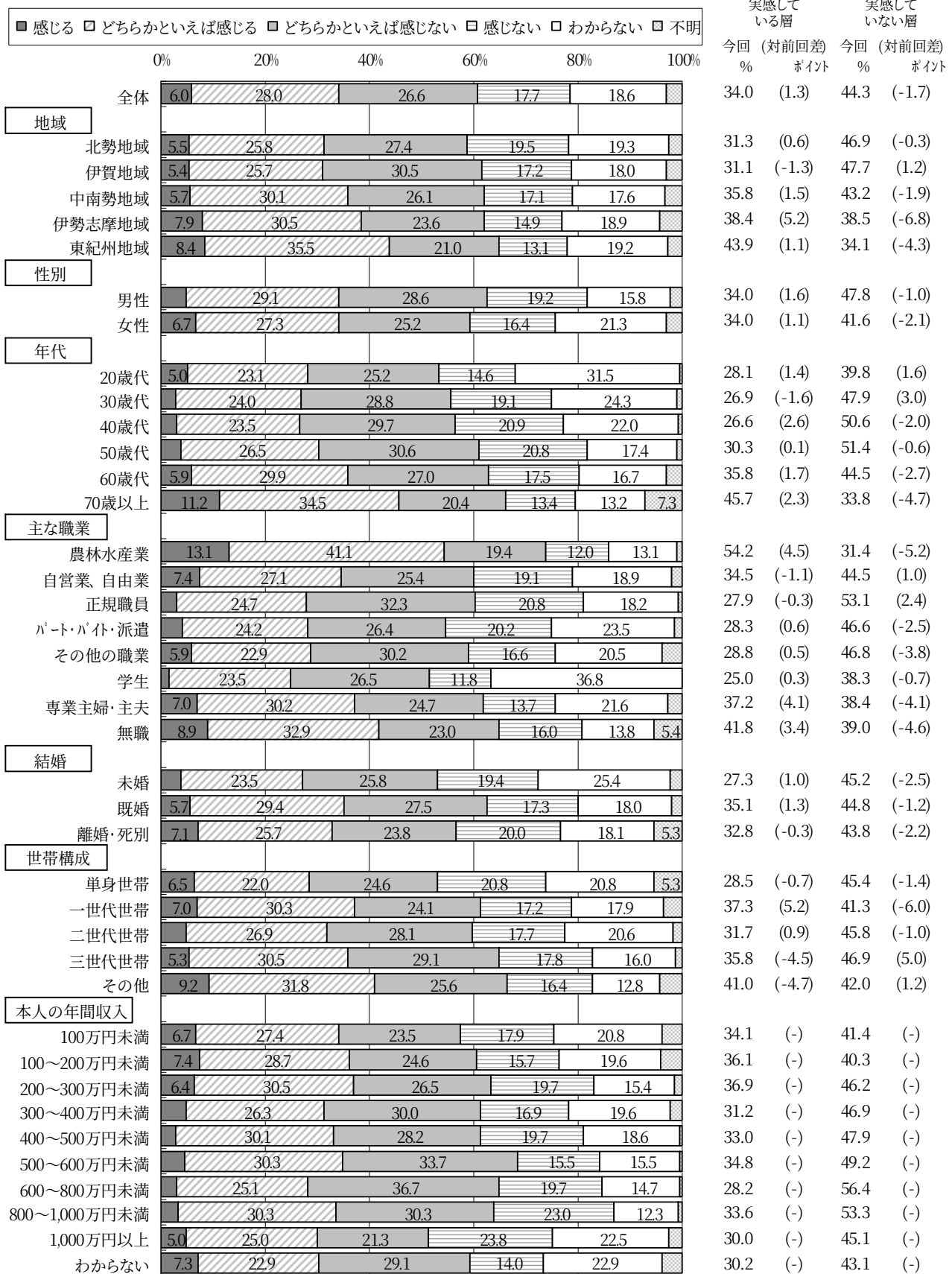
○県全体との比較において特徴が見られる主な属性項目は次のとおりです。

- ・70 歳以上の「実感している層」の割合が 45.7%で、県全体より 11.7 ポイント高くなっています。
- ・農林水産業の「実感している層」の割合が 54.2%で、県全体より 20.2 ポイント高くなっています。
- ・本人の年間収入額が 600 万円から 800 万円未満の層の「実感していない層」の割合が 56.4%で、県全体より 12.1 ポイント高くなっています。

○属性項目間の比較において特徴が見られる主な属性は次のとおりです。

- ・地域別では、東紀州地域を除くすべての地域で「実感していない層」の割合が「実感している層」の割合より高くなっています。特に、北勢地域と伊賀地域は「実感していない層」の割合が「実感している層」の割合より 15 ポイント以上高くなっています。一方、東紀州地域は「実感している層」の割合が 43.9%で「実感していない層」の割合 (34.1%) より 9.8 ポイント高くなっています。
- ・年代別では、70 歳以上以外のすべての年代で「実感していない層」の割合が「実感している層」の割合より高くなっています。一方、70 歳以上は「実感している層」の割合が 45.7%で「実感していない層」の割合 (33.8%) より高くなっています。また、若い世代ほど「わからない」の割合が高く、20 歳代は 31.5%となっています。
- ・主な職業別では、農林水産業と無職を除くすべての職業で「実感していない層」の割合が「実感している層」の割合より高くなっています。特に、正規職員は「実感していない層」の割合が 53.1%で、職業の中で最も高くなっています。

図表 2-2-9 必要な福祉サービスが利用できている



※「実感している層」の割合・・・「感じる」と「どちらかといえば感じる」の割合を小数点第2位で四捨五入した数値の合計

※「実感していない層」の割合・・・「感じない」と「どちらかといえば感じない」の割合を小数点第2位で四捨五入した数値の合計

問2－（5） 身近な自然や環境を守る取組が広がっていると感じますか。

○身近な自然や環境を守る取組が広がっているかどうかの実感については、「感じない」と「どちらかといえば感じない」を合計した「実感していない層」の割合が 55.3%で、「感じる」と「どちらかといえば感じる」を合計した「実感している層」の割合（29.1%）より 26.2 ポイント高くなっています。

○前回調査と比較すると「実感している層」の割合が 0.7 ポイント高くなっています。

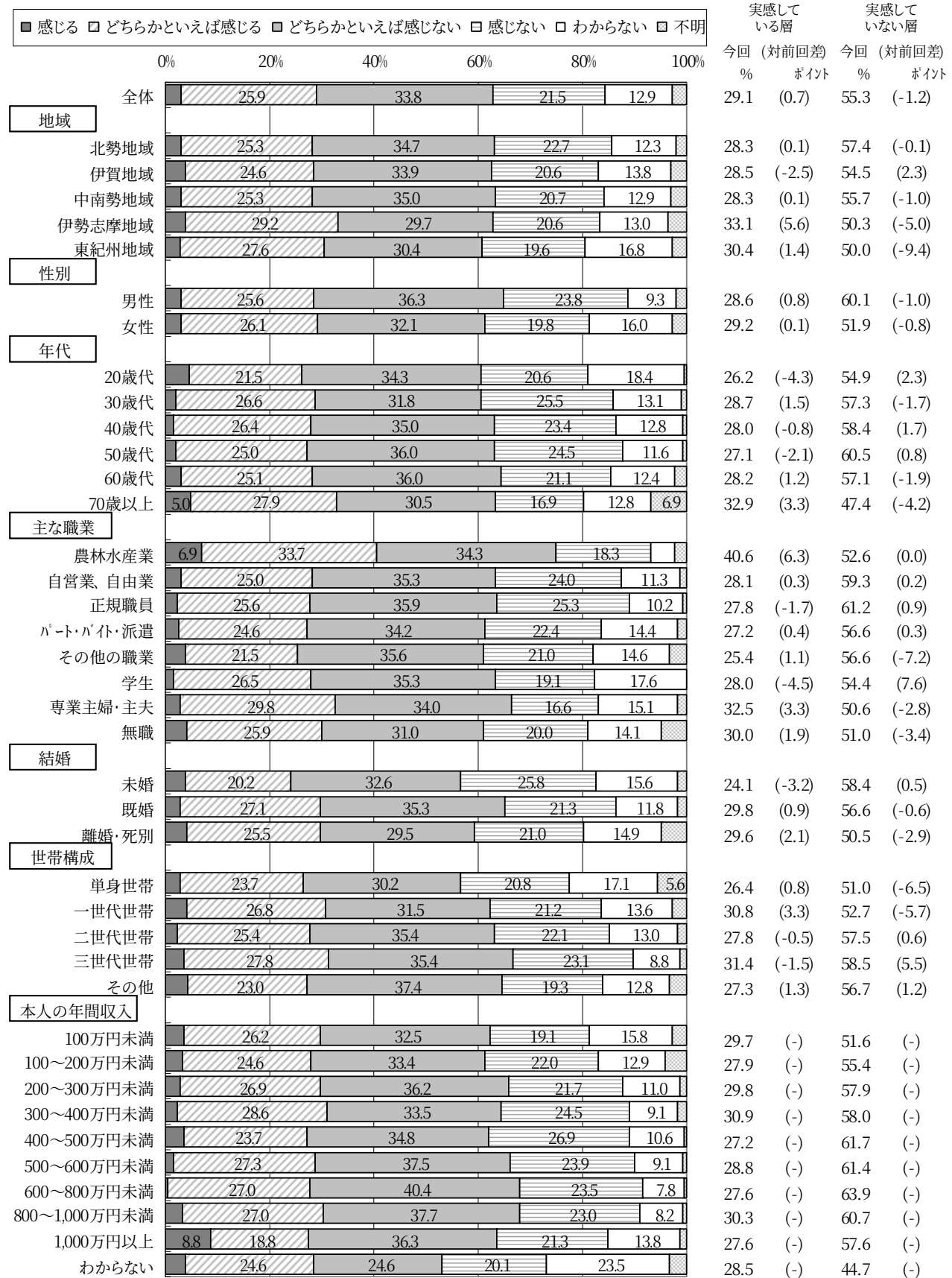
○県全体との比較において特徴の見られる主な属性項目は次のとおりです。

- ・農林水産業の「実感している層」の割合が 40.6%で、県全体より 11.5 ポイント高くなっています。

○属性項目間の比較において特徴が見られる主な属性は次のとおりです。

- ・主な職業別では、学生は「実感している層」の割合が前回調査より 4.5 ポイント低く、「実感していない層」の割合が 7.6 ポイント高くなっています。

図表2-2-10 身近な自然や環境を守る取組が広がっている



※「実感している層」の割合・・・「感じる」と「どちらかといえば感じる」の割合を小数点第2位で四捨五入した数値の合計

※「実感していない層」の割合・・・「感じない」と「どちらかといえば感じない」の割合を小数点第2位で四捨五入した数値の合計

問2－（6） 一人ひとりが尊重され、誰もが社会に参画できていると感じますか。

○一人ひとりが尊重され、誰もが社会に参画できているかどうかの実感については、「感じない」と「どちらかといえば感じない」を合計した「実感していない層」の割合が 61.5%で、「感じる」と「どちらかといえば感じる」を合計した「実感している層」の割合（20.4%）より 41.1 ポイント高くなっています。

問2の16項目の中では、『(14)働きたい人が仕事に就き、必要な収入を得ている』に次いで「実感していない層」の割合が高くなっています。

○前回調査と比較すると「実感している層」の割合が 0.6 ポイント高くなっています。

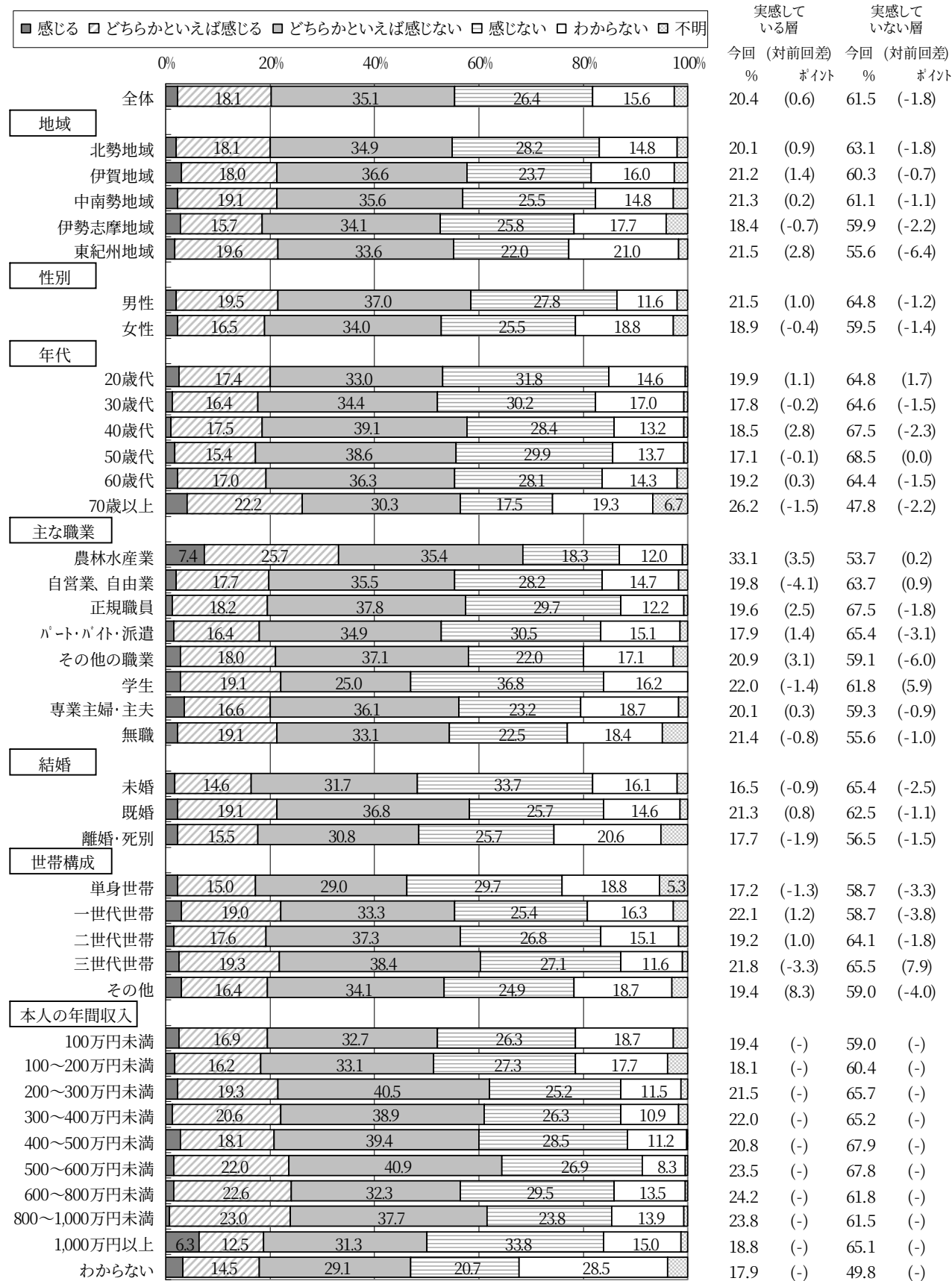
○県全体との比較において特徴の見られる主な属性項目は次のとおりです。

- ・農林水産業の「実感している層」の割合が 33.1%で、県全体より 12.7 ポイント高くなっています。
- ・学生の「感じない」の割合が 36.8%で、県全体より 10.4 ポイント高くなっています。

○属性項目間の比較において特徴が見られる主な属性は次のとおりです。

- ・主な職業別では、すべての職業で「実感していない層」の割合が「実感している層」の割合より高くなっています。

図表2-2-11 一人ひとりが尊重され、誰もが社会に参画できている



※「実感している層」の割合・・・「感じる」と「どちらかといえば感じる」の割合を小数点第2位で四捨五入した数値の合計

※「実感していない層」の割合・・・「感じない」と「どちらかといえば感じない」の割合を小数点第2位で四捨五入した数値の合計

問2－（7） 子どものためになる教育が行われていると感じますか。

○子どものためになる教育が行われているかどうかの実感については、「感じない」と「どちらかといえば感じない」を合計した「実感していない層」の割合が 49.1%で、「感じる」と「どちらかといえば感じる」を合計した「実感している層」の割合（28.9%）より 20.2 ポイント高くなっています。

○前回調査と比較すると「実感している層」の割合が 1.2 ポイント高くなっています。

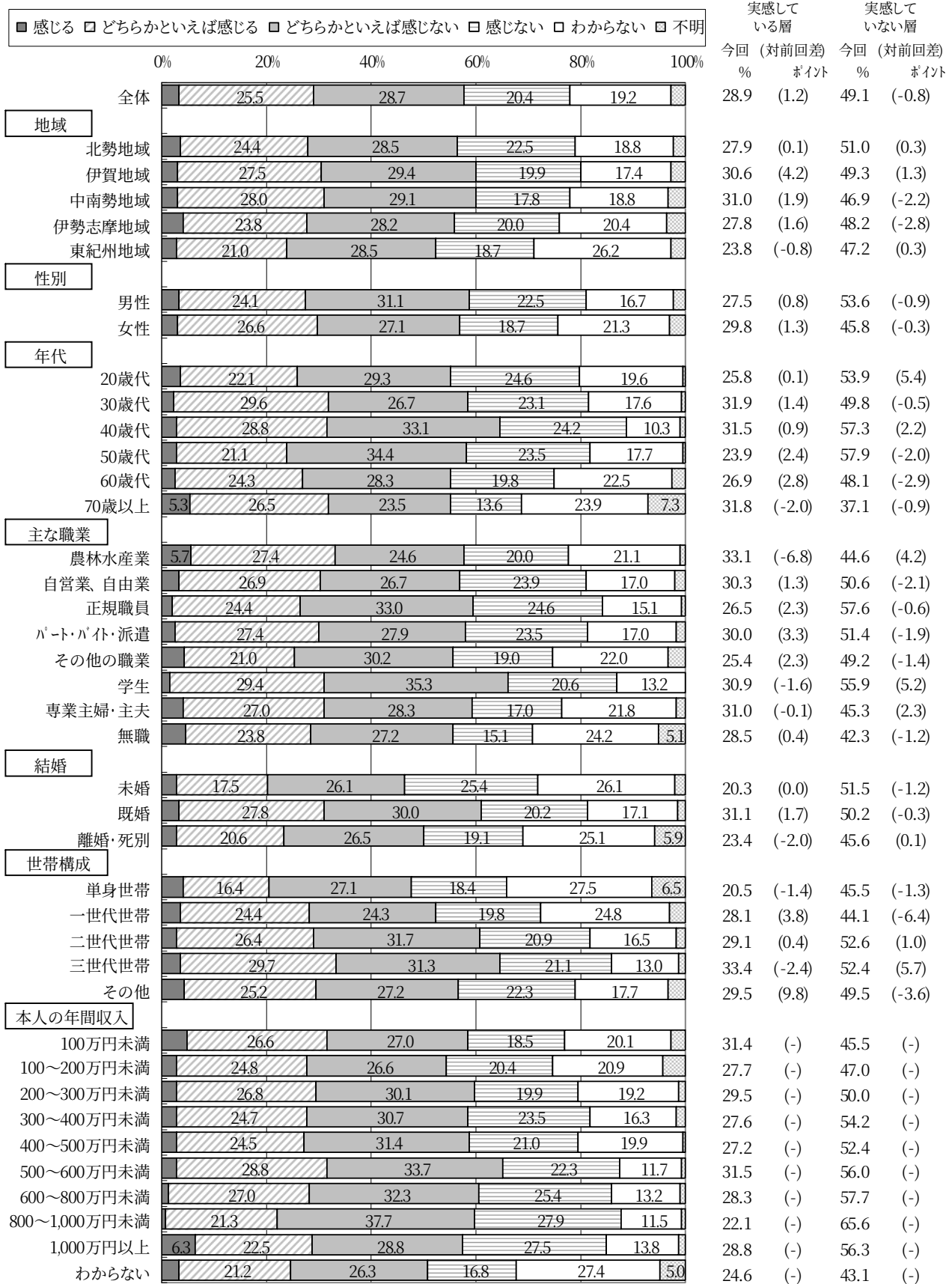
○県全体との比較において特徴の見られる主な属性項目は次のとおりです。

- ・70 歳以上の「実感していない層」の割合が 37.1%で、県全体より 12.0 ポイント低くなっています。
- ・本人の年間収入額が 800 万円から 1,000 万円未満の層は「実感していない層」の割合が 65.6%で、県全体より 16.5 ポイント高くなっています。

○属性項目間の比較において特徴が見られる主な属性は次のとおりです。

- ・年代別では、すべての年代で「実感していない層」の割合が「実感している層」の割合より高く、特に、50 歳代は「実感していない層」の割合が 57.9%で、「実感している層」の割合（23.9%）より 34.0 ポイント高くなっています。
- ・主な職業別では、すべての職業で「実感していない層」の割合が「実感している層」の割合より高く、特に、正規職員は「実感していない層」の割合が 57.6%で、農林水産業（44.6%）や無職（42.3%）などより 10 ポイント以上高くなっています。
- ・世帯構成別では、世帯を構成する世代数が多いほど「実感している層」の割合が高く、単身世帯は 20.5%であるのに対し、三世帯世帯は 33.4%となっています。また、世帯を構成する世代数が少ないほど「わからない」の割合が高くなっています。
- ・本人の年間収入別では、1,000 万円未満の層でみると、本人の年間収入額が高くなるほど「実感していない層」の割合が高くなる傾向にあり、800 万円から 1,000 万円未満の層は「実感していない層」の割合（65.6%）が、「実感している層」（22.1%）より 43.5 ポイント高くなっています。

図表2-2-12 子どものためになる教育が行われている



※「実感している層」の割合・・・「感じる」と「どちらかといえば感じる」の割合を小数点第2位で四捨五入した数値の合計

※「実感していない層」の割合・・・「感じない」と「どちらかといえば感じない」の割合を小数点第2位で四捨五入した数値の合計

問2－（８） 地域社会の見守りの中で、子どもが元気に育っていると感じますか。

○地域社会の見守りの中で、子どもが元気に育っているかどうかの実感については、「感じる」と「どちらかといえば感じる」を合計した「実感している層」の割合が 53.8%で、「感じない」と「どちらかといえば感じない」を合計した「実感していない層」の割合（30.8%）より 23.0 ポイント高くなっています。

○前回調査と比較すると「実感している層」の割合が 0.6 ポイント高くなっています。

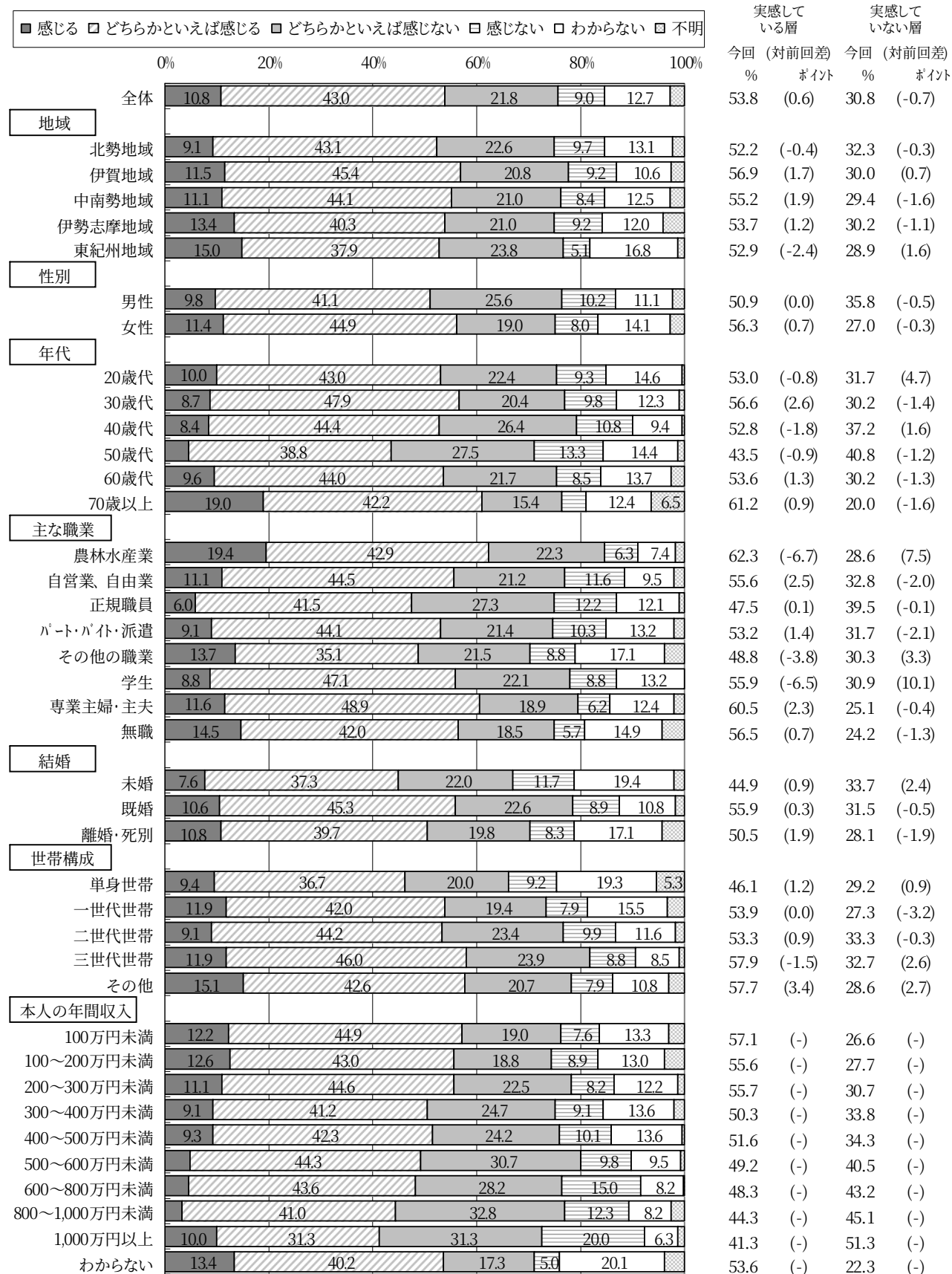
○県全体との比較において特徴の見られる主な属性項目は次のとおりです。

- ・50 歳代の「実感していない層」の割合が 40.8%で、県全体より 10.0 ポイント高くなっています。
- ・本人の年間収入額が 1,000 万円以上の層は「実感していない層」の割合が 51.3%、そのうち「感じない」が 20.0%で、県全体よりそれぞれ 20.5 ポイント、11.0 ポイント高くなっています。
- ・学生の「実感していない層」の割合が前回調査より 10.1 ポイント高くなっており、県全体における前回調査との差（-0.7 ポイント）より 10.8 ポイント大きくなっています。

○属性項目間の比較において特徴が見られる主な属性は次のとおりです。

- ・年代別では、70 歳以上は「実感している層」の割合が 61.2%と年代の中で最も高くなっています。一方、50 歳代は「実感している層」の割合（43.5%）が年代の中で最も低く、70 歳以上と比べ 17.7 ポイント低くなっています。
- ・主な職業別では、農林水産業、専業主婦・主夫は「実感している層」の割合がそれぞれ 62.3%、60.5%と他の職業より高くなっています。一方、正規職員は「実感している層」の割合が 47.5%と職業の中で最も低くなっています。
- ・結婚別では、既婚は「実感している層」の割合が 55.9%となっている一方、未婚は 44.9%となっています。
- ・世帯構成別では、三世代世帯は「実感している層」の割合が 57.9%となっている一方、単身世帯は 46.1%となっています。
- ・本人の年間収入別では、本人の年間収入額が高くなるほど「実感していない層」の割合が高く、100 万円未満の層が 26.6%となっているのに対し、1,000 万円以上の層は 51.3%となっています。

図表2-2-13 地域社会の見守りの中で、子どもが元気に育っている



※「実感している層」の割合・・・「感じる」と「どちらかといえば感じる」の割合を小数点第2位で四捨五入した数値の合計

※「実感していない層」の割合・・・「感じない」と「どちらかといえば感じない」の割合を小数点第2位で四捨五入した数値の合計

問2－(9) スポーツを通じて夢や感動が育まれていると感じますか。

○スポーツを通じて夢や感動が育まれているかどうかの実感については、「感じる」と「どちらかといえば感じる」を合計した「実感している層」の割合が 57.1%で、「感じない」と「どちらかといえば感じない」を合計した「実感していない層」の割合 (26.5%) より 30.6 ポイント高くなっています。

○前回調査と比較すると「実感している層」の割合が 0.5 ポイント高くなっています。

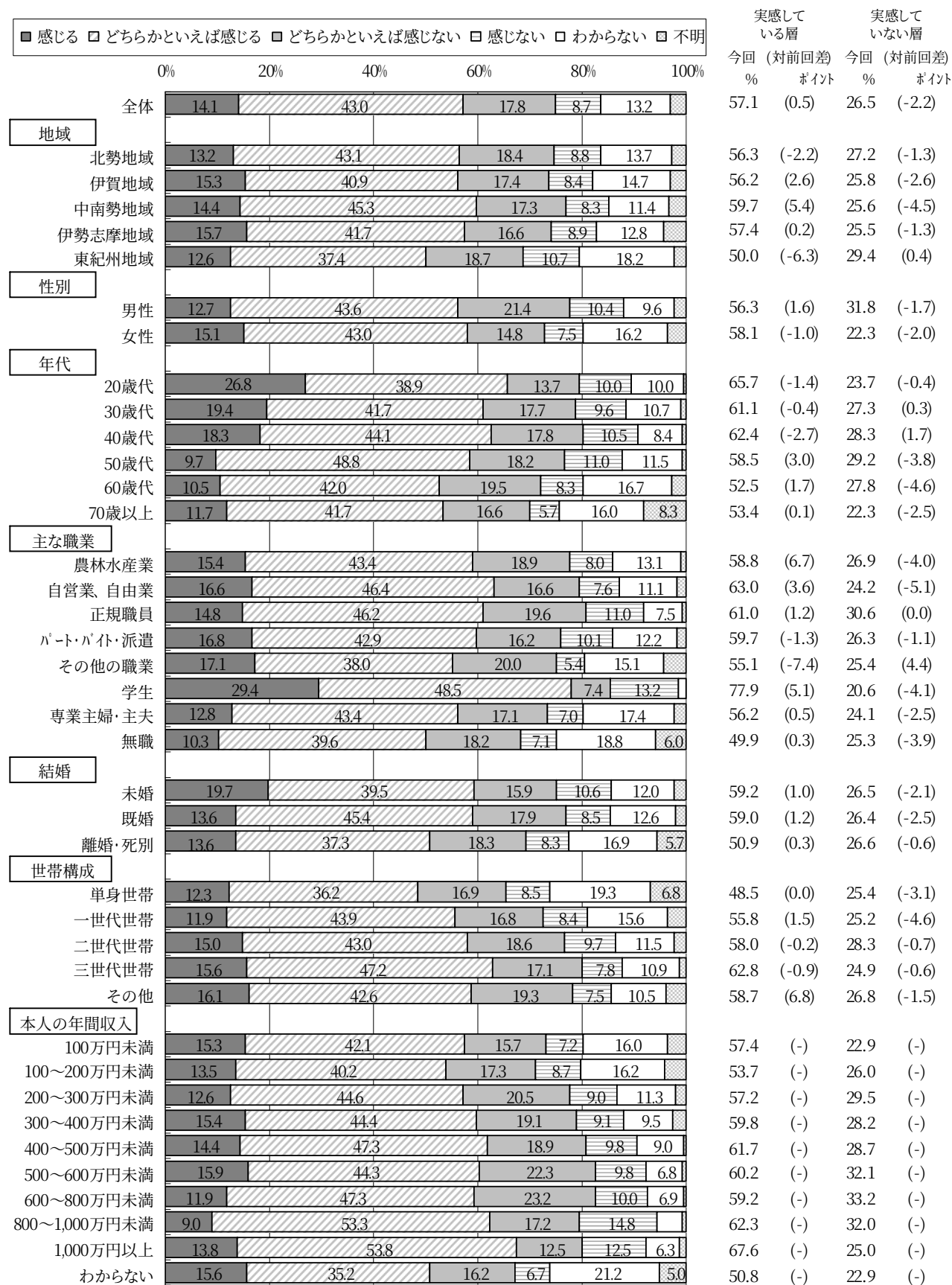
○県全体との比較において特徴の見られる主な属性項目は次のとおりです。

- ・20 歳代の「感じる」の割合が 26.8%で、県全体より 12.7 ポイント高くなっています。
- ・学生の「実感している層」の割合が 77.9%、そのうち「感じる」の割合が 29.4%で、県全体よりそれぞれ 20.8 ポイント、15.3 ポイント高くなっています。
- ・本人の年間収入額が 1,000 万円以上の層の「実感している層」の割合が 67.6%で、県全体より 10.5 ポイント高くなっています。

○属性項目間の比較において特徴が見られる主な属性は次のとおりです。

- ・地域別では、東紀州地域は「実感している層」の割合が前回調査より 6.3 ポイント低い 50.0%で、地域の中で最も低くなっています。
- ・主な職業別では、学生は「実感している層」の割合が 77.9%と職業の中で最も高く、無職や専業主婦・主夫と比べて 20 ポイント以上高くなっています。
- ・世帯構成別では、世帯を構成する世代数が多いほど「実感している層」の割合が高く、単身世帯は 48.5%であるのに対し、三世帯世帯は 62.8%となっています。ただし、世帯を構成する世代数が少ないほど「わからない」の割合が高くなっています。

図表2-2-14 スポーツを通じて夢や感動が育まれている



※「実感している層」の割合・・・「感じる」と「どちらかといえば感じる」の割合を小数点第2位で四捨五入した数値の合計

※「実感していない層」の割合・・・「感じない」と「どちらかといえば感じない」の割合を小数点第2位で四捨五入した数値の合計

問2－(10) 自分の住んでいる地域に愛着があり、今後も住み続けたいと感じますか。

○自分の住んでいる地域に愛着があり、今後も住み続けたいかどうかの実感については、「感じる」と「どちらかといえば感じる」を合計した「実感している層」の割合が 73.1%で、「感じない」と「どちらかといえば感じない」を合計した「実感していない層」の割合（18.9%）より 54.2 ポイント高くなっています。

問2の16項目の中で、『(12)三重県産の農林水産物を買いたい』に次いで「実感している層」の割合が高くなっています。

○前回調査と比較すると「実感している層」の割合は同率となっています。

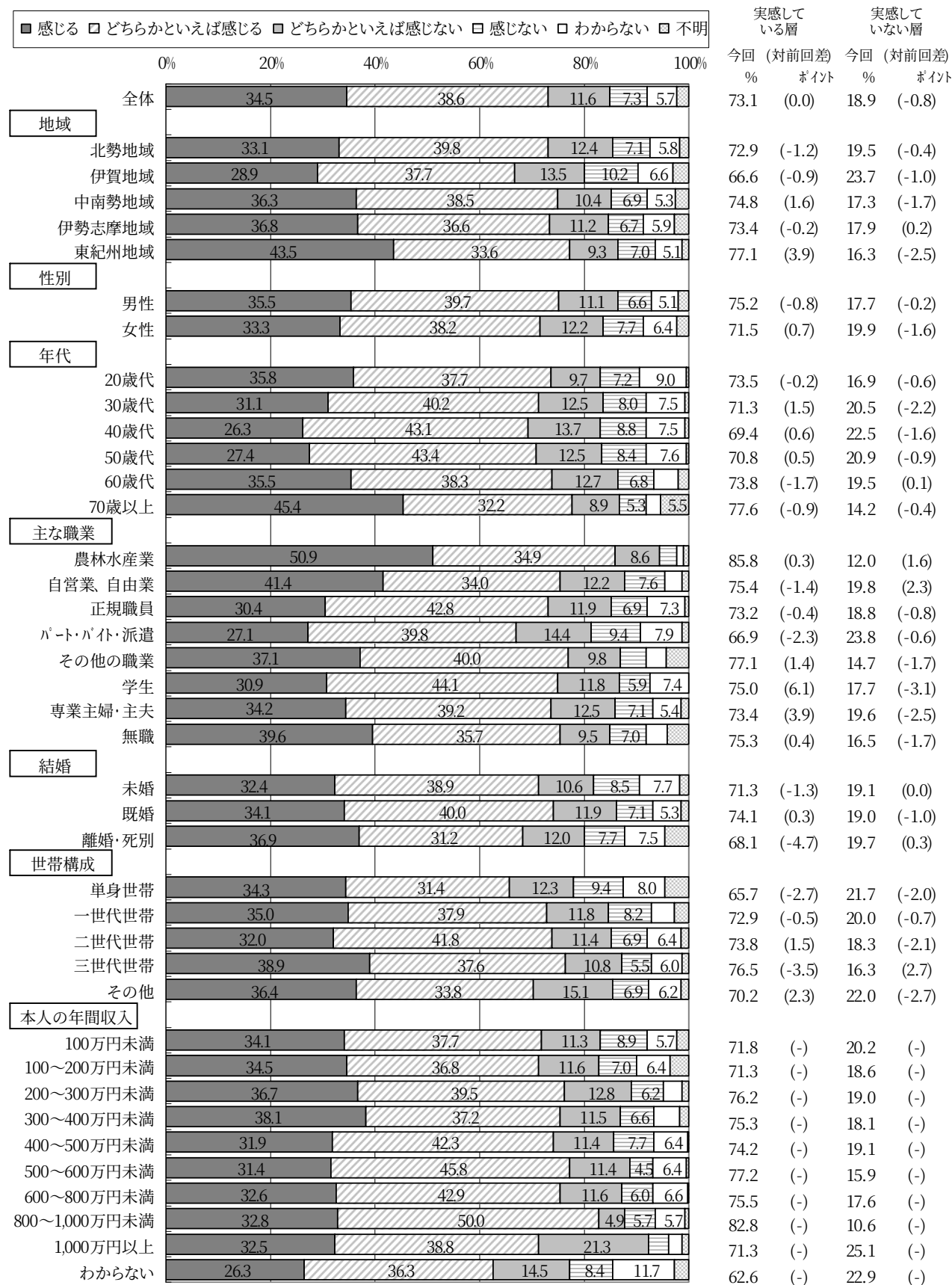
○県全体との比較において特徴が見られる主な属性項目は次のとおりです。

- ・農林水産業の「実感している層」の割合が 85.8%、そのうち「感じる」の割合が 50.9%で、県全体よりそれぞれ 12.7 ポイント、16.4 ポイント高くなっています。
- ・70 歳以上の「感じる」の割合が 45.4%で、県全体より 10.9 ポイント高くなっています。

○属性項目間の比較において特徴が見られる主な属性は次のとおりです。

- ・地域別では、東紀州地域は「実感している層」の割合が 77.1%、そのうち「感じる」の割合が 43.5%で、地域の中で最も高くなっています。一方、伊賀地域は「実感している層」の割合が 66.6%、そのうち「感じる」の割合が 28.9%と最も低くなっています。
- ・年代別では、40 歳代は「実感している層」の割合が 69.4%、そのうち「感じる」の割合が 26.3%と年代の中で最も低くなっており、40 歳代を底辺としたU字曲線となっています。
- ・主な職業別では、農林水産業は「実感している層」の割合が 85.8%、そのうち「感じる」の割合が 50.9%で、職業の中で最も高くなっています。一方、パート・アルバイト・派遣社員は「実感している層」の割合が 66.9%、そのうち「感じる」の割合が 27.1%と最も低くなっています。
- ・世帯構成別では、世帯を構成する世代数が多いほど「実感している層」の割合が高く、単身世帯が 65.7%であるのに対し、三世帯世帯は 76.5%となっています。
- ・本人の年間収入別では、800 万円から 1,000 万円未満の層は「実感している層」の割合が 82.8%で、本人の年間収入別の層の中で最も高くなっています。一方、100 万円から 200 万円未満の層と 1,000 万円以上の層は「実感している層」の割合が 71.3%で本人の年間収入別の層の中で最も低くなっています。

図表2-2-15 自分の住んでいる地域に愛着があり、今後も住み続けたい



※「実感している層」の割合・・・「感じる」と「どちらかといえば感じる」の割合を小数点第2位で四捨五入した数値の合計

※「実感していない層」の割合・・・「感じない」と「どちらかといえば感じない」の割合を小数点第2位で四捨五入した数値の合計

問2－(11) 文化芸術や地域の歴史等について、学び親しむことができると感じますか。

○文化芸術や地域の歴史等について、学び親しむことができるかどうかの実感については、「感じない」と「どちらかといえば感じない」を合計した「実感していない層」の割合が 46.4%で、「実感している層」の割合（36.9%）より 9.5 ポイント高くなっています。

○前回調査と比較すると「実感している層」の割合が 2.1 ポイント高くなっています。

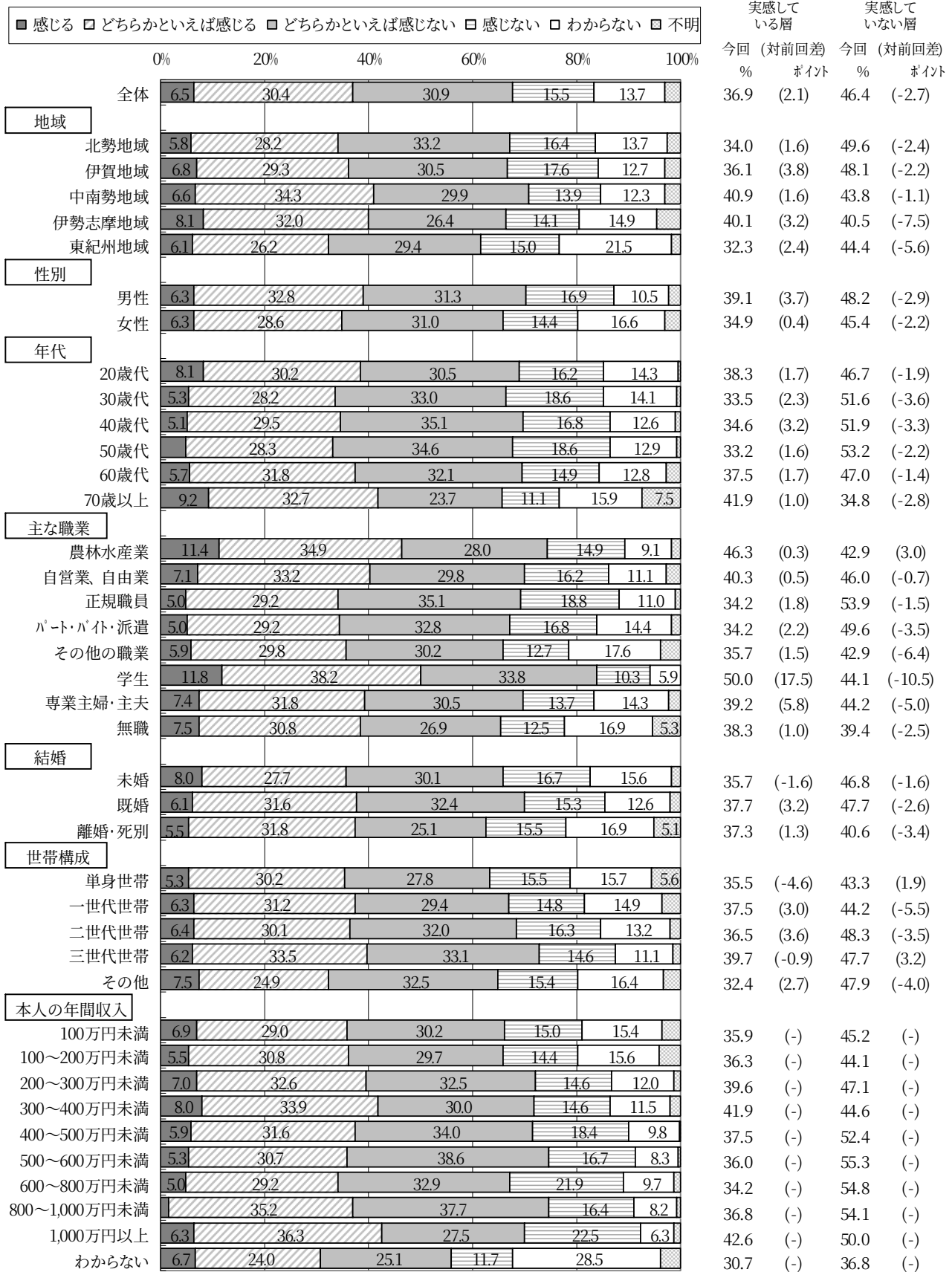
○県全体との比較において特徴が見られる主な属性項目は次のとおりです。

- ・学生の「実感している層」の割合が 50.0%で、県全体より 13.1 ポイント高くなっています。また、前回調査との差についても学生の「実感している層」の割合は 17.5 ポイント高くなっており、県全体における前回調査との差（+2.1 ポイント）より 15.4 ポイント大きくなっています。

○属性項目間の比較において特徴が見られる主な属性は次のとおりです。

- ・年代別では、20 歳代から 60 歳代は「実感していない層」の割合が「実感している層」の割合より高くなっています。一方、70 歳以上は「実感している層」の割合（41.9%）が、「実感していない層」の割合（34.8%）より高くなっています。
- ・主な職業別では、学生と農林水産業を除くすべての職業で「実感していない層」の割合が「実感している層」の割合より高くなっています。特に正規職員は「実感していない層」の割合が 53.9% となっており、職業の中で最も高くなっています。一方、学生は「実感している層」の割合が前回調査より 17.5 ポイント高い 50.0%で、職業の中で最も高くなっています。

図表2-2-16 文化芸術や地域の歴史等について、学び親しむことができる



※「実感している層」の割合・・・「感じる」と「どちらかといえば感じる」の割合を小数点第2位で四捨五入した数値の合計

※「実感していない層」の割合・・・「感じない」と「どちらかといえば感じない」の割合を小数点第2位で四捨五入した数値の合計

問2－(12) 三重県産の農林水産物を買いたいと感じますか。

○三重県産の農林水産物を買いたいかどうかの実感については、「感じる」と「どちらかといえば感じる」を合計した「実感している層」の割合が 86.5%で、「感じない」と「どちらかといえば感じない」を合計した「実感していない層」の割合（7.8%）より 78.7 ポイント高くなっています。

問2の16項目の中では、「実感している層」の割合、そのうち「感じる」の割合（48.0%）がともに最も高くなっています。

○前回調査と比較すると「実感している層」の割合が0.9ポイント低くなっており、問2の16項目の中で唯一「実感している層」の割合が前回調査より低くなっています。

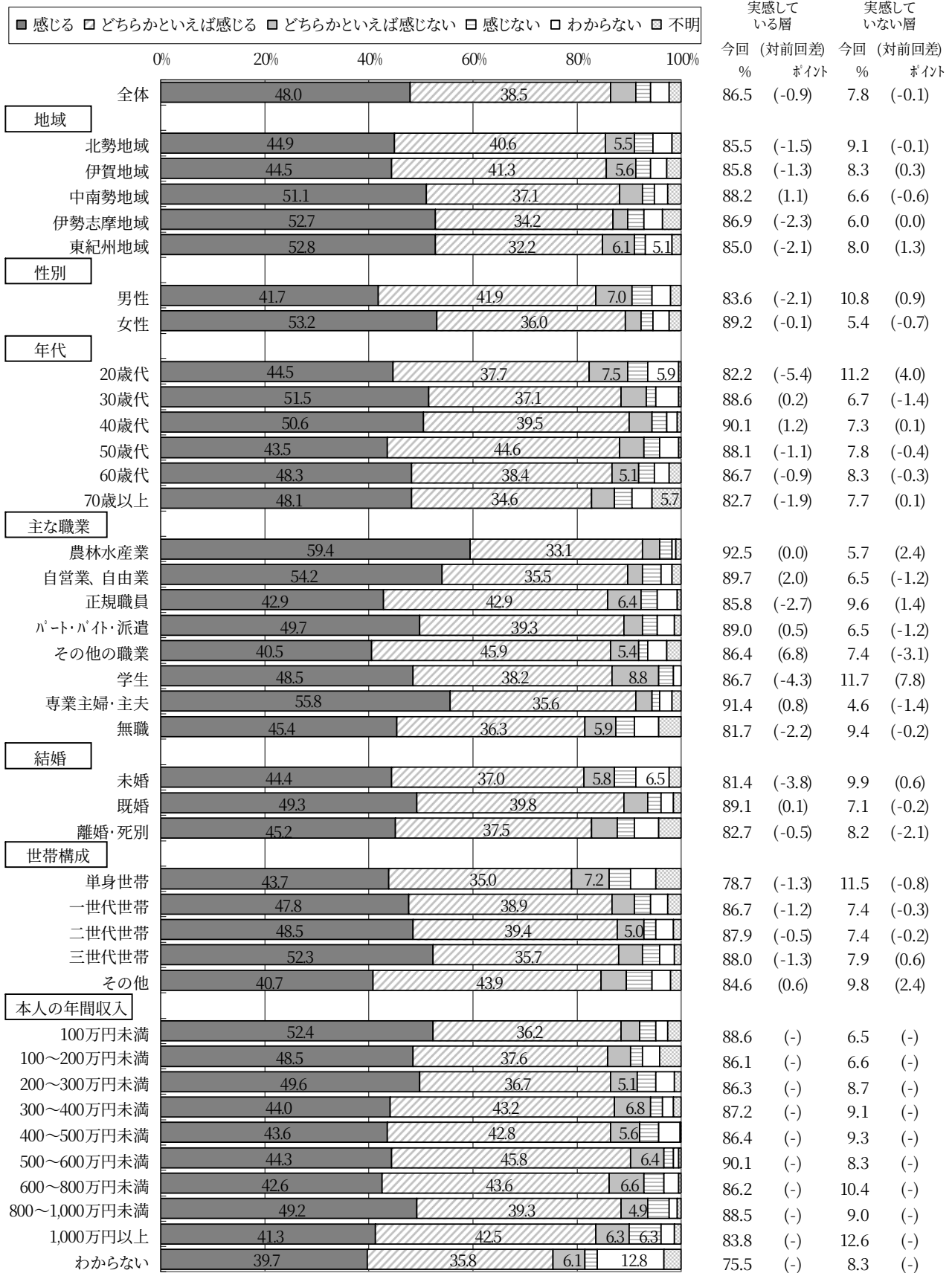
○県全体との比較において特徴が見られる主な属性項目は次のとおりです。

- ・農林水産業の「感じる」の割合が59.4%で、県全体より11.4ポイント高くなっています。

○属性項目間の比較において特徴が見られる主な属性は次のとおりです。

- ・性別では、女性は「感じる」の割合が53.2%で、男性より11.5ポイント高くなっています。
- ・主な職業別では、農林水産業や専業主婦・主夫の「感じる」の割合がそれぞれ59.4%、55.8%で他の職業に比べて高くなっている一方、正規職員は42.9%となっています。
- ・本人の年間収入別では、100万円未満の層は「感じる」の割合が52.4%と本人の年間収入別の層の中で最も高く、最も低い1,000万円以上の層（41.3%）に比べて11.1ポイント高くなっています。

図表2-2-17 三重県産の農林水産物を買いたい



※「実感している層」の割合・・・「感じる」と「どちらかといえば感じる」の割合を小数点第2位で四捨五入した数値の合計

※「実感していない層」の割合・・・「感じない」と「どちらかといえば感じない」の割合を小数点第2位で四捨五入した数値の合計

問2－(13) 県内の産業活動が活発であると感じますか。

○県内の産業活動が活発であるかどうかの実感については、「感じない」と「どちらかといえば感じない」を合計した「実感していない層」の割合が 52.2%で、「感じる」と「どちらかといえば感じる」を合計した「実感している層」の割合（28.6%）より 23.6 ポイント高くなっています。

○前回調査と比較すると「実感している層」の割合が 0.8 ポイント高くなっています。

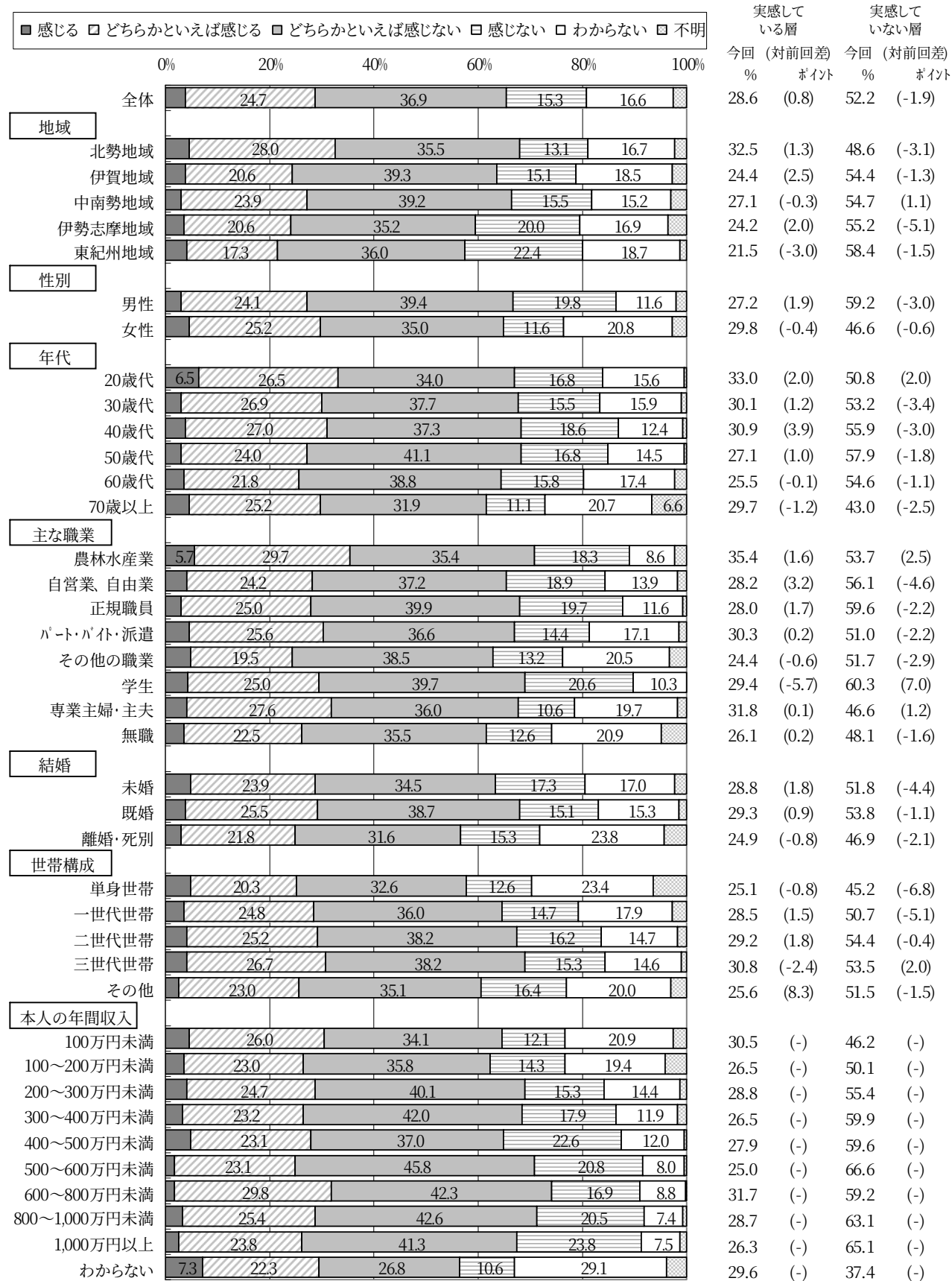
○県全体との比較において特徴の見られる主な属性項目は次のとおりです。

- ・本人の年間収入額が 500 万から 600 万円未満の層の「実感していない層」の割合が 66.6%で、県全体より 14.4 ポイント高くなっています。
- ・本人の年間収入額が 800 万円から 1000 万円未満の層の「実感していない層」の割合が 63.1%で、県全体より 10.9 ポイント高くなっています。
- ・本人の年間収入額が 1,000 万円以上の層の「実感していない層」の割合が 65.1%で、県全体より 12.9 ポイント高くなっています。
- ・学生の「実感していない層」の割合（60.3%）が前回調査より 7.0 ポイント高く、県全体における前回調査との差（－1.9 ポイント）より 8.9 ポイント大きくなっています。

○属性項目間の比較において特徴が見られる主な属性は次のとおりです。

- ・地域別では、東紀州地域は「実感している層」の割合が 21.5%と地域の中で最も低く、最も高い北勢地域（32.5%）より 11.0 ポイント低くなっています。
- ・性別では、男性は「実感していない層」の割合が 59.2%で、女性（46.6%）より 12.6 ポイント高くなっています。
- ・主な職業別では、学生と正規職員は「実感していない層」の割合がそれぞれ 60.3%、59.6%と他の職業に比べ高くなっています。

図表2-2-18 県内の産業活動が活発である



※「実感している層」の割合・・・「感じる」と「どちらかといえば感じる」の割合を小数点第2位で四捨五入した数値の合計

※「実感していない層」の割合・・・「感じない」と「どちらかといえば感じない」の割合を小数点第2位で四捨五入した数値の合計

問2－(14) 働きたい人が仕事に就き、必要な収入を得ていると感じますか。

○働きたい人が仕事に就き、必要な収入を得ているかどうかの実感については、「感じない」と「どちらかといえば感じない」を合計した「実感していない層」の割合が 69.8%で、「感じる」と「どちらかといえば感じる」を合計した「実感している層」の割合（15.3%）より 54.5 ポイント高くなっています。

問2の16項目の中では、「実感していない層」の割合、そのうち「感じない」の割合（36.2%）ともに最も高くなっています。

○前回調査と比較すると「実感している層」の割合が1.6ポイント高くなっています。

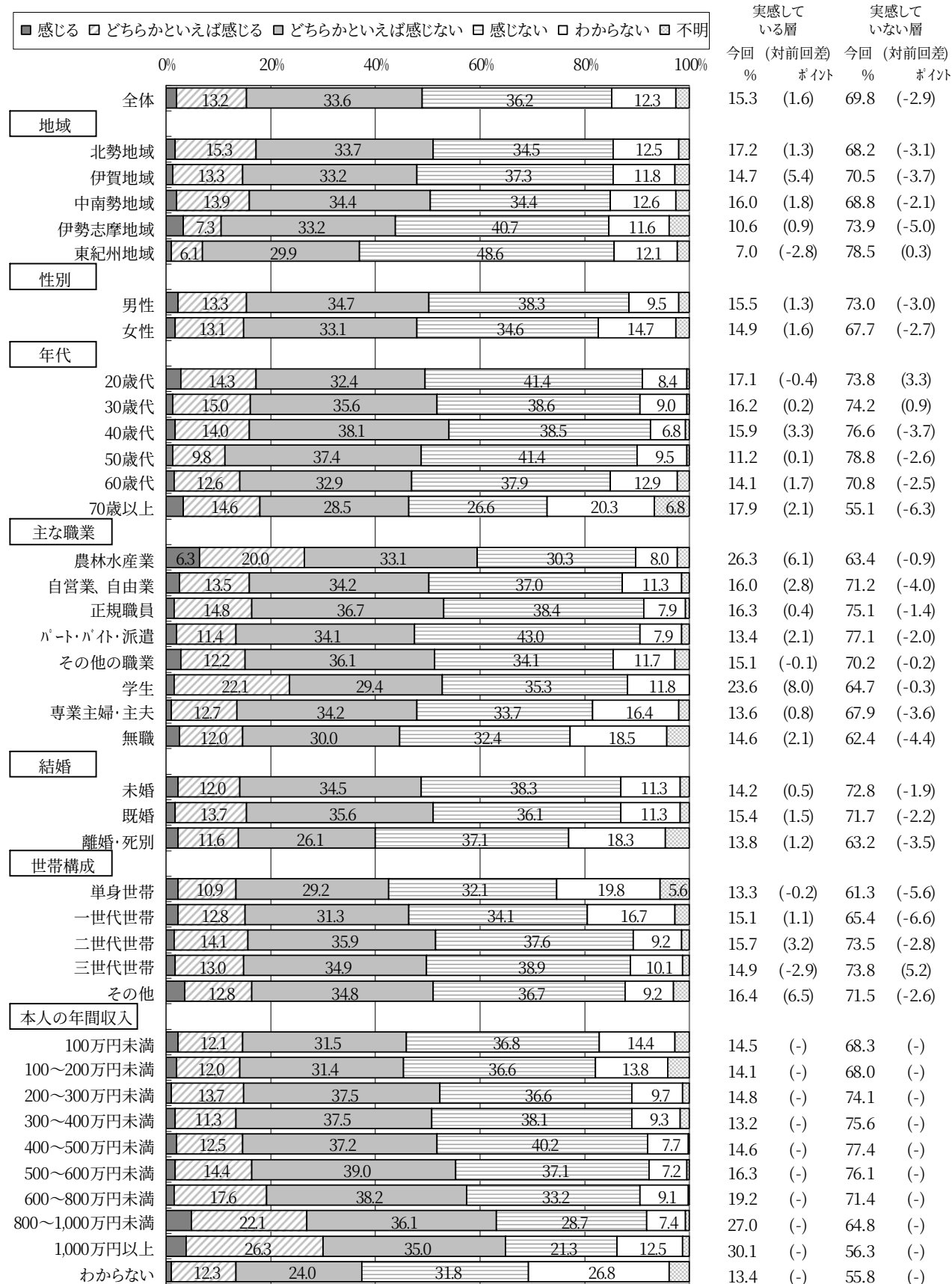
○県全体との比較において特徴が見られる主な属性項目は次のとおりです。

- ・東紀州地域の「感じない」の割合が48.6%で、県全体より12.4ポイント高くなっています。
- ・農林水産業の「実感している層」の割合が26.3%で、県全体より11.0ポイント高くなっています。
- ・本人の年間収入額が800万円から1,000万円未満の層の「実感している層」の割合が27.0%で、県全体より11.7ポイント高くなっています。
- ・本人の年間収入額が1,000万円以上の層の「実感している層」の割合が30.1%で、県全体より14.8ポイント高くなっています。

○属性項目間の比較において特徴が見られる主な属性は次のとおりです。

- ・地域別では、東紀州地域は「実感していない層」の割合が78.5%、そのうち「感じない」の割合が48.6%で、他の地域に比べて高くなっています。
- ・年代別では、70歳以上は「実感していない層」の割合が55.1%と年代の中で最も低くなっていますが、「わからない」の割合が20.3%となっています。
- ・主な職業別では、特にパート・アルバイト・派遣社員は「実感していない層」の割合が77.1%、そのうち「感じない」の割合が43.0%で、職業の中で最も高くなっています。
- ・本人の年間収入別では、300万円以上の層でみると、本人の年間収入額が高くなるほど「実感している層」の割合が高く、1,000万円以上の層は30.1%となっています。

図表2-2-19 働きたい人が仕事に就き、必要な収入を得ている



※「実感している層」の割合・・・「感じる」と「どちらかといえば感じる」の割合を小数点第2位で四捨五入した数値の合計

※「実感していない層」の割合・・・「感じない」と「どちらかといえば感じない」の割合を小数点第2位で四捨五入した数値の合計

問2－(15) 国内外に三重県の魅力が発信され、交流が進んでいると感じますか。

○国内外に三重県の魅力が発信され、交流が進んでいるかどうかの実感については、「感じない」と「どちらかといえば感じない」を合計した「実感していない層」の割合が 58.6%で、「感じる」と「どちらかといえば感じる」を合計した「実感している層」の割合（21.0%）より 37.6 ポイント高くなっています。

○前回調査と比較すると「実感している層」の割合が 3.7 ポイント高くなっており、問2の16項目の中では2番目に上昇幅が大きくなっています。一方、「実感していない層」の割合は 5.6 ポイント低下しています。

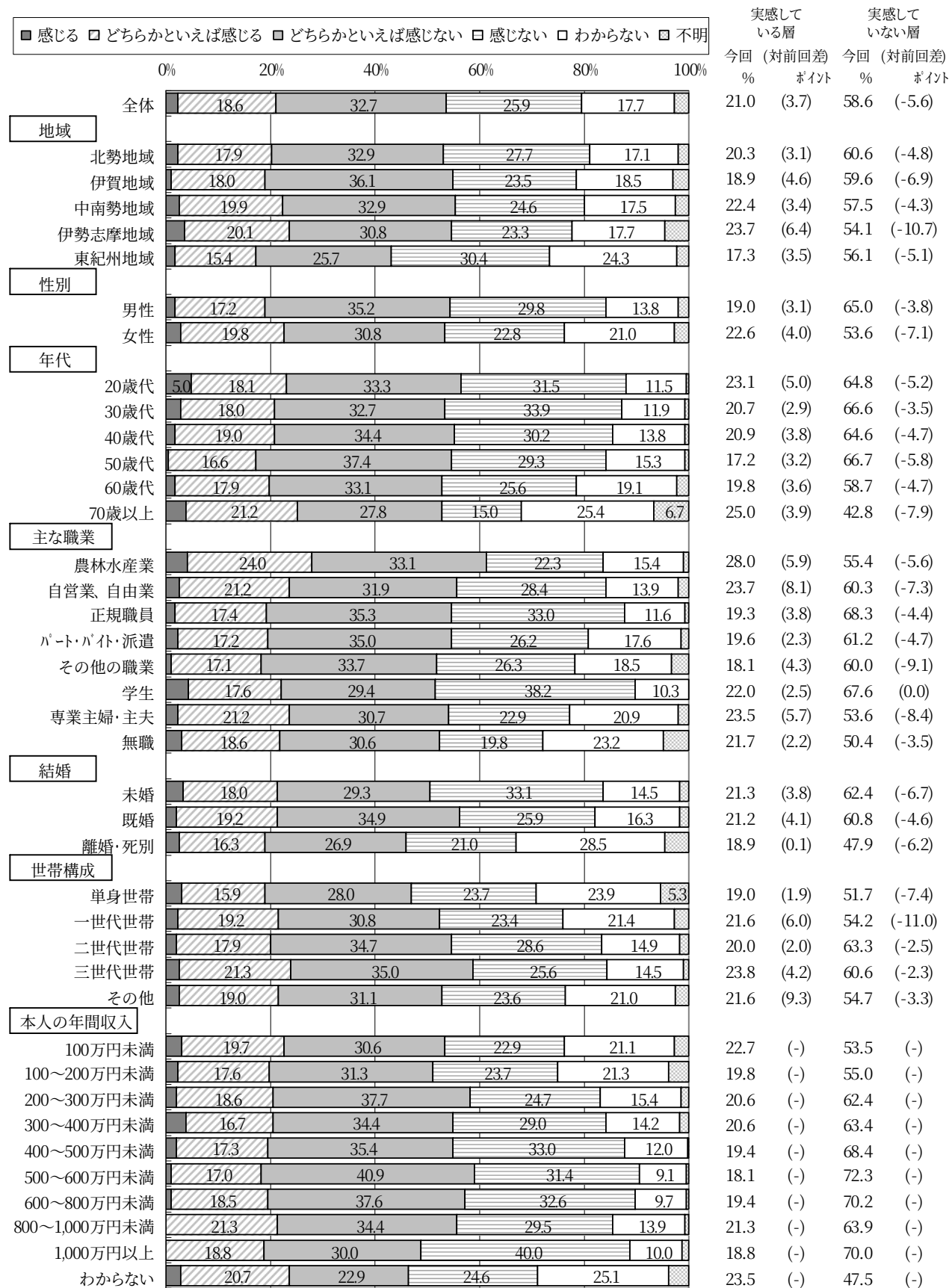
○県全体との比較において特徴が見られる主な属性項目は次のとおりです。

- ・70歳以上の「実感していない層」の割合が 42.8%で、県全体より 15.8 ポイント低くなっています。
- ・離婚・死別の「実感していない層」の割合が 47.9%で、県全体より 10.7 ポイント低くなっています。
- ・学生の「感じない」の割合が 38.2%で、県全体より 12.3 ポイント高くなっています。
- ・本人の年間収入額が 500 万円から 600 万円未満の層の「実感していない層」の割合が 72.3%で、県全体より 13.7 ポイント高くなっています。
- ・本人の年間収入額が 600 万円から 800 万円未満の層の「実感していない層」の割合が 70.2%で、県全体より 11.6 ポイント高くなっています。
- ・本人の年間収入額が 1,000 万円以上の層の「実感していない層」の割合が 70.0%、そのうち「感じない」の割合が 40.0%で、県全体よりそれぞれ 11.4 ポイント、14.1 ポイント高くなっています。

○属性項目間の比較において特徴が見られる主な属性は次のとおりです。

- ・地域別では、すべての地域で「実感していない層」の割合が高くなっていますが、特に伊勢志摩地域は「実感していない層」の割合が前回調査より 10.7 ポイント低い 54.1%で、地域の中で最も低くなっています
- ・年代別では、70歳以上は「実感していない層」の割合が 42.8%、そのうち「感じない」の割合が 15.0%と年代別の中で最も低くなっていますが、「わからない」の割合が 25.4%と高くなっています。
- ・主な職業別では、正規職員、学生は「実感していない層」の割合がそれぞれ 68.3%、67.6%と他の職業に比べて高く、そのうち「感じない」の割合も 3割以上となっています。
- ・本人の年間収入別では、600 万円未満の層でみると、年間収入額が高くなるほど「実感していない層」の割合が高く、100 万円未満の層が 53.5%となっているのに対し、500 万円から 600 万円未満の層は 72.3%となっています。

図表2-2-20 国内外に三重県の魅力が発信され、交流が進んでいる



※「実感している層」の割合・・・「感じる」と「どちらかといえば感じる」の割合を小数点第2位で四捨五入した数値の合計

※「実感していない層」の割合・・・「感じない」と「どちらかといえば感じない」の割合を小数点第2位で四捨五入した数値の合計

問2－(16) 道路や公共交通機関等が整っていると感じますか。

○道路や公共交通機関等が整っているかどうかの実感については、「感じない」と「どちらかといえば感じない」を合計した「実感していない層」の割合が 52.4%で、「感じる」と「どちらかといえば感じる」を合計した「実感している層」の割合（40.8%）より 11.6 ポイント高くなっています。

○前回調査と比較すると「実感している層」の割合が 3.3 ポイント高くなっています。

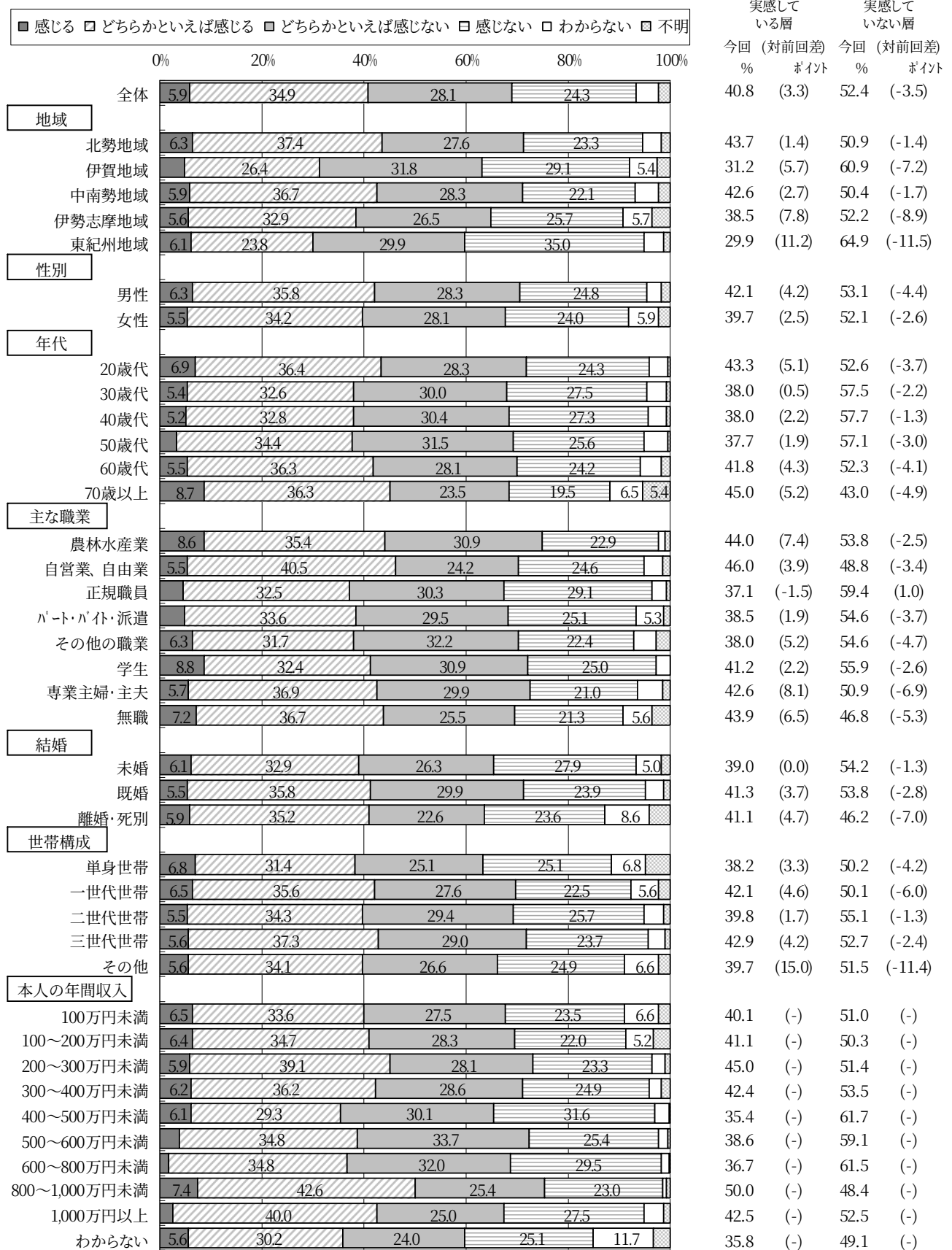
○県全体との比較において特徴が見られる主な属性項目は次のとおりです。

- ・東紀州地域の「実感していない層」の割合が 64.9%、そのうち「感じない」の割合が 35.0%で、県全体よりそれぞれ 12.5 ポイント、10.7 ポイント高くなっています。

○属性項目間の比較において特徴が見られる主な属性は次のとおりです。

- ・地域別では、東紀州地域の「実感している層」の割合が前回調査より 11.2 ポイント高くなったものの、地域の中で最も低くなっています。
- ・本人の年間収入別では、800 万円から 1,000 万円未満の層以外のすべての層で「実感していない層」の割合が「実感している層」の割合より高くなっています。一方、800 万円から 1,000 万円未満の層は「実感している層」の割合が 50.0%で、「実感していない層」の割合（48.4%）より高くなっています。

図表2-2-21 道路や公共交通機関等が整っている



※「実感している層」の割合・・・「感じる」と「どちらかといえば感じる」の割合を小数点第2位で四捨五入した数値の合計

※「実感していない層」の割合・・・「感じない」と「どちらかといえば感じない」の割合を小数点第2位で四捨五入した数値の合計

3. 家族や精神的なゆとり

ここからは、「家族や精神的なゆとり」をテーマとした質問項目について記載しています。

問	項目	質問文の概要
3-1	家族との関係	・ ご家族との関係は良好ですか。
3-2	子どもを持つこと と豊かな人生	・ 子どもを持つことは豊かな人生につながると思いますか。
3-3	子どもの数	・ お子様（同居、別居を問わず）は、何人いらっしゃいますか。
3-4	理想の子どもの数	・ 子どもを何人くらいほしいですか。あるいは、ほしかったですか。
3-5	結婚していない理由	・ あなたはご結婚されていますか。 ・ （未婚の方に）結婚していない理由は何ですか。
3-6	悩みや不安、心配ごとなど	・ 悩みや不安、心配ごとなど、精神面で負担となっていることはありますか。 ・ その原因としてあてはまるものは何ですか。

問3-1 ご家族との関係は良好ですか。次の中からあてはまるものを1つだけ選んでください。
(○は1つだけ)

【家族との関係】

○家族との関係が良好か質問したところ、「良好である」と「どちらかといえば良好である」の割合を合計した「肯定的回答」の割合が 84.1%で、「良好でない」と「どちらかといえば良好でない」の割合を合計した「否定的回答」(8.7%)の割合より 75.4 ポイント高くなっています。

○前回調査と比較すると、「肯定的回答」の割合、「否定的回答」の割合ともに、それぞれ 0.1 ポイント、1.2 ポイント低くなっています。

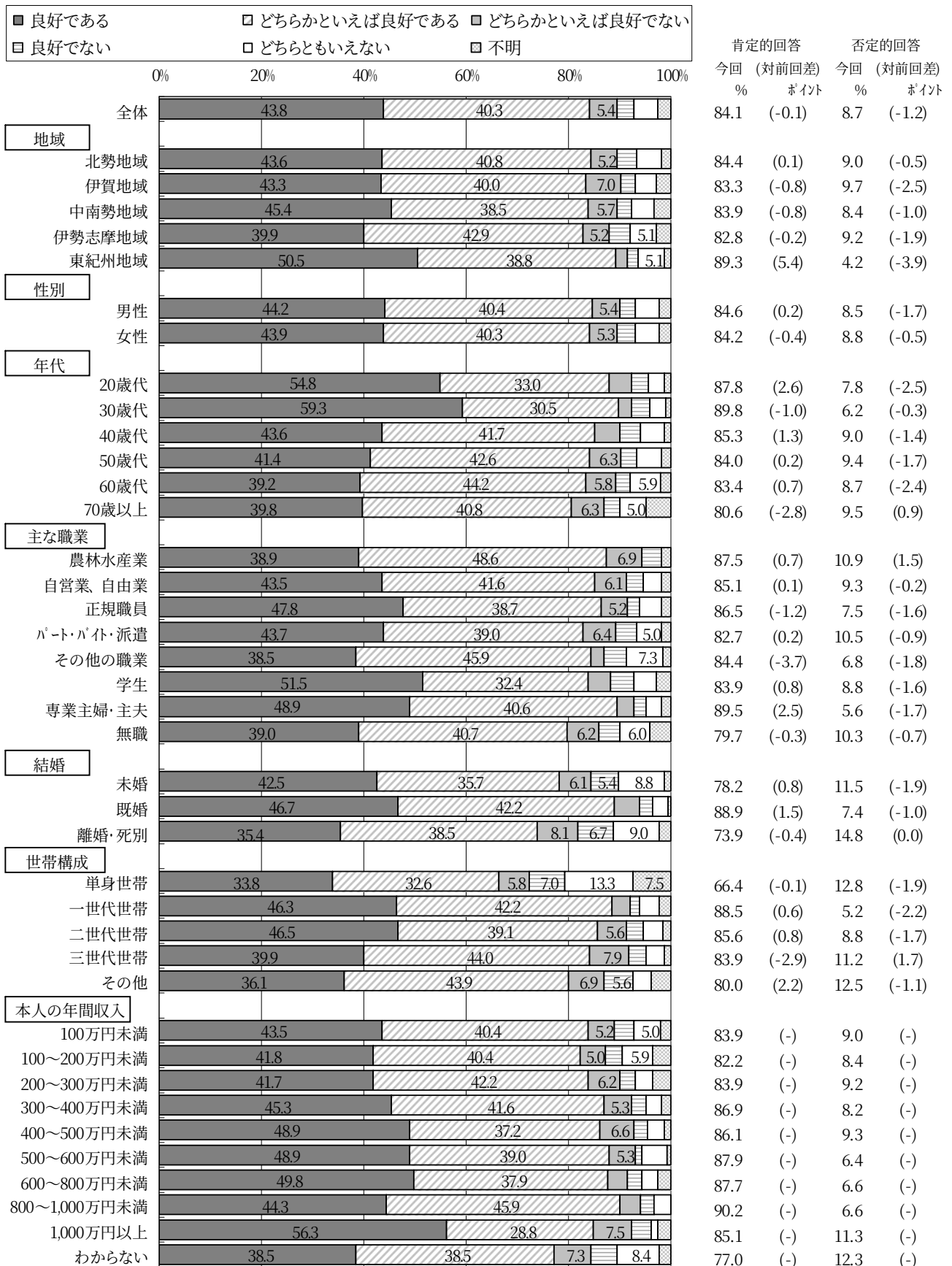
○県全体との比較において特徴の見られる主な属性項目は次のとおりです。

- ・20 歳代の「良好である」の割合が 54.8%で、県全体より 11.0 ポイント高くなっています。
- ・30 歳代の「良好である」の割合が 59.3%で、県全体より 15.5 ポイント高くなっています。
- ・離婚・死別の「肯定的回答」の割合が 73.9%で、県全体より 10.2 ポイント低くなっています。
- ・単身世帯は「肯定的回答」の割合が 66.4%、そのうち「良好である」の割合が 33.8%で、県全体よりそれぞれ 17.7 ポイント、10.0 ポイント低くなっています。
- ・本人の年間収入額が 1,000 万円以上の層の「良好である」の割合が 56.3%で、県全体より 12.5 ポイント高くなっています。

○属性項目間の比較において特徴が見られる主な属性は次のとおりです。

- ・地域別では、東紀州地域は「良好である」の割合が 50.5%と地域の中で最も高く、最も低い伊勢志摩地域(39.9%)に比べて 10.6 ポイント高くなっています。
- ・年代別では、20 歳代、30 歳代は「良好である」の割合がそれぞれ 54.8%、59.3%と他の年代に比べて高くなっています。
- ・結婚別では、既婚は「肯定的回答」の割合が 88.9%で、未婚、離婚・死別に比べて 10 ポイント以上高くなっています。

図表2-3-1 家族との関係



※「肯定的回答」の割合・・・「良好である」と「どちらかといえば良好である」の割合を小数点第2位で四捨五入した数値の合計
 ※「否定的回答」の割合・・・「良好でない」と「どちらかといえば良好でない」の割合を小数点第2位で四捨五入した数値の合計

問3-2 あなたは、子どもを持つことは豊かな人生につながると思いますか。次の中からあてはまるものを1つだけ選んでください。(○は1つだけ)

【子どもを持つことと豊かな人生】

○子どもを持つことは豊かな人生につながるか質問したところ、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の割合を合計した「肯定的回答」の割合が 84.1%で、「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」の割合を合計した「否定的回答」の割合（6.3%）より 77.8 ポイント高くなっています。

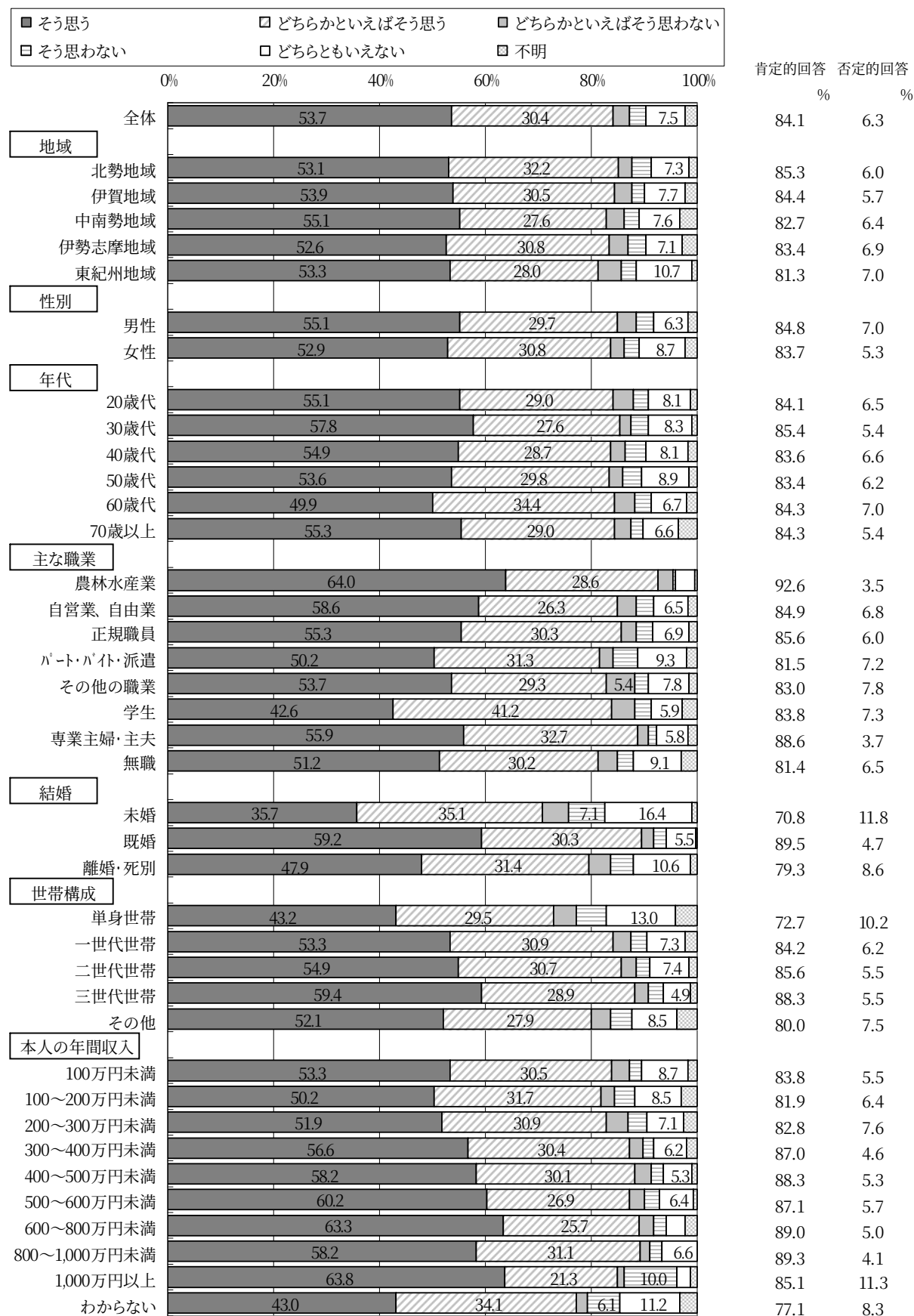
○県全体との比較において特徴の見られる主な属性項目は次のとおりです。

- ・農林水産業の「そう思う」の割合が 64.0%で、県全体より 10.3 ポイント高くなっています。
- ・学生の「そう思う」の割合は 42.6%で、県全体より 11.1 ポイント低くなっています。
- ・未婚は「肯定的回答」の割合が 70.8%、そのうち「そう思う」の割合が 35.7%で、県全体よりそれぞれ 13.3 ポイント、18.0 ポイント低くなっています。
- ・単身世帯は「肯定的回答」の割合が 72.7%、そのうち「そう思う」の割合が 43.2%で、県全体よりそれぞれ 11.4 ポイント、10.5 ポイント低くなっています。
- ・本人の年間収入額が 1,000 万円以上の層の「そう思う」の割合が 63.8%で、県全体より 10.1 ポイント高くなっています

○属性項目間の比較において特徴が見られる主な属性は次のとおりです。

- ・結婚別では、既婚は「肯定的回答」の割合が 89.5%、そのうち「そう思う」の割合が 59.2%となっており、未婚、離婚・死別に比べてそれぞれ 10 ポイント以上高くなっています。
- ・世帯構成別では、世帯を構成する世代数が多いほど、「肯定的回答」の割合、ならびに「そう思う」の割合が高く、三世代世帯の「肯定的回答」の割合（88.3%）、そのうち「そう思う」の割合（59.4%）は、単身世帯に比べてそれぞれ 10 ポイント以上高くなっています。

図表2-3-2 子どもを持つことと豊かな人生



※「肯定的回答」の割合・・・「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の割合を小数点第2位で四捨五入した数値の合計

※「否定的回答」の割合・・・「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」の割合を小数点第2位で四捨五入した数値の合計

問3-3 お子様（同居、別居を問わず）は、何人いらっしゃいますか。4つの欄それぞれに人数をご記入ください。いらっしゃらない場合は「いない」に○をつけてください。

【子どもの数】

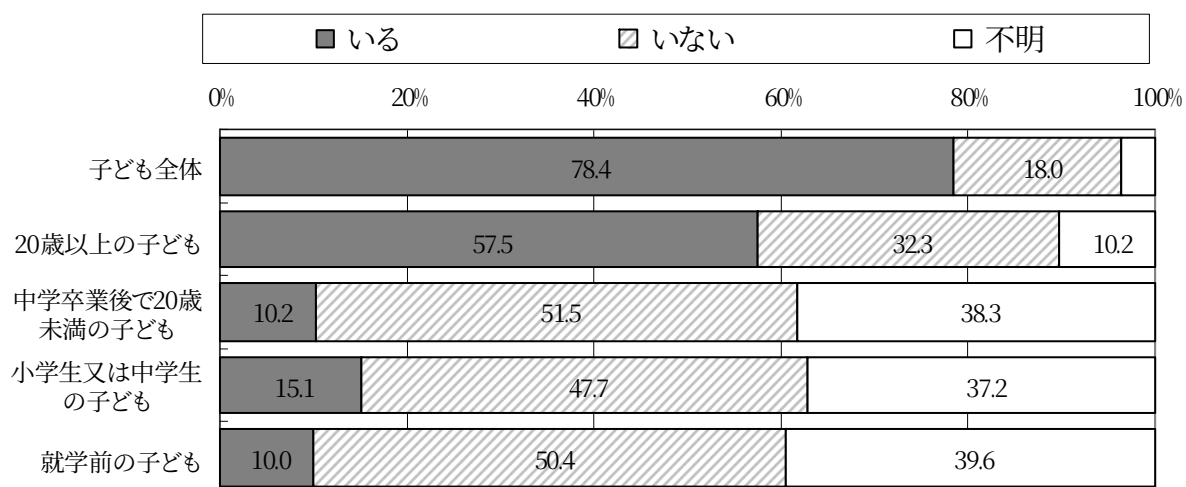
○子どもの数について質問したところ、「2人」の割合が45.5%となっており、次いで「いない」（18.6%）、「3人」（16.8%）、「1人」（15.4%）となっています。

回答していただいた方の子どもの平均人数は、1.7人となっています。

なお、子どもの有無については、「いる」の割合が78.4%で、「いない」の割合が18.0%となっています。

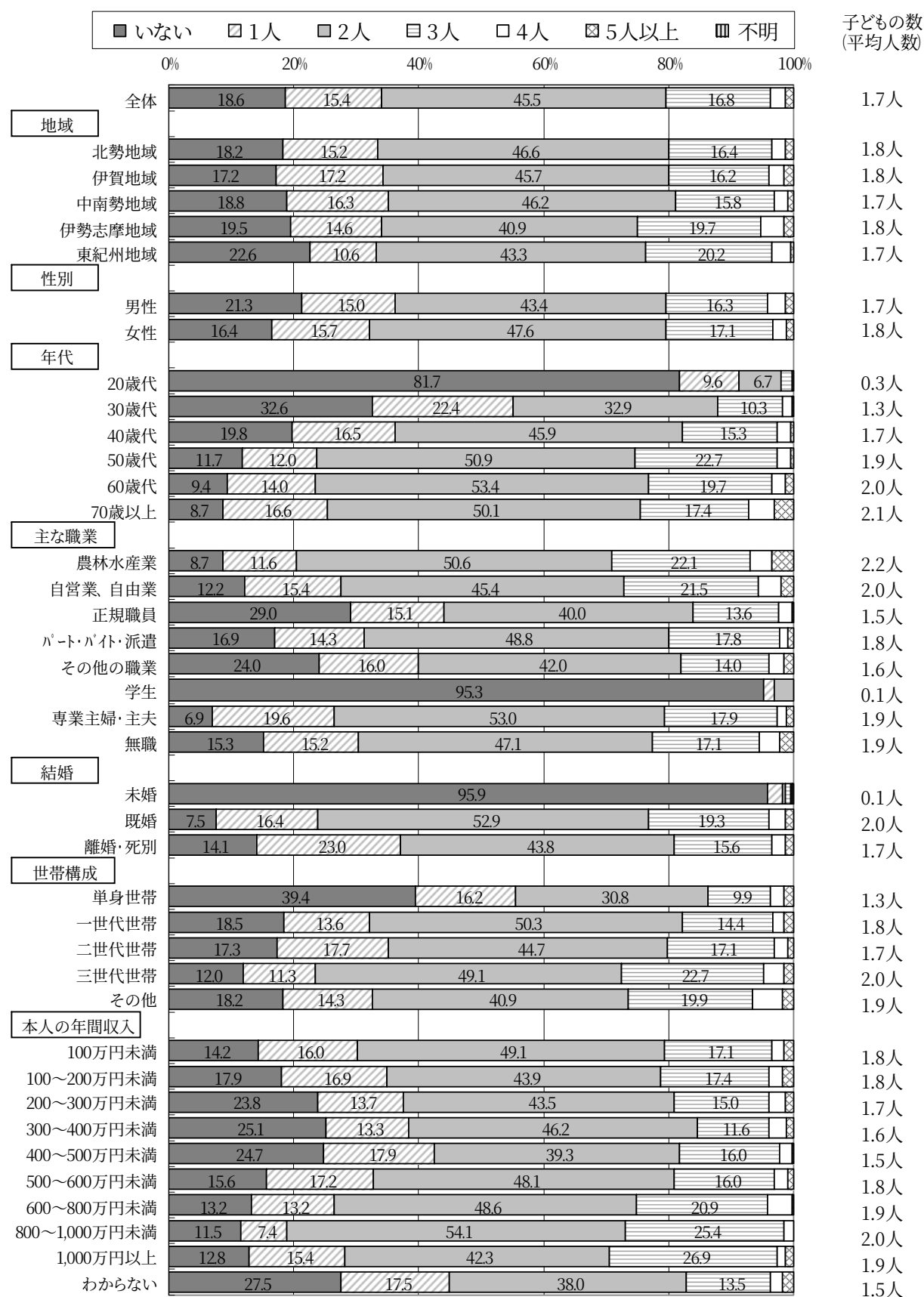
子どもの内訳でみると、20歳以上の子どもを持つ割合が57.5%、中学卒業後で20歳未満の子どもを持つ割合が10.2%、小学生又は中学生の子どもを持つ割合が15.1%、就学前の子どもを持つ割合が10.0%となっています。

図表2-3-3 子どもの有無



※未回答の方などの「不明」も含め割合を算出。

図表2-3-4 子どもの数



※【問3-3】で人数が明記された回答、または「いない」と回答した方を対象に割合を算出
 ※「いない」の回答を「0人」とし、平均値を算出。

問3－4 あなたは子どもを何人くらいほしいですか。あるいは、ほしかったですか。理想の子ども的人数をお答えください。(○は1つだけ。「1」に○をつけた方は()に人数も記入してください。)

【理想の子どもの数】

理想の子どもの数について質問したところ、「3人」の割合が44.7%と最も高く、次いでほぼ同率で「2人」(44.4%)となっています。

理想の子どもの数の平均は、2.5人となっています。

○県全体との比較において特徴の見られる主な属性項目は次のとおりです。

- ・東紀州地域は「3人」の割合が56.6%で、県全体より11.9ポイント高くなっています。
- ・20歳代は「2人」の割合が62.4%で、県全体より18.0ポイント高くなっています。
- ・農林水産業は「3人」の割合が57.0%で、県全体より12.3ポイント高くなっています。
- ・学生は「2人」の割合が65.5%で、県全体より21.1ポイント高くなっています。
- ・未婚は「2人」の割合が57.0%で、県全体より12.6ポイント高くなっています。

○属性項目間の比較において特徴が見られる主な属性は次のとおりです。

- ・地域別では、北勢地域、中南勢地域は「2人」、伊賀地域、伊勢志摩地域、東紀州地域は「3人」の割合が最も高くなっています。特に東紀州地域は「3人」の割合が56.6%と地域の中で最も高く、「2人」(30.3%)の割合より26.3ポイント高くなっています。
- ・年代別では、年代が高くなるほど「3人」の割合が高くなっており、20歳代は28.1%であるのに対し、70歳以上は50.2%となっています。

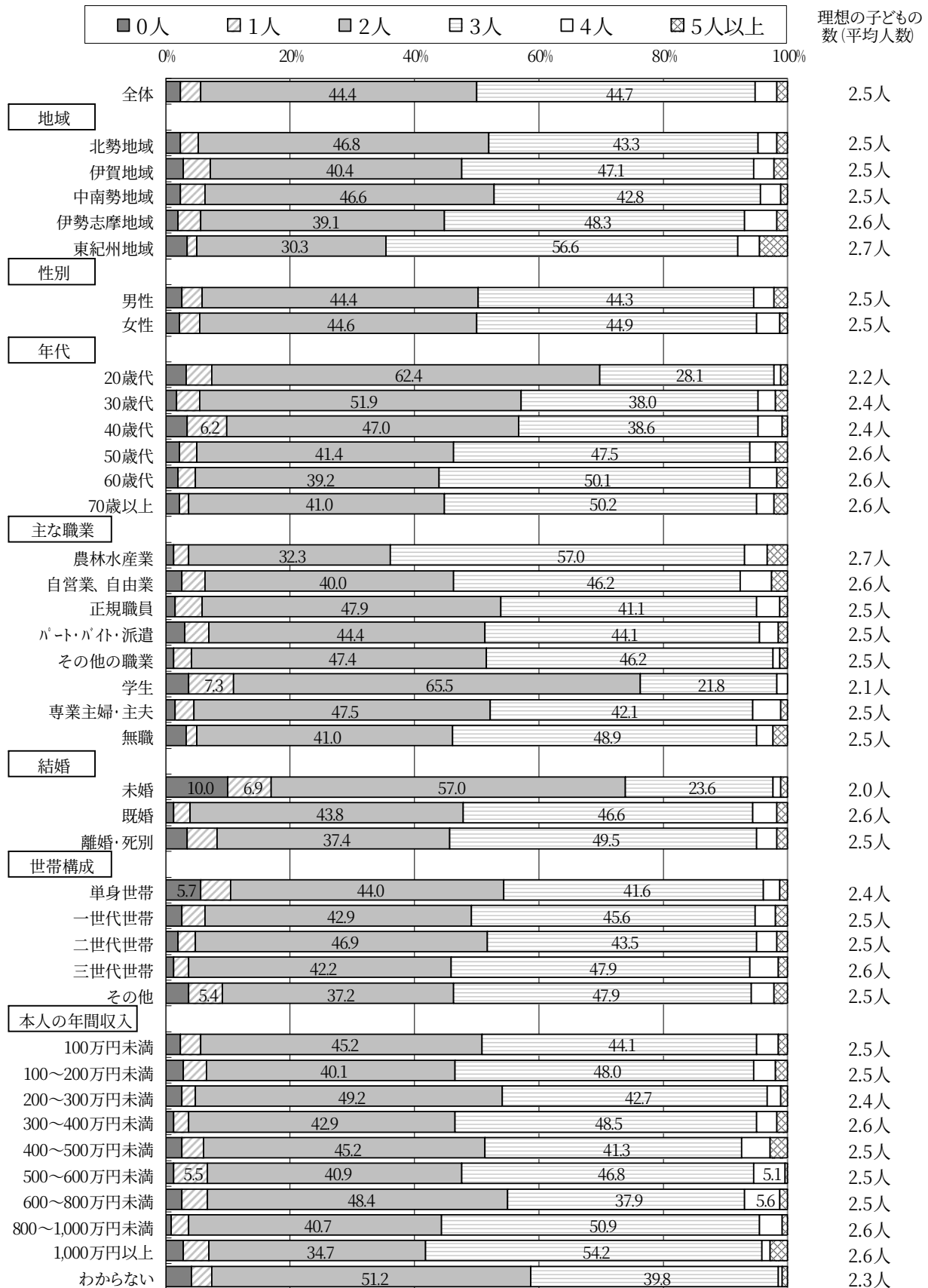
平均人数をみると、20歳代は「2.2人」となっていますが、30歳代、40歳代は「2.4人」、50歳代以上は「2.6人」となっています。

- ・主な職業別では、農林水産業、自営業・自由業、無職は「3人」の割合が最も高く、それ以外の職業は「2人」の割合が最も高くなっています。

平均人数をみると、学生は「2.1人」と職業の中で最も少なくなっています。

- ・結婚別では、未婚は「2人」、既婚、離婚・死別は「3人」の割合が最も高くなっています。

図表2-3-5 理想の子どもの数



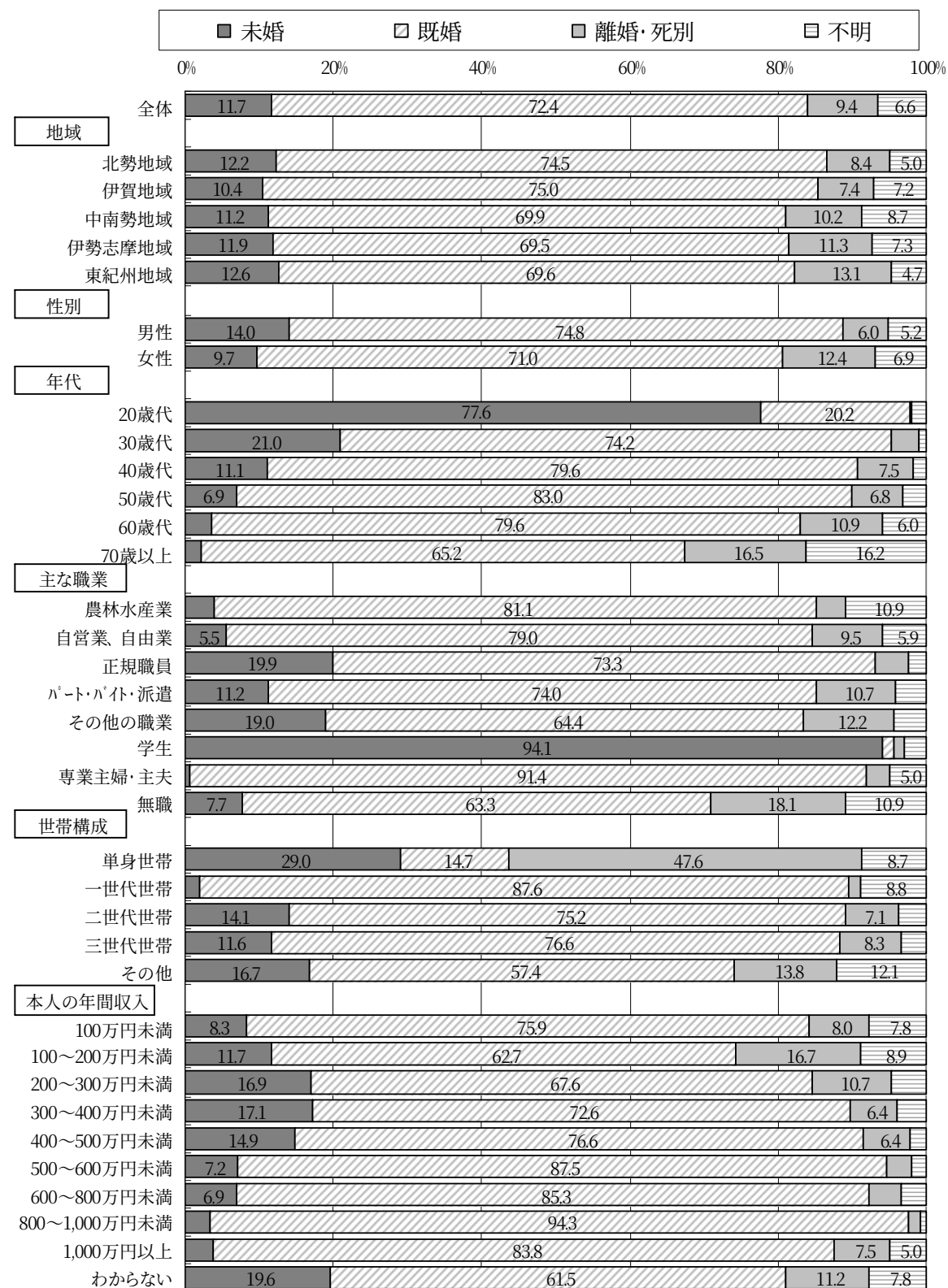
※【問3-4】で理想の子どもの人数が明記された回答、または「ほしくない」と回答した方を対象に数値を算出。
 ※平均値の算出にあたっては、「ほしくない」の回答を「0人」としています。

問3－5 あなたはご結婚されていますか。(○は1つだけ)

【結婚】

○結婚しているか質問したところ、「既婚」が72.4%、「未婚」が11.7%、「離婚・死別」が9.4%となっています。

図表2-3-6 結婚



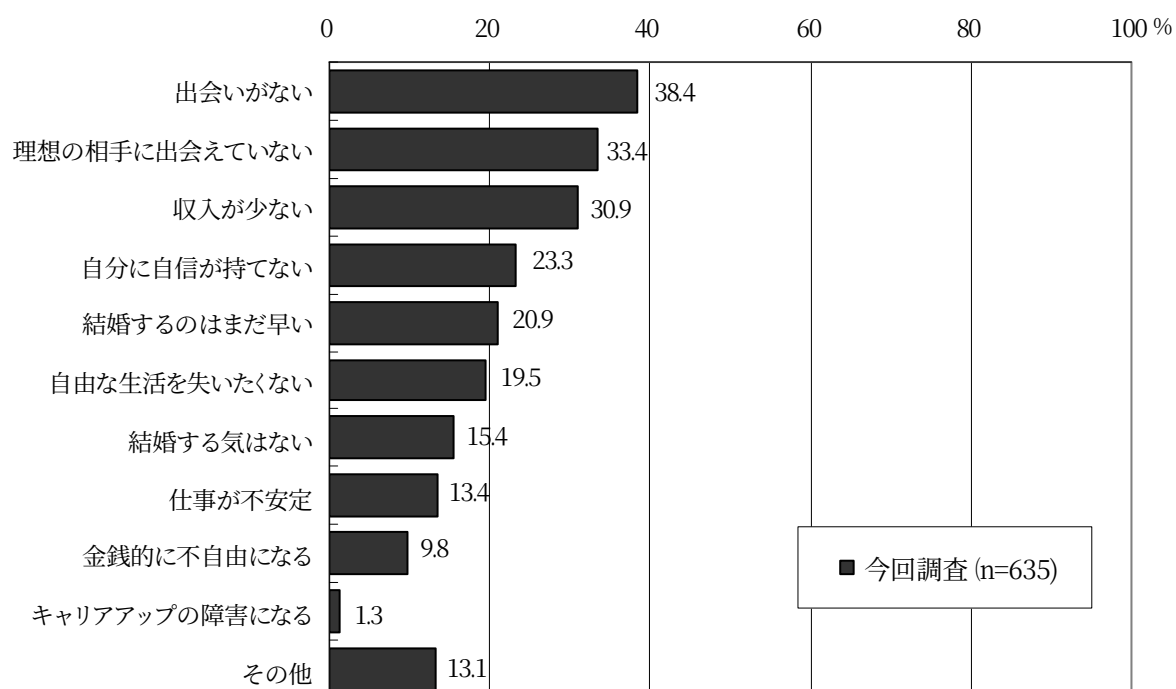
問3-5 続き

問3-5 「1」に○をつけた方におききします。結婚していない理由は何ですか。次の中からあてはまるものすべてに○をつけてください。(○はいくつでも)

【結婚していない理由】

○問3-5で、「1 未婚」と回答した方に対して、結婚していない理由について質問したところ、「出会いがない」が38.4%と最も高く、次いで「理想の相手に出会えていない」(33.4%)、「収入が少ない」(30.9%)となっています。

図表2-3-7 結婚していない理由(複数回答)



○属性項目間の比較において特徴が見られる主な属性は次のとおりです。

- ・地域別では、伊勢志摩地域と東紀州地域以外の地域は「出会いがない」が最も高くなっています。伊勢志摩地域は「収入が少ない」が40.4%と地域別の中で最も高く、1位となっています。東紀州地域は「結婚する気はない」が37.0%と地域別の中で最も高く、1位となっています。伊賀地域では「収入が少ない」が39.7%で2位、「仕事が不安定」が24.1%で5位となっています。

図表2-3-8 結婚していない理由（複数回答）（地域別上位5項目）

地域別	1位	2位	3位	4位	5位
北勢地域	出会いがない 39.5	理想の相手に出会えていない 33.3	収入が少ない 28.5	自分に自信が持てない 23.7	結婚するのはまだ早い 21.0
伊賀地域	出会いがない 41.4	収入が少ない 39.7	理想の相手に出会えていない 36.2	自由な生活を失いたくない 25.9	結婚するのはまだ早い、仕事が不安定 24.1
中南勢地域	出会いがない 39.4	理想の相手に出会えていない 31.8	収入が少ない 28.8	結婚するのはまだ早い 26.5	自分に自信が持てない 20.0
伊勢志摩地域	収入が少ない 40.4	出会いがない 37.1	理想の相手に出会えていない 36.0	自分に自信が持てない 30.3	自由な生活を失いたくない 27.0
東紀州地域	結婚する気はない 37.0	理想の相手に出会えていない 29.6	出会いがない 18.5	収入が少ない 18.5	自分に自信が持てない 18.5

※「東紀州地域」についてはサンプル数が27となっています。

- ・性別では、男性は「収入が少ない」、女性は「出会いがない」が最も高くなっています。男性の「収入が少ない」（41.3%）は女性（17.2%）より24.1ポイント高くなっています。

図表2-3-9 結婚していない理由（複数回答）（性別上位5項目）

男性	収入が少ない 41.3	出会いがない 39.0	理想の相手に出会えていない 29.3	自分に自信が持てない 24.0	結婚するのはまだ早い 20.8
女性	出会いがない 37.6	理想の相手に出会えていない 37.3	自分に自信が持てない 22.9	結婚するのはまだ早い、自由な生活を失いたくない 22.2	

- ・年代別では、20歳代は「結婚するのはまだ早い」、30歳代から50歳代までは「出会いがない」が最も高くなっています。30歳代は「自分に自信が持てない」（32.9%）、「自由な生活を失いたくない」（25.0%）がそれぞれ3位、5位となっています。

図表2-3-10 結婚していない理由（複数回答）（年代別上位5項目）

年代	1位	2位	3位	4位	5位
20歳代	結婚するのはまだ早い 51.0	理想の相手に出会えていない 32.9	出会いがない 32.5	収入が少ない 30.9	自分に自信が持てない 21.3
30歳代	出会いがない 54.3	理想の相手に出会えていない 37.9	自分に自信が持てない 32.9	収入が少ない 32.1	自由な生活を失いたくない 25.0
40歳代	出会いがない 45.8	理想の相手に出会えていない 38.5	収入が少ない 32.3	結婚する気はない、自分に自信が持てない 24.0	
50歳代	出会いがない 38.5	収入が少ない 35.4	結婚する気はない 30.8	理想の相手に出会えていない、自分に自信が持てない 24.6	

※「60歳代」、「70歳代」についてはサンプル数が50未満のため記載していません。

- ・主な職業別では、正規職員は「出会いがない」(44.4%)、パート・アルバイト・派遣社員は「出会いがない」、「収入が少ない」(同率で 40.4%)、学生は「結婚するのはまだ早い」(81.3%)、無職は「結婚する気はない」、「収入が少ない」(同率で 33.7%) が最も高くなっています。また、パート・アルバイト・派遣社員は「仕事が不安定」が 27.5%と他の職業より高く、4位となっています。

図表 2-3-11 結婚していない理由(複数回答)(主な職業別上位5項目)

主な職業	1位	2位	3位	4位	5位
正規職員	出会いがない 44.4	理想の相手に出会えていない 41.9	収入が少ない 31.1	自分に自信が持てない 27.0	自由な生活を失いたくない 23.7
パート・アルバイト・派遣	出会いがない、収入が少ない 40.4		理想の相手に出会えていない 29.4	仕事が不安定 27.5	結婚する気はない 22.9
学生	結婚するのはまだ早い 81.3	出会いがない 25.0	理想の相手に出会えていない 20.3	収入が少ない、自由な生活を失いたくない 15.6	
無職	結婚する気はない、収入が少ない 33.7		自分に自信が持てない 29.5	出会いがない 25.3	理想の相手に出会えていない 22.1

※「農林水産業」、「自営業・自由業」、「専業主婦・主夫」についてはサンプル数が 50 未満のため記載していません。

- ・本人の年間収入別では、100 万円未満の層は「結婚するのはまだ早い」、100 万円から 300 万円未満の層は「収入が少ない」、300 万円から 400 万円未満の層は「理想の相手に出会えていない」、400 万円から 500 万円未満の層は「出会いがない」が最も高くなっています。400 万円から 500 万円未満の層は「自由な生活を失いたくない」が 33.9%で 3 位、300 万円から 400 万円未満の層でも 25.0%で 4 位となっています。

図表 2-3-12 結婚していない理由(複数回答)(本人の年間収入別上位5項目)

本人の年間収入	1位	2位	3位	4位	5位
100万円未満	結婚するのはまだ早い 42.9	出会いがない 33.3	収入が少ない 29.4	理想の相手に出会えていない 23.8	結婚する気はない 21.4
100～200万円未満	収入が少ない 37.2	出会いがない 31.4	理想の相手に出会えていない 28.9	自分に自信が持てない 28.1	結婚する気はない 24.8
200～300万円未満	収入が少ない 39.0	出会いがない 38.2	理想の相手に出会えていない 37.5	自分に自信が持てない 27.2	結婚するのはまだ早い 22.1
300～400万円未満	理想の相手に出会えていない 43.2	出会いがない 39.8	収入が少ない 28.4	自由な生活を失いたくない 25.0	結婚するのはまだ早い、自分に自信が持てない 14.8
400～500万円未満	出会いがない 51.8	理想の相手に出会えていない 37.5	自由な生活を失いたくない 33.9	自分に自信が持てない 25.0	収入が少ない 23.2

※「500 万円から 600 万円未満」、「600 万円から 800 万円未満」、「800 万円から 1,000 万円未満」、「1,000 万円以上」の層についてはサンプル数が 50 未満のため記載していません。

問3－6 あなたは、悩みや不安、心配ごとなど、精神面で負担となっていることはありますか。
次の中からあてはまるものを1つだけ選んでください。(○は1つだけ)

【悩みや不安、心配ごとなど】

○悩みや不安、心配ごとなど精神面で負担となっていることがあるか質問したところ、「ある」と「どちらかといえばある」を合計した割合（以下、『ある』の割合」と記載）が 70.6%で、「ない」と「どちらかといえはない」を合計した割合（以下、『ない』の割合」と記載）(21.6%) より 49.0 ポイント高くなっています。

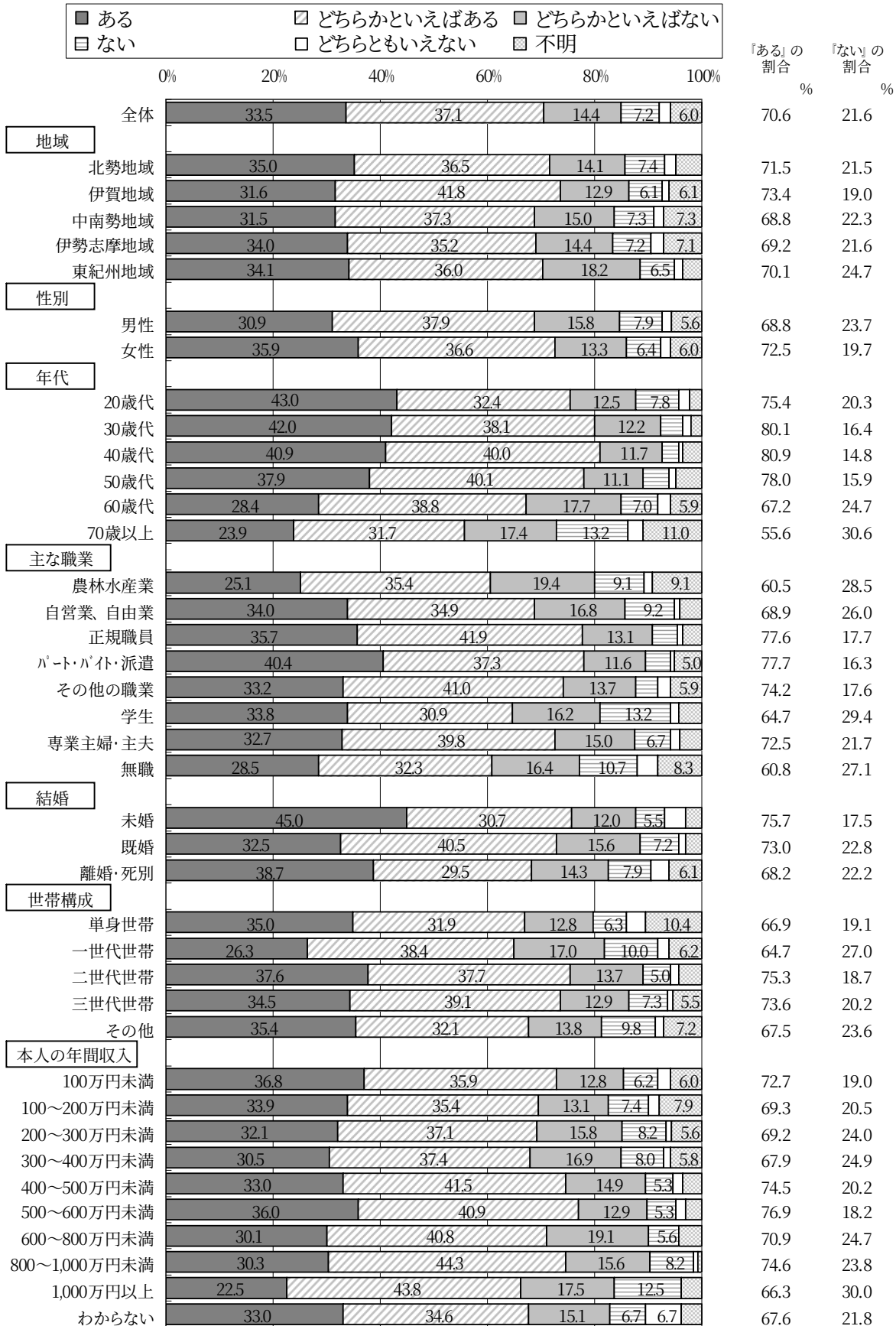
○県全体との比較において特徴の見られる主な属性項目は次のとおりです。

- ・ 40 歳代は『ある』の割合が 80.9%で、県全体より 10.3 ポイント高くなっています。
- ・ 70 歳以上は『ある』の割合が 55.6%で、県全体より 15.0 ポイント低くなっています。
- ・ 農林水産業は『ある』の割合が 60.5%で、県全体より 10.1 ポイント低くなっています。
- ・ 未婚は「ある」の割合が 45.0%で、県全体より 11.5 ポイント高くなっています

○属性項目間の比較において特徴が見られる主な属性は次のとおりです。

- ・ 年代別では、年代が若いほど「ある」の割合が高く、20 歳代は「ある」の割合が 43.0%と最も高くなっています。
- ・ 職業別では、パート・アルバイト・派遣社員は『ある』の割合が 77.7%、そのうち「ある」の割合が 40.4%と職業の中でそれぞれ最も高くなっています。
- ・ 本人の年間収入別では、1,000 万円以上の層は、『ある』の割合が 66.3%、そのうち「ある」の割合が 22.5%と本人の年間収入別の層の中でそれぞれ最も低くなっています。

図表2-3-13 悩みや不安、心配ごとなど



※『ある』の割合…「ある」と「どちらかといえばある」の割合を小数点第2位で四捨五入した数値の合計

※『ない』の割合…「ない」と「どちらかといえばない」の割合を小数点第2位で四捨五入した数値の合計

問3－6 続き

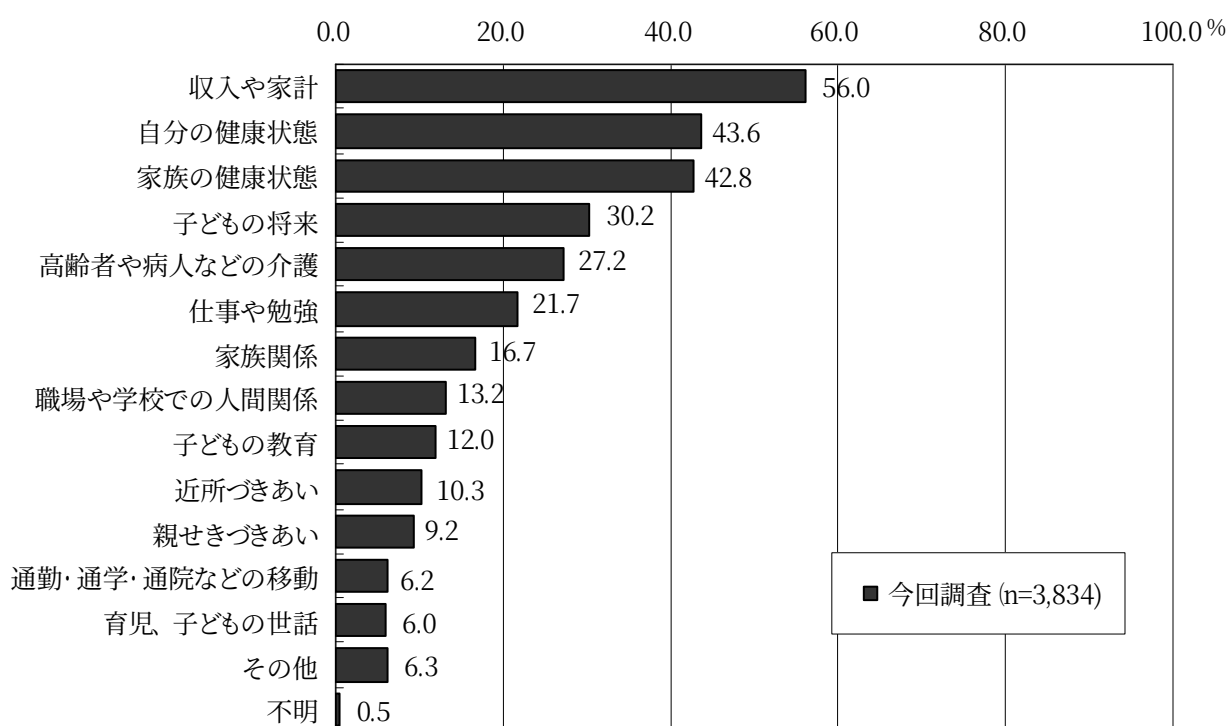
問3－5 悩みや不安、心配ごとの有無で「1」または「2」に○をつけた方におききします。

その原因としてあてはまるものは何ですか。次の中からあてはまるものすべてに○をつけてください。（○はいくつでも）

【悩みや不安、心配ごとなどの原因】

○問3－5の悩みや不安、心配ごとの有無で、「1 ある」「2 どちらかといえばある」と回答した方に対して悩みや不安、心配ごとなどの原因について質問したところ、「収入や家計」が56.0%と最も高く、次いで「自分の健康状態」(43.6%)、「家族の健康状態」(42.8%)となっています。

図表2-3-14 悩みや不安、心配ごとなどの原因(複数回答)



- ・地域別では、すべての地域で「収入や家計」が最も高く、順位は異なるものの上位5項目は全ての地域で同じです。

図表2-3-15 悩みや不安、心配ごとなどの原因(複数回答)(地域別上位5項目)

地域別	1位	2位	3位	4位	5位
北勢地域	収入や家計 55.5	自分の健康状態 43.2	家族の健康状態 42.6	子どもの将来 32.7	高齢者や病人などの介護 27.4
伊賀地域	収入や家計 58.2	家族の健康状態 43.0	自分の健康状態 41.3	高齢者や病人などの介護 28.4	子どもの将来 27.9
中南勢地域	収入や家計 53.4	家族の健康状態 43.5	自分の健康状態 43.4	子どもの将来 28.8	高齢者や病人などの介護 27.9
伊勢志摩地域	収入や家計 61.7	自分の健康状態 44.7	家族の健康状態 42.6	子どもの将来 27.4	高齢者や病人などの介護 24.5
東紀州地域	収入や家計 54.7	自分の健康状態 51.3	家族の健康状態 40.7	子どもの将来 28.0	高齢者や病人などの介護 25.3

- ・性別では、男女ともに順位は異なるものの上位4項目は同じです。5位は男性が「仕事や勉強」、女性が「高齢者や病人などの介護」となっています。

図表2-3-16 悩みや不安、心配ごとなどの原因(複数回答)(性別上位5項目)

年代	1位	2位	3位	4位	5位
男性	収入や家計 58.1	自分の健康状態 45.0	家族の健康状態 42.5	子どもの将来 29.0	仕事や勉強 27.6
女性	収入や家計 54.2	家族の健康状態 43.4	自分の健康状態 42.5	子どもの将来 31.5	高齢者や病人などの介護 27.2

- ・年代別では、20歳代は「仕事や勉強」、30歳代から50歳代は「収入や家計」、60歳代以上は「自分の健康状態」がそれぞれ最も高くなっています。20歳代は「職場や学校での人間関係」(34.3%)、30歳代は「子どもの教育」(31.6%)が、それぞれ3位となっています。

図表2-3-17 悩みや不安、心配ごとなどの原因(複数回答)(年代別上位5項目)

年代	1位	2位	3位	4位	5位
20歳代	仕事や勉強 63.6	収入や家計 52.9	職場や学校での人間関係 34.3	家族の健康状態 24.0	自分の健康状態 21.9
30歳代	収入や家計 70.2	仕事や勉強 40.8	子どもの教育 31.6	家族の健康状態 31.1	子どもの将来 29.6
40歳代	収入や家計 65.4	子どもの将来 43.1	家族の健康状態 38.8	自分の健康状態 33.5	仕事や勉強 31.9
50歳代	収入や家計 57.0	家族の健康状態 44.3	自分の健康状態 43.5	子どもの将来 41.5	高齢者や病人などの介護 39.3
60歳代	自分の健康状態 53.3	収入や家計 53.2	家族の健康状態 52.0	子どもの将来 30.2	高齢者や病人などの介護 29.8
70歳以上	自分の健康状態 64.8	家族の健康状態 50.5	収入や家計 38.9	高齢者や病人などの介護 27.8	家族関係 16.6

- ・主な職業別では、農林水産業と専業主婦・主夫が「家族の健康状態」、自営業・自由業、正規職員、パート・アルバイト・派遣社員が「収入や家計」、無職が「自分の健康状態」が最も高くなっています。正規職員は「仕事や勉強」が41.1%で、2位となっています。

図表 2-3-18 悩みや不安、心配ごとなどの原因〔複数回答〕（主な職業別上位5項目）

主な職業	1位	2位	3位	4位	5位
農林水産業	家族の健康状態 52.8	収入や家計 48.1	自分の健康状態 46.2	高齢者や病人などの介護 40.6	子どもの将来 26.4
自営業 自由業	収入や家計 58.7	家族の健康状態 45.4	自分の健康状態 44.3	高齢者や病人などの介護 29.6	子どもの将来 28.0
正規職員	収入や家計 56.6	仕事や勉強 41.1	家族の健康状態 35.0	子どもの将来 34.5	自分の健康状態 32.1
パート・バイト・派遣	収入や家計 71.4	家族の健康状態 41.9	子どもの将来 37.2	自分の健康状態 36.1	高齢者や病人などの介護 26.2
その他の職業	収入や家計 64.5	家族の健康状態 46.7	自分の健康状態 44.7	子どもの将来 24.3	職場や学校での人間関係 21.7
専業主婦・主夫	家族の健康状態 49.3	収入や家計 48.7	自分の健康状態 46.5	子どもの将来 35.5	高齢者や病人などの介護 30.7
無職	自分の健康状態 64.2	家族の健康状態 47.6	収入や家計 46.4	高齢者や病人などの介護 26.1	子どもの将来 18.5

※「学生」についてはサンプル数が50未満のため記載していません。

- ・結婚別では、未婚は「仕事や勉強」が2位、「職場や学校での人間関係」が4位となっています。

図表 2-3-19 悩みや不安、心配ごとなどの原因〔複数回答〕（結婚別上位5項目）

地域別	1位	2位	3位	4位	5位
未婚	収入や家計 55.5	仕事や勉強 50.9	自分の健康状態 34.7	職場や学校での人間関係 29.9	家族の健康状態 29.1
既婚	収入や家計 55.5	家族の健康状態 47.0	自分の健康状態 43.3	子どもの将来 36.6	高齢者や病人などの介護 29.7
離婚・死別	収入や家計 64.6	自分の健康状態 57.1	家族の健康状態 26.2	子どもの将来 23.6	高齢者や病人などの介護 22.5

- ・世帯構成別では、単身世帯は「自分の健康状態」、一世代世帯は「家族の健康状況」、二世帯世帯、三世帯世帯は「収入や家計」が最も高くなっています。

図表 2-3-20 悩みや不安、心配ごとなどの原因（複数回答）（世帯構成別上位5項目）

地域別	1位	2位	3位	4位	5位
単身世帯	自分の健康状態 59.6	収入や家計 54.5	家族の健康状態 18.4	仕事や勉強 17.7	家族関係 16.2
一世代世帯	家族の健康状態 53.6	自分の健康状態 52.7	収入や家計 49.4	高齢者や病人などの介護 28.6	子どもの将来 15.1
二世帯世帯	収入や家計 58.2	家族の健康状態 41.1	子どもの将来 38.8	自分の健康状態 37.0	仕事や勉強 26.6
三世帯世帯	収入や家計 58.7	家族の健康状態 44.2	自分の健康状態 42.2	子どもの将来 39.0	高齢者や病人などの介護 35.9
その他	収入や家計 63.1	家族の健康状態 43.2	自分の健康状態 40.8	高齢者や病人などの介護 36.4	子どもの将来 34.0

- ・本人の年間収入別では、800 万円未満の層では「収入や家計」、800 万円以上の層は「子どもの将来」が最も高くなっています。800 万円以上の層は「収入や家計」は5位となっています。また、500 万円から 600 万円未満の層は「仕事や勉強」が 43.3%となっており、2位となっています。

図表 2-3-21 悩みや不安、心配ごとなどの原因（複数回答）（本人の年間収入別上位5項目）

本人の年間収入	1位	2位	3位	4位	5位
100万円未満	収入や家計 57.5	自分の健康状態 46.7	家族の健康状態 46.6	子どもの将来 31.0	高齢者や病人などの介護 28.6
100～200万円未満	収入や家計 61.2	自分の健康状態 48.5	家族の健康状態 43.0	子どもの将来 27.2	高齢者や病人などの介護 27.1
200～300万円未満	収入や家計 55.4	家族の健康状態 42.8	自分の健康状態 42.4	高齢者や病人などの介護 25.2	子どもの将来 24.8
300～400万円未満	収入や家計 59.3	家族の健康状態 39.8	自分の健康状態 35.0	仕事や勉強 29.5	子どもの将来 27.5
400～500万円未満	収入や家計 58.2	家族の健康状態 42.5	自分の健康状態 40.7	子どもの将来 34.3	仕事や勉強 33.6
500～600万円未満	収入や家計 53.2	仕事や勉強 43.3	家族の健康状態 41.9	自分の健康状態 38.4	子どもの将来 37.9
600～800万円未満	収入や家計 46.5	子どもの将来 37.6	自分の健康状態 36.7	仕事や勉強 35.8	家族の健康状態 34.5
800～1,000万円未満	子どもの将来 45.1	自分の健康状態 家族の健康状態 40.7	高齢者や病人などの介護 37.4	収入や家計 33.0	
1,000万円以上	子どもの将来 47.2	家族の健康状態 39.6	自分の健康状態 34.0	高齢者や病人などの介護 32.1	収入や家計 仕事や勉強 22.6
わからない	収入や家計 57.0	自分の健康状態 48.8	家族の健康状態 37.2	子どもの将来 31.4	家族関係 高齢者や病人などの介護 22.3

4. 地域や社会への参画

ここからは、「地域や社会への参画」をテーマとした質問項目について記載しています。

問	項目	質問文の概要
4-1	地域や社会への貢献意欲	・お住まいの地域や社会のために役に立ちたいと思いますか。
4-2	近所づきあい	・次のア、イ、ウにあてはまるご近所の方の人数をお答えください。 ア 生活面で協力しあっている人 イ 立ち話程度のつきあいの人 ウ あいさつ程度のつきあいの人
4-3	地域活動の参加度合い	・次のような活動に参加されていますか。 ア 町内会、自治会の活動 イ スポーツ・趣味・娯楽活動 ウ 市民・ボランティア・NPO 活動 エ その他の地縁活動
4-4	地域の住みやすさ	・現在お住まいの地域は住みやすいですか。
4-5	男女の役割分担意識	・「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について、どう思いますか。
4-6	女性就労に対する考え方	・女性が働く（収入のある仕事をする）ことについて、どう思いますか。
4-7	家事や育児、介護の時間	・1日の中で、家事（炊事、洗たく、そうじなど）や育児・子どもの世話、介護などにどのくらい時間をかけていますか。

問4－1 あなたは、お住まいの地域や社会のために役に立ちたいと思いますか。次の中からあてはまるものを1つだけ選んでください。(○は1つだけ)

【地域や社会への貢献意欲】

○住んでいる地域や社会のために役立ちたいと思うか質問したところ、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合計した「肯定的回答」の割合が 70.0%で、「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」を合計した「否定的回答」の割合（14.8%）より 55.2 ポイント高くなっています。

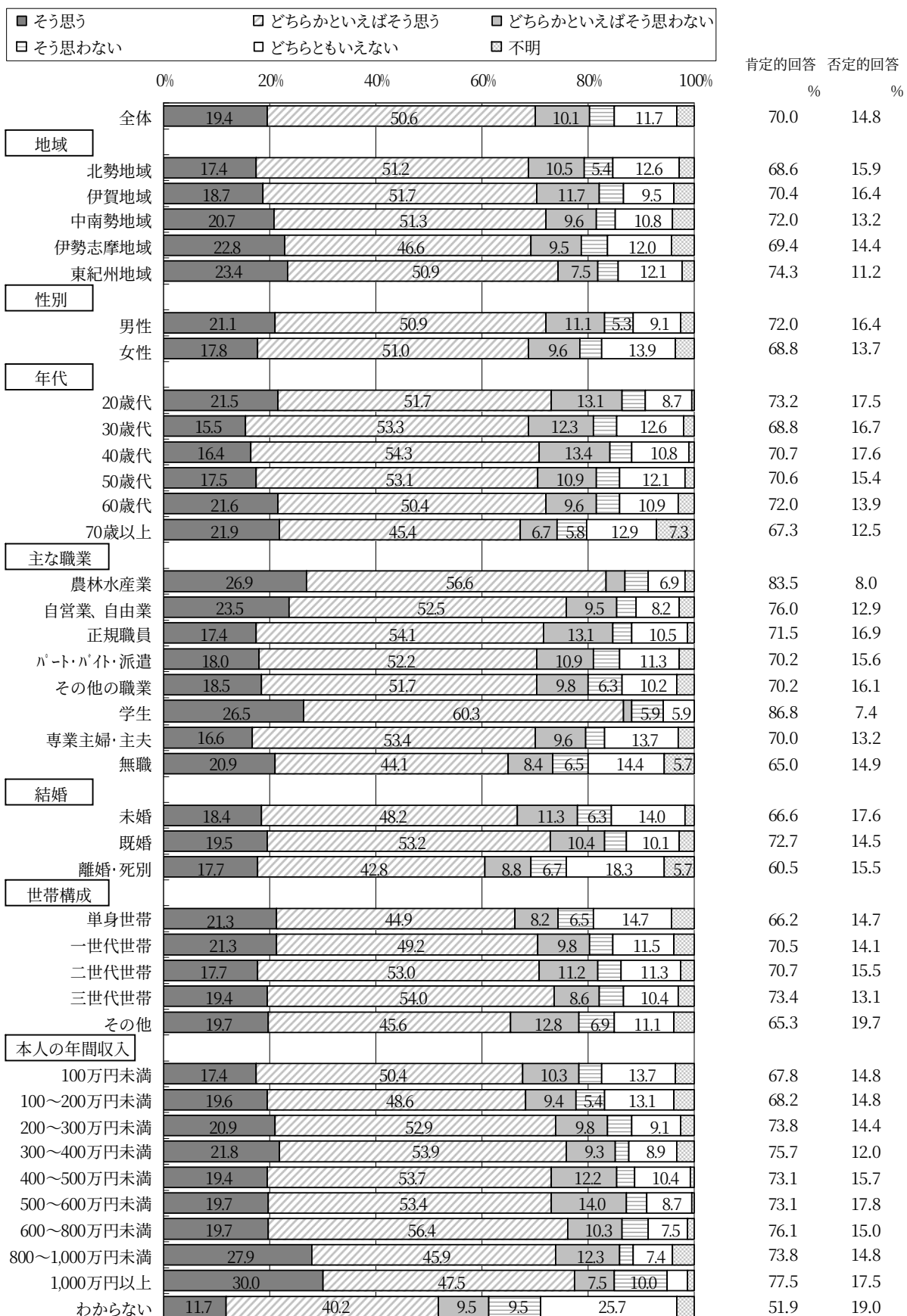
○県全体との比較において特徴の見られる主な属性項目は次のとおりです。

- ・農林水産業は、「肯定的回答」の割合が 83.5%で、県全体より 13.5 ポイント高くなっています。
- ・学生は、「肯定的回答」の割合が 86.8%で、全体より 16.8 ポイント高くなっています。
- ・本人の年間収入額が 1,000 万円以上の層は「そう思う」の割合が 30.0%で、県全体より 10.6 ポイント高くなっています

○属性項目間の比較において特徴が見られる主な属性は次のとおりです。

- ・本人の年間収入別では、800 万円以上の層は「そう思う」の割合が本人の年間収入別の層の中で高く、800 万円から 1,000 万円未満の層が 27.9%、1,000 万円以上の層が 30.0%となっています。

図表2-4-1 地域や社会への貢献意欲



※「肯定的回答」の割合・・・「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の割合を小数点第2位で四捨五入した数値の合計

※「否定的回答」の割合・・・「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」の割合を小数点第2位で四捨五入した数値の合計

問4-2 あなたのご近所づきあいについておききします。次のア、イ、ウにあてはまるご近所の方の人数をお答えください。(○はア、イ、ウにそれぞれ1つずつ。「1」に○をつけた方は()に人数も書いてください。おおよその人数でかまいません)

【近所づきあい ア 生活面で協力しあっている人の数】

○近所づきあいのうち、『生活面で協力しあっている人』が何人いるかについて質問したところ、「いない」が51.4%と最も高く、次いで「2人」(14.6%)、「3人」(11.7%)となっています。

平均人数は1.6人となっています。

○県全体との比較において特徴の見られる主な属性項目は次のとおりです。

- ・20歳代の「いない」の割合が73.3%で、県全体より21.9ポイント高くなっています。
- ・30歳代の「いない」の割合が65.3%で、県全体より13.9ポイント高くなっています。
- ・農林水産業の「いない」の割合が27.1%で、県全体より24.3ポイント低くなっています。
- ・正規職員の「いない」の割合が65.9%で、県全体より14.5ポイント高くなっています。
- ・学生の「いない」の割合が63.0%で、県全体より11.6ポイント高くなっています。
- ・未婚の「いない」の割合が70.4%で、県全体より19.0ポイント高くなっています。
- ・本人の年間収入額が400万円から500万円の層の「いない」の割合が61.9%で、県全体より10.5ポイント高くなっています。
- ・本人の年間収入額が500万円から600万円の層の「いない」の割合が65.5%で、県全体より14.1ポイント高くなっています。
- ・本人の年間収入額が600万円から800万円の層の「いない」の割合が63.3%で、県全体より11.9ポイント高くなっています。

○属性項目間の比較において特徴が見られる主な属性は次のとおりです。

- ・地域別では、北勢地域は「いない」の割合が55.3%と地域の中で最も高く、最も低い東紀州地域(43.1%)より12.2ポイント高くなっています。
- ・年代別では、年代が若いほど「いない」の割合が高くなっています。

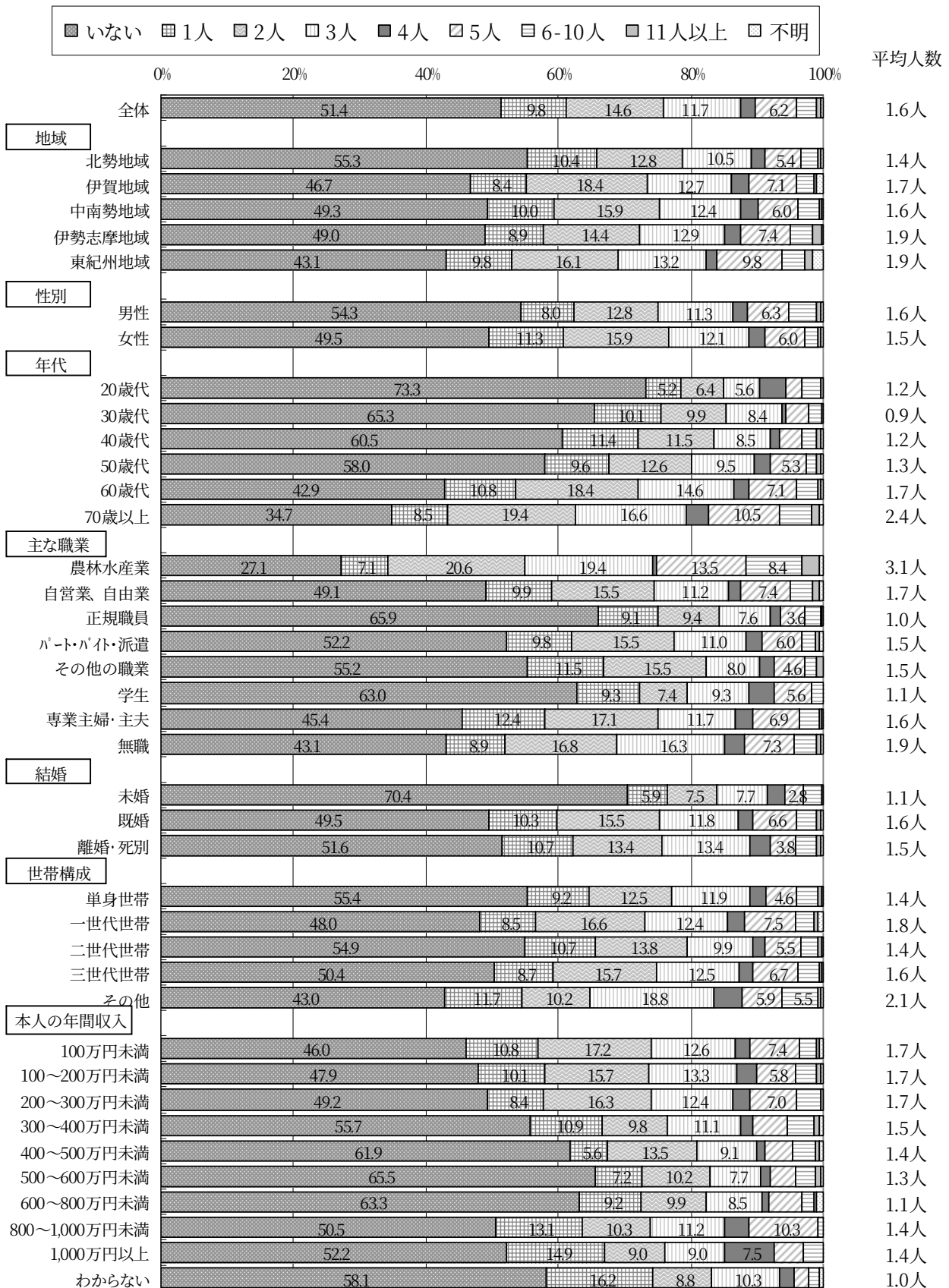
平均人数をみると、70歳以上は2.4人と年代別の中で唯一2人台である一方、30歳代は0.9人となっています。

- ・主な職業別では、農林水産業は「いない」の割合が27.1%と職業の中で最も低く、2人以上の割合が他の職業に比べて高くなっています。

平均人数をみると、農林水産業は職業の中で唯一3人台となっています。

- ・結婚別では、未婚は「いない」の割合(70.4%)が既婚、離婚・死別に比べて約20ポイント高くなっています。

図表2-4-2 近所づきあい(ア 生活面で協力しあっている人の数)



※【問4-2 ア生活面で協力しあっている人】で「1いる」または「2いない」と回答した人を対象に数値を算出

※平均値については、「2いない」の回答を「0人」とし、「1いる」の回答者のうち人数が明記された回答をもとに算出

問4－2 続き

【近所づきあい イ 立ち話程度のつきあいの人の数】

○近所づきあいのうち、『イ 立ち話や情報交換をする程度のつきあいの人』の数について質問したところ、「いない」の割合が 22.6%と最も高く、次いで「5人」(16.7%)、「3人」(15.8%)、「2人」(13.9%)となっています。

平均人数は 4.3 人となっています。

○県全体との比較において特徴の見られる主な属性項目は次のとおりです。

- ・20 歳代の「いない」の割合が 59.4%で、県全体より 36.8 ポイント高くなっています。
- ・30 歳代の「いない」の割合が 38.1%で、県全体より 15.5 ポイント高くなっています。
- ・70 歳以上の「いない」の割合が 8.7%で、県全体より 13.9 ポイント低くなっています。
- ・農林水産業の「9～10 人」の割合が 25.7%で、県全体より 15.1 ポイント高くなっています。
- ・正規職員の「いない」の割合が 36.8%で、県全体より 14.2 ポイント高くなっています。
- ・学生の「いない」の割合が 51.9%で、県全体より 29.3 ポイント高くなっています。
- ・未婚の「いない」の割合が 52.1%で、県全体より 29.5 ポイント高くなっています。
- ・本人の年間収入額が 400 万円から 500 万円の層の「いない」の割合が 32.6%で、県全体より 10.0 ポイント高くなっています。
- ・本人の年間収入額が 500 万円から 600 万円の層の「いない」の割合が 34.5%で、県全体より 11.9 ポイント高くなっています。

○属性項目間の比較において特徴が見られる主な属性は次のとおりです。

- ・地域別では、北勢地域は「いない」の割合が 24.9%と地域の中で最も高く、最も低い東紀州地域(14.0%)より 10.9 ポイント高くなっています。

平均人数をみると、北勢地域は 3.9 人で、地域の中で唯一 4 人未満となっています。

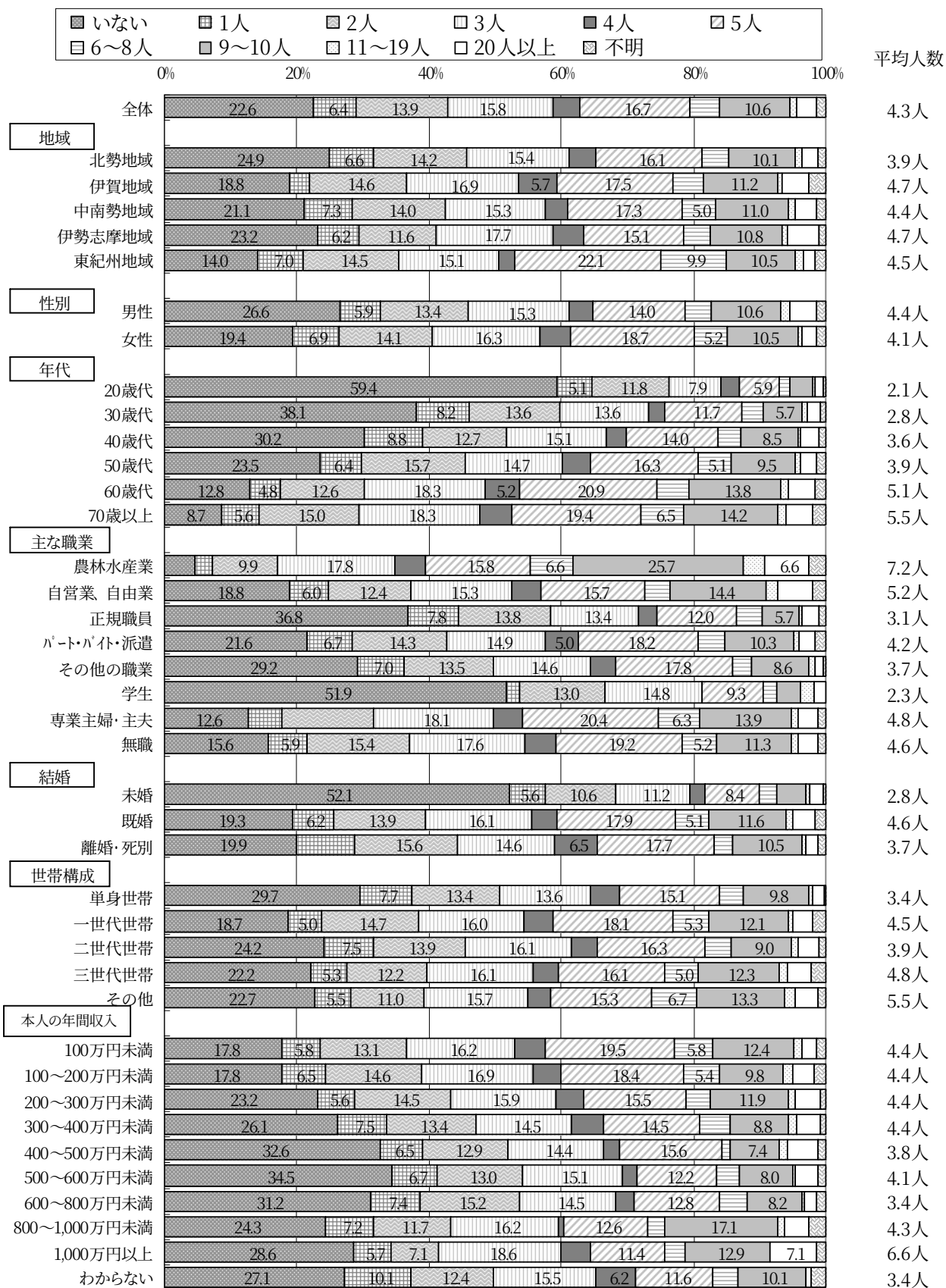
- ・年代別では、年代が若いほど「いない」の割合が高くなっています。

平均人数をみると、年代が高くなるほど平均人数も多くなり、20 歳代は 2.1 人であるのに対し、60 歳代以上は 5 人台となっています。

- ・主な職業別では、農林水産業の平均人数は 7.2 人と職業の中で最も多く、学生は 2.3 人と最も少なくなっています。
- ・本人の年間収入別では、600 万円未満の層でみると本人の年間収入額が高くなるほど「いない」の割合が高くなっています。

平均人数をみると、1,000 万円以上の層は 6.6 人と本人の年間収入別の層の中で最も多くなっています。

図表2-4-3 近所づきあい(イ 立ち話程度のつきあいの人の数)



※【問4-2 イ立ち話程度のつきあいの人の数】で「1いる」または「2いない」と回答した人を対象に数値を算出
 ※平均値については、「2いない」の回答を「0人」とし、「1いる」の回答者のうち人数が明記された回答をもとに算出

問4－2 続き

【近所づきあい ウ あいさつ程度のつきあいの人の数】

○近所づきあいのうち、『ウ あいさつ程度の最小限のつきあいの人』の数について質問したところ、「9～10人」の割合が22.2%となっており、次いで「5人」(18.5%)、「3人」(12.2%)となっています。

平均人数は10.0人となっています。

○県全体との比較において特徴の見られる主な属性項目は次のとおりです。

- ・20歳代の「いない」の割合が22.6%で、県全体より16.0ポイント高くなっています。
- ・農林水産業の「30人以上」の割合が19.7%で、県全体より13.7ポイント高くなっています。
- ・未婚の「いない」の割合が21.2%で、県全体より14.6ポイント高くなっています。

○属性項目間の比較において特徴が見られる主な属性は次のとおりです。

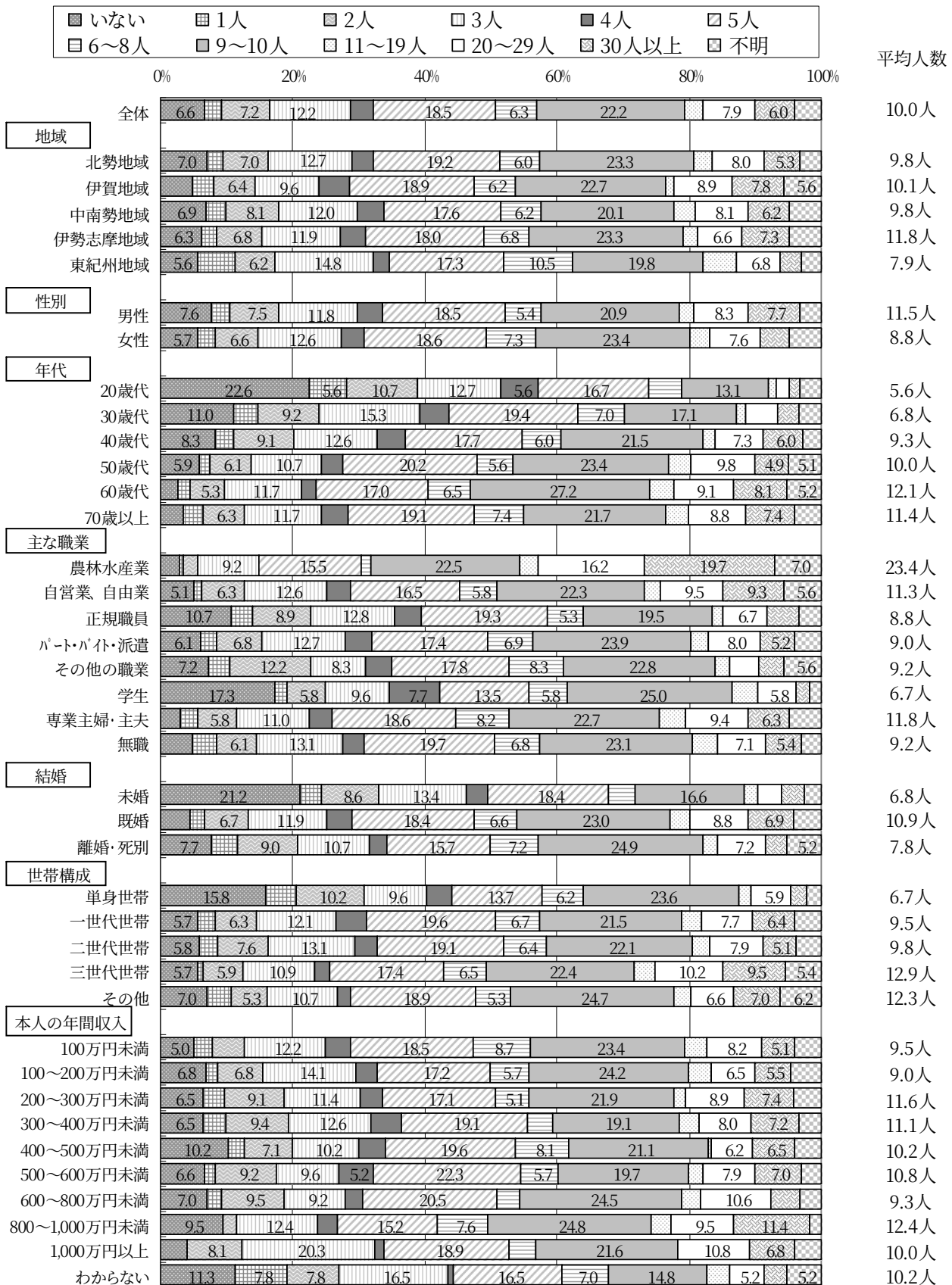
- ・地域別では、平均人数をみると、東紀州地域は7.9人で、地域の中で最も少なくなっています。
- ・性別では、平均人数をみると、男性(11.5人)は、女性(8.8人)より2.7人多くなっています。
- ・年代別では、60歳代以下でみると年代が高くなるほど「いない」の割合が低くなっている一方、「9～10人」の割合が高くなっています。

平均人数をみると、60歳代以下では、年代が高くなるほど平均人数が多くなっており、20歳代は5.6人となっているのに対し、60歳代は12.1人となっています。

- ・主な職業別では、農林水産業の平均人数は、23.4人と他の職業に比べて10人以上多くなっています。
- ・世帯構成別でみると、単身世帯は、「いない」の割合が他の世帯構成に比べて約10ポイント高くなっています。

平均人数をみると、世帯を構成する世代数が多くなるほど平均人数も多くなっています。

図表2-4-4 近所づきあい(ウ あいさつ程度のつきあいの人の数)



※【問4-2 ウあいさつ程度のつきあいの人】で「1いる」または「2いない」と回答した人を対象に数値を算出
 ※平均値については、「2いない」の回答を「0人」とし、「1いる」の回答者のうち人数が明記された回答をもとに算出

問4－3 あなたの地域における活動についておききします。あなたは現在、次のような活動に参加されていますか。参加の度合いについて近いものに○をつけてください。（○はア、イ、ウ、エにそれぞれ1つずつ、合計4つ）

【地域活動への参加の度合い ア 町内会、自治会の活動】

○地域における活動のうち、『ア 町内会、自治会の活動』への参加の度合いについて質問したところ、「ほぼ毎日」「週に2～3日程度」「週に1日程度」「月に1日程度」「年に数回程度」をあわせた「参加している」の割合が61.3%で、「参加していない」の割合（33.6%）より高くなっています。

選択肢別では、「年に数回程度」が45.3%と最も高く、次いで「参加していない」（33.6%）、「月に1日程度」（11.0%）となっています。

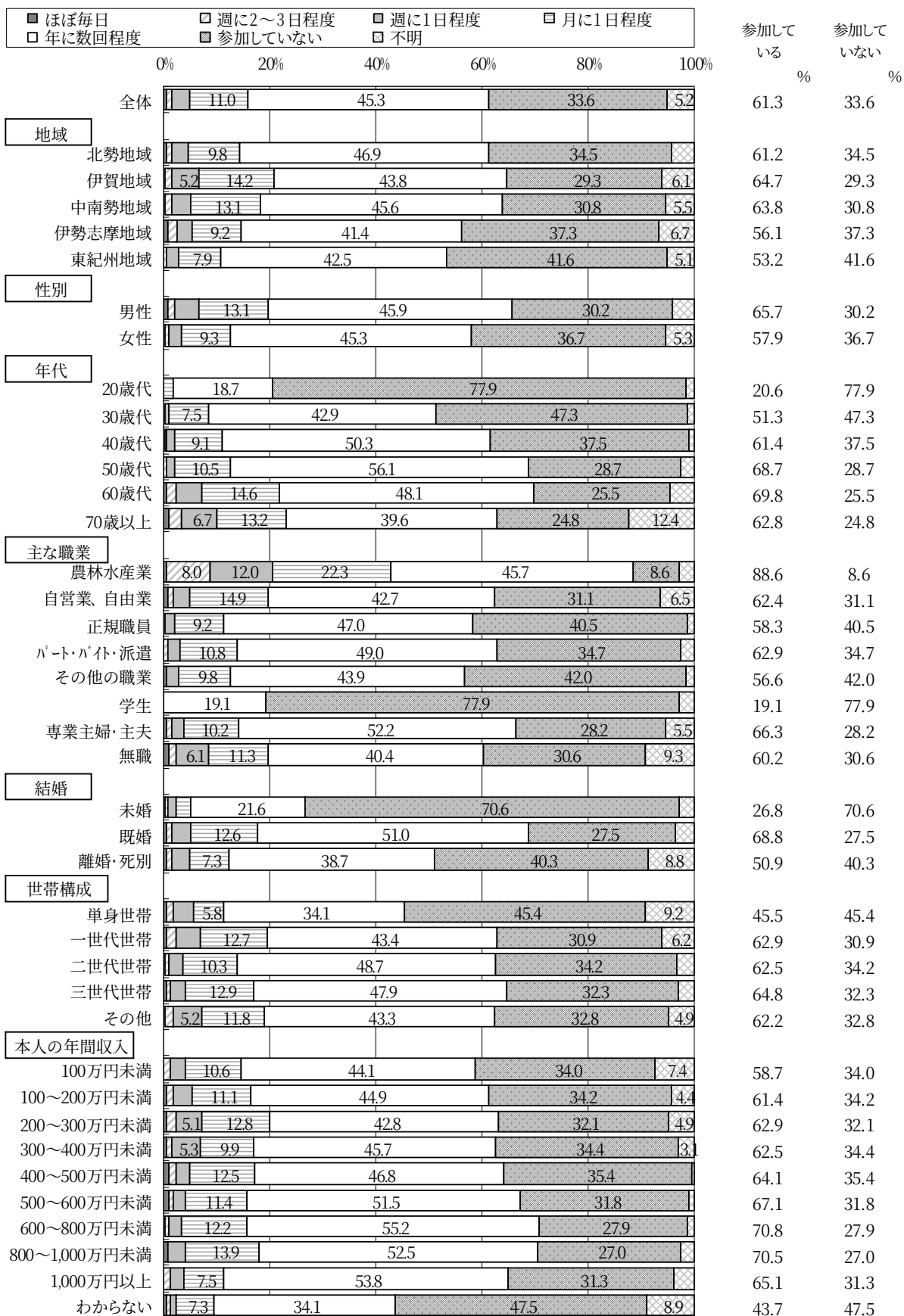
○県全体との比較において特徴が見られる主な属性項目は次のとおりです。

- ・20歳代の「参加していない」の割合が77.9%で、県全体より44.3ポイント高くなっています。
- ・30歳代の「参加していない」の割合が47.3%で、県全体より13.7ポイント高くなっています。
- ・農林水産業は「参加している」の割合が88.6%で、県全体より27.3ポイント高くなっています。
- 一方、「参加していない」の割合は8.6%で、県全体より25.0ポイント低くなっています。
- ・未婚の「参加していない」の割合が70.6%で、県全体より37.0ポイント高くなっています。

○属性項目間の比較において特徴が見られる主な属性は次のとおりです。

- ・地域別では、東紀州地域は「参加している」の割合が53.2%で、地域の中で最も低くなっています。一方、伊賀地域は「参加している」の割合（64.7%）が地域の中で最も高く、東紀州地域より11.5ポイント高くなっています。
- ・年代別では、年代が若くなるほど「参加していない」の割合が高く、70歳以上は24.8%となっているのに対し、20歳代は77.9%となっています。
- ・主な職業別では、学生以外の職業では「参加している」の割合が「参加していない」の割合より高くなっています。特に農林水産業は「参加している」の割合が88.6%で、そのうち「週に2～3日程度」（8.0%）、「週に1日程度」（12.0%）、月に1日程度（22.3%）の割合が他の職業に比べて高くなっています。
- ・結婚別では、未婚は「参加していない」の割合が70.6%で、「参加している」の割合より高くなっています。一方、既婚、離婚・死別は「参加している」の割合が「参加していない」の割合より高くなっています。
- ・世帯構成別では、単身世帯以外の世帯では「参加している」の割合が6割以上となっています。一方、単身世帯は「参加している」の割合（45.5%）と「参加していない」（45.4%）がほぼ同率となっています。

図表2-4-5 地域活動への参加の度合い(ア 町内会、自治会の活動)



※「参加している」の割合・・・「ほぼ毎日」「週に2~3日程度」「週に1日程度」「月に1日程度」「年に数回程度」の割合を小数点第2位で四捨五入した数値の合計

※「参加していない」の割合・・・選択肢の「参加していない」の数値

問4－3 続き

【地域活動への参加の度合い イ スポーツ・趣味・娯楽活動】

○地域における活動のうち、『イ スポーツ・趣味・娯楽活動』への参加の度合いについて質問したところ、「ほぼ毎日」「週に2～3日程度」「週に1日程度」「月に1日程度」「年に数回程度」をあわせた「参加している」の割合が31.1%で、「参加していない」の割合（62.2%）より低くなっています。

選択肢別では、「参加していない」が62.2%と最も高く、次いで「年に数回程度」（10.5%）、「週に一日程度」（7.8%）となっています。

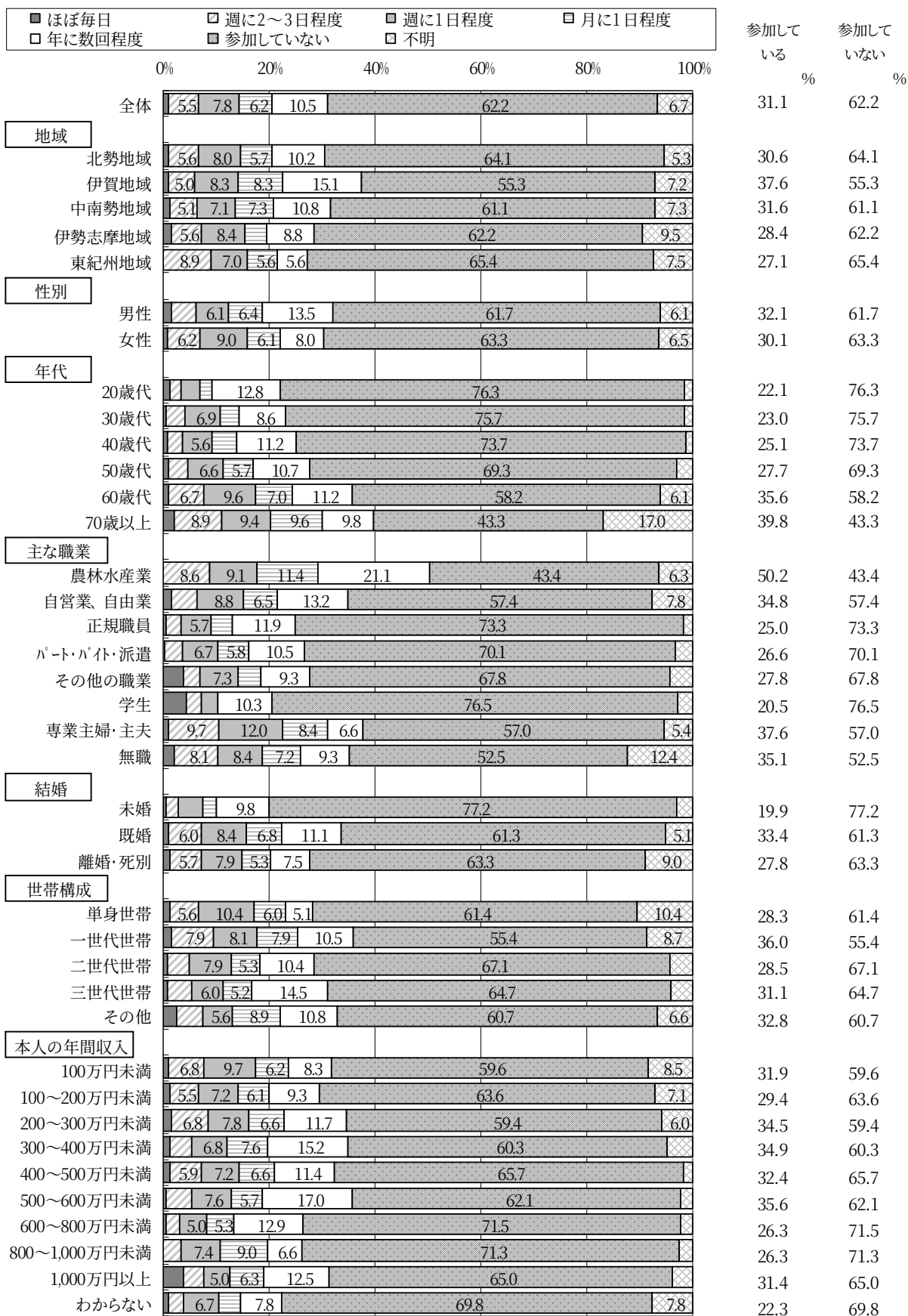
○県全体との比較において特徴が見られる主な属性項目は次のとおりです。

- ・20歳代の「参加していない」の割合が76.3%で、県全体より14.1ポイント高くなっています。
- ・農林水産業は「参加している」の割合が50.2%、そのうち「年に数回程度」の割合が21.1%で、県全体よりそれぞれ19.1ポイント、10.6ポイント高くなっています。
- ・未婚の「参加していない」の割合が77.2%で、県全体より15.0ポイント高くなっています。

○属性項目間の比較において特徴が見られる主な属性は次のとおりです。

- ・地域別では、東紀州地域は「参加している」の割合が27.1%と最も低くなっています。伊賀地域は「参加している」の割合が37.6%と地域の中で最も高く、東紀州地域より10.5ポイント高くなっています。
- ・年代別では、年代が高くなるほど「参加している」の割合が高く、20歳代は22.1%であるのに対し、70歳以上は39.8%となっています。
- ・主な職業別では、農林水産業だけが「参加している」の割合が「参加していない」の割合より高くなっています。
- ・結婚別では、未婚は「参加していない」の割合が77.2%で、既婚、離婚・死別より10ポイント以上高くなっています。
- ・本人の年間収入別では、600万円から1,000万円未満の層は「参加していない」の割合がそれぞれ71%台で、他の本人の年間収入別の層に比べて高くなっています。

図表2-4-6 地域活動への参加の度合い(イ スポーツ・趣味・娯楽活動)



※「参加している」の割合・・・「ほぼ毎日」「週に2～3日程度」「週に1日程度」「月に1日程度」「年に数回程度」の割合を小数点第2位で四捨五入した数値の合計

※「参加していない」の割合・・・選択肢の「参加していない」の数値

問4－3 続き

【地域活動への参加の度合い ウ 市民・ボランティア・NPO 活動】

○地域における活動のうち、『ウ 市民・ボランティア・NPO 活動』への参加の度合いについて質問したところ、「ほぼ毎日」「週に2～3日程度」「週に1日程度」「月に1日程度」「年に数回程度」をあわせた「参加している」の割合が21.7%で、「参加していない」の割合（71.0%）より低くなっています。

選択肢別では、「参加していない」が71.0%と最も高く、次いで「年に数回程度」（13.8%）となっています。

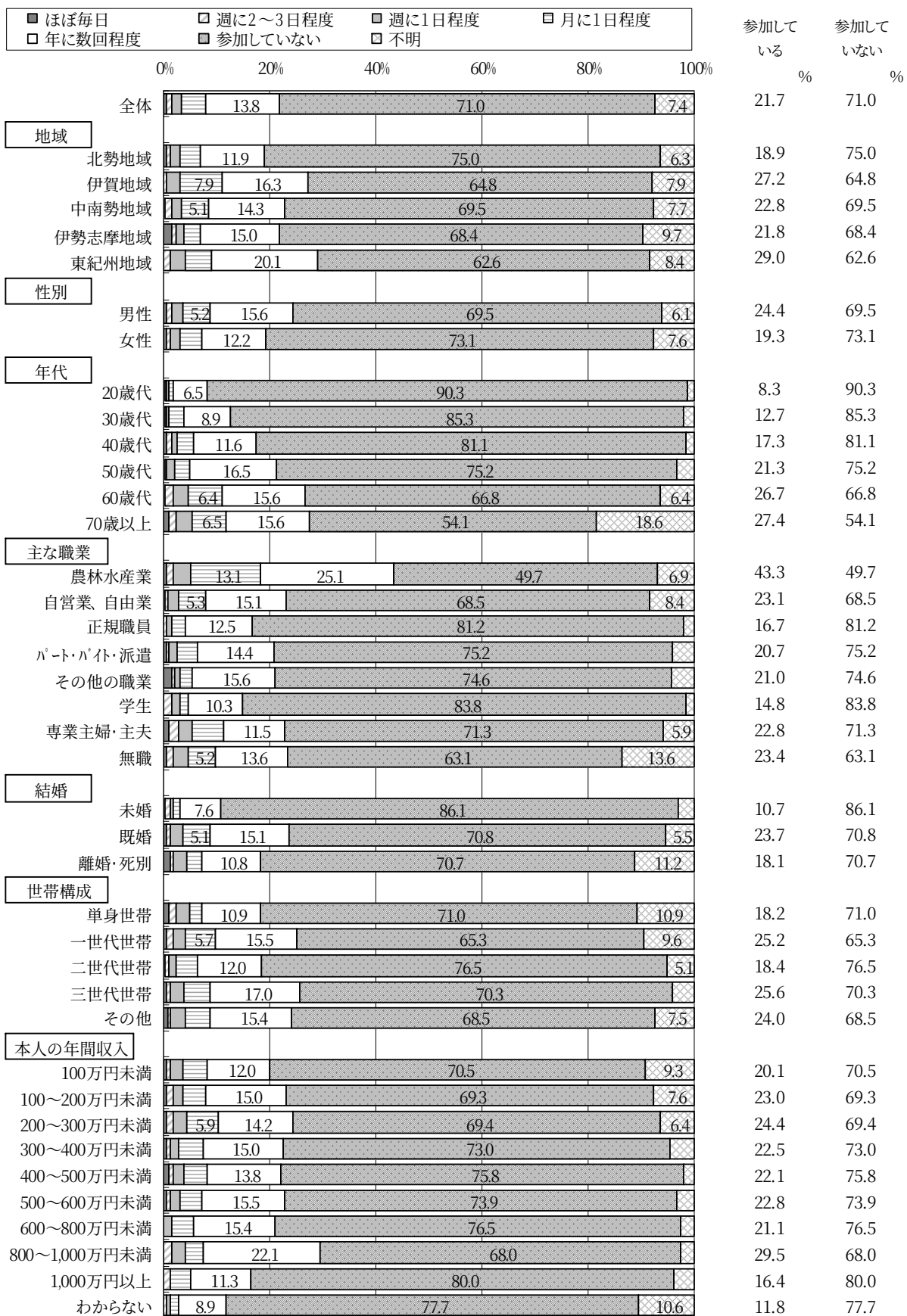
○県全体との比較において特徴が見られる主な属性項目は次のとおりです。

- ・20歳代の「参加していない」の割合が90.3%で、県全体より19.3ポイント高くなっています。
- ・30歳代の「参加していない」の割合が85.3%で、県全体より14.3ポイント高くなっています。
- ・40歳代の「参加していない」の割合が81.1%で、県全体より10.1ポイント高くなっています。
- ・農林水産業は「参加している」の割合が43.3%、そのうち「年に数回程度」の割合が25.1%で、県全体よりそれぞれ21.6ポイント、11.3ポイント高くなっています。
- ・未婚の「参加していない」の割合が86.1%で、県全体より15.1ポイント高くなっています。

○属性項目間の比較において特徴が見られる主な属性は次のとおりです。

- ・地域別では、北勢地域は「参加している」の割合が18.9%と最も低くなっています。一方、東紀州地域は「参加している」の割合が29.0%と地域の中で最も高く、北勢地域より10.1ポイント高くなっています。
- ・年代別では、年代が高くなるほど「参加している」の割合が高く、20歳代は8.3%であるのに対し、70歳以上は27.4%となっています。
- ・主な職業別では、正規職員、学生は「参加していない」の割合がそれぞれ81.2%、83.8%と他の職業に比べて高くなっています。
- ・本人の年間収入別では、800万円から1,000万円未満の層は「参加している」の割合が29.5%と本人の年間収入別の層の中で最も高く、最も低い1,000万円以上の層（16.4%）より13.1ポイント高くなっています。

図表2-4-7 地域活動への参加の度合い(ウ 市民・ボランティア・NPO 活動)



※「参加している」の割合・・・「ほぼ毎日」「週に2～3日程度」「週に1日程度」「月に1日程度」「年に数回程度」の割合を小数点第2位で四捨五入した数値の合計

※「参加していない」の割合・・・選択肢の「参加していない」の数値

問4－3 続き

【地域活動への参加の度合い エ その他の地縁活動】

○地域における活動のうち、『エ その他の地縁活動』への参加の度合いについて質問したところ、「ほぼ毎日」「週に2～3日程度」「週に1日程度」「月に1日程度」「年に数回程度」をあわせた「参加している」の割合が42.2%で、「参加していない」の割合（51.5%）より低くなっています。

選択肢別では、「参加していない」が51.5%と最も高く、次いで「年に数回程度」（33.4%）となっています。

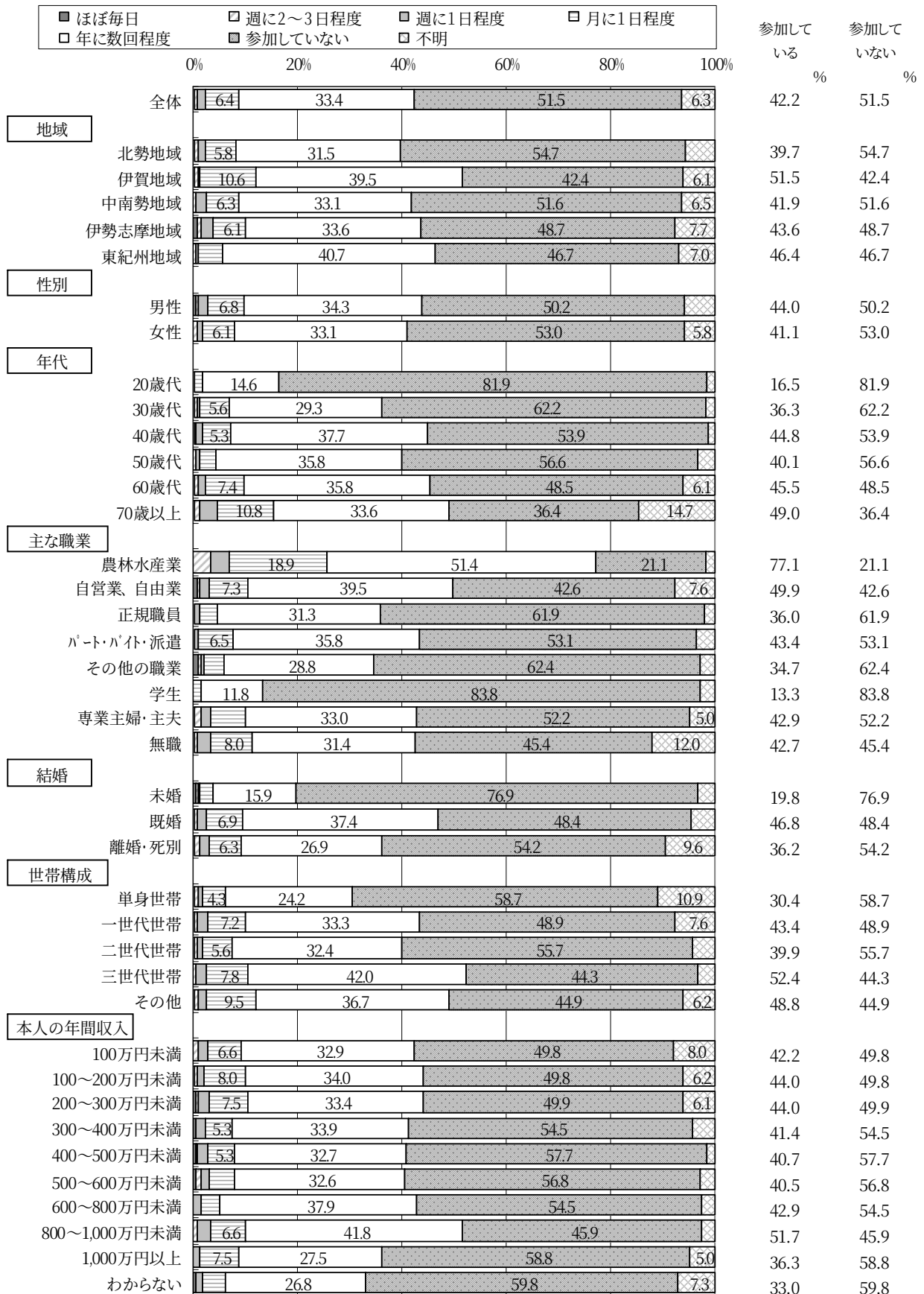
○県全体との比較において特徴が見られる主な属性項目は次のとおりです。

- ・20歳代の「参加していない」の割合が81.9%で、県全体より30.4ポイント高くなっています。
- ・30歳代の「参加していない」の割合が62.2%で、県全体より10.7ポイント高くなっています。
- ・農林水産業は「参加している」の割合が77.1%、そのうち「月に1日程度」の割合が18.9%、「年に数回程度」の割合が51.4%で、県全体よりそれぞれ34.9ポイント、12.5ポイント、18.0ポイント高くなっています。
- ・正規職員は「参加していない」の割合が61.9%で、県全体より10.4ポイント高くなっています。
- ・学生は「参加していない」の割合が83.8%で、県全体より32.3ポイント高くなっています。
- ・未婚は「参加していない」の割合が76.9%で、県全体より25.4ポイント高くなっています。

○属性項目間の比較において特徴が見られる主な属性は次のとおりです。

- ・地域別では、伊賀地域だけが「参加している」の割合（51.5%）が「参加していない」の割合（42.4%）より高くなっています。
- ・年代別では、70歳以上だけが「参加している」の割合（49.0%）が「参加していない」の割合（36.4%）より高くなっています。
- ・結婚別では、既婚は「参加している」の割合が46.8%で、未婚（19.8%）より27.0ポイント、離婚・死別（36.2%）より10.6ポイント高くなっています。
- ・世帯構成別では、特に単身世帯の「参加している」の割合が低くなっています。三世帯世帯だけが「参加している」の割合（52.4%）が「参加していない」の割合（44.3%）より高くなっています。
- ・本人の年間収入別では、1,000万円以上の層は「参加している」の割合が36.3%と本人の年間収入別の層の中で最も低くなっています。800万円から1,000万円未満の層は「参加している」の割合が51.7%で、「参加していない」の割合（45.9%）より高くなっています。

図表2-4-8 地域活動への参加の度合い(エ その他の地縁活動)



※「参加している」の割合・・・「ほぼ毎日」「週に2～3日程度」「週に1日程度」「月に1日程度」「年に数回程度」の割合を小数点第2位で四捨五入した数値の合計

※「参加していない」の割合・・・選択肢の「参加していない」の数値

問4-4 あなたにとって、現在お住まいの地域は住みやすいですか。次の中からあてはまるものを1つだけ選んでください。(○は1つだけ)

【地域の住みやすさ】

○お住まいの地域が住みやすいか質問したところ、「住みやすい」と「どちらかといえば住みやすい」の割合を合計した「肯定的回答」の割合が 79.8%で、「住みにくい」と「どちらかといえば住みにくい」の割合を合計した「否定的回答」の割合（12.8%）より 67.0 ポイント高くなっています。

○前回調査と比較すると「肯定的回答」の割合、「否定的回答」の割合ともに、それぞれ0.2 ポイント、0.3 ポイント低くなっています。

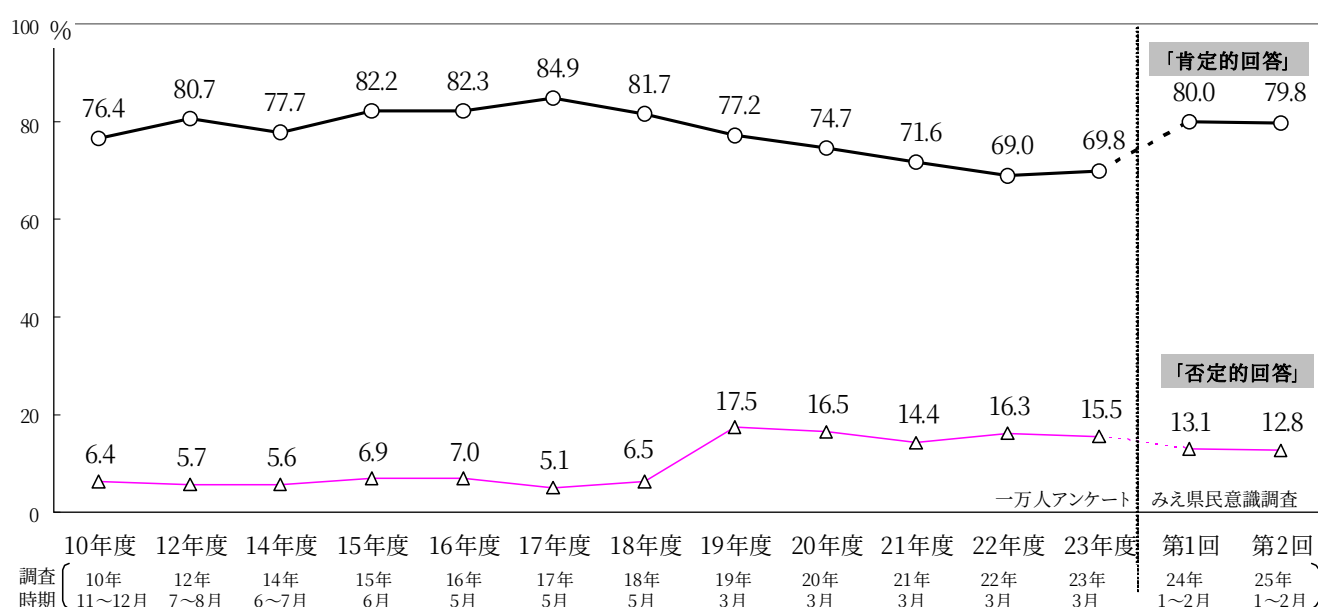
○県全体との比較において特徴の見られる主な属性項目は次のとおりです。

- ・学生は「住みやすい」の割合が 38.2%で、県全体より 11.5 ポイント高くなっています。
- ・本人の年間収入額が 1,000 万円以上の層は「住みやすい」の割合が 38.8%で、県全体より 12.1 ポイント高くなっています。

○属性項目間の比較において特徴が見られる主な属性は次のとおりです。

- ・地域別では、伊賀地域は「肯定的回答」の割合が 71.8%、そのうち「住みやすい」の割合が 18.7% となっており、地域の中でそれぞれ最も低くなっています。
- ・年代別では、20 歳代、70 歳以上の「住みやすい」の割合が 35.2%、32.9%で、他の年代に比べて高くなっています。
- ・主な職業別では、パート・アルバイト・派遣社員は「肯定的回答」の割合が 74.9%、そのうち「住みやすい」の割合が 21.9%で、職業の中でそれぞれ最も低くなっています。

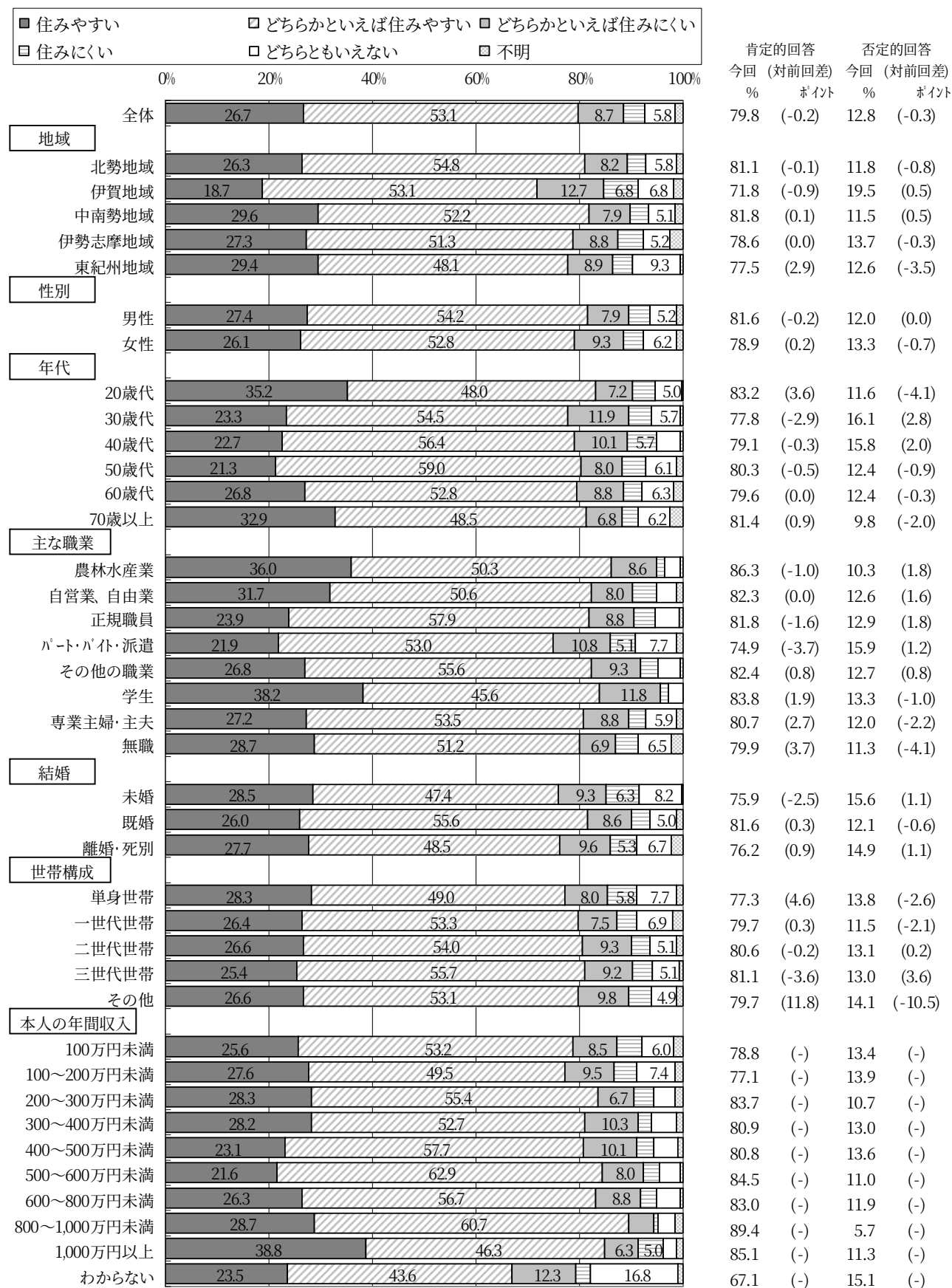
図表2-4-9（参考）一万人アンケート（23年度まで）とみえ県民意識調査の「地域の住みやすさ」の推移



※一万人アンケートにおける「肯定的回答」…「とても住みやすい」と「どちらかといえば住みやすい」を合計したもの。

※一万人アンケートにおける「否定的回答」…「住みにくい」と「どちらかといえば住みにくい」を合計したもの。

図表2-4-10 地域の住みやすさ



※「肯定的回答」の割合・・・「住みやすい」「どちらかといえば住みやすい」の割合を小数点第2位で四捨五入した数値の合計

※「否定的回答」の割合・・・「住みにくい」「どちらかといえば住みにくい」の割合を小数点第2位で四捨五入した数値の合計

問4－5 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について、あなたはどのように思いますか。次の中からあてはまるものを1つだけ選んでください。(○は1つだけ)

【男女の役割分担意識】

○「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方についてどう思うか質問したところ、「賛成」と「どちらかといえば賛成」の割合を合計した「肯定的回答」の割合が33.2%で、「反対」と「どちらかといえば反対」の割合を合計した「否定的回答」の割合（32.7%）よりわずかに高くなっています。また「どちらともいえない」の割合も32.1%とほぼ同率となっています。

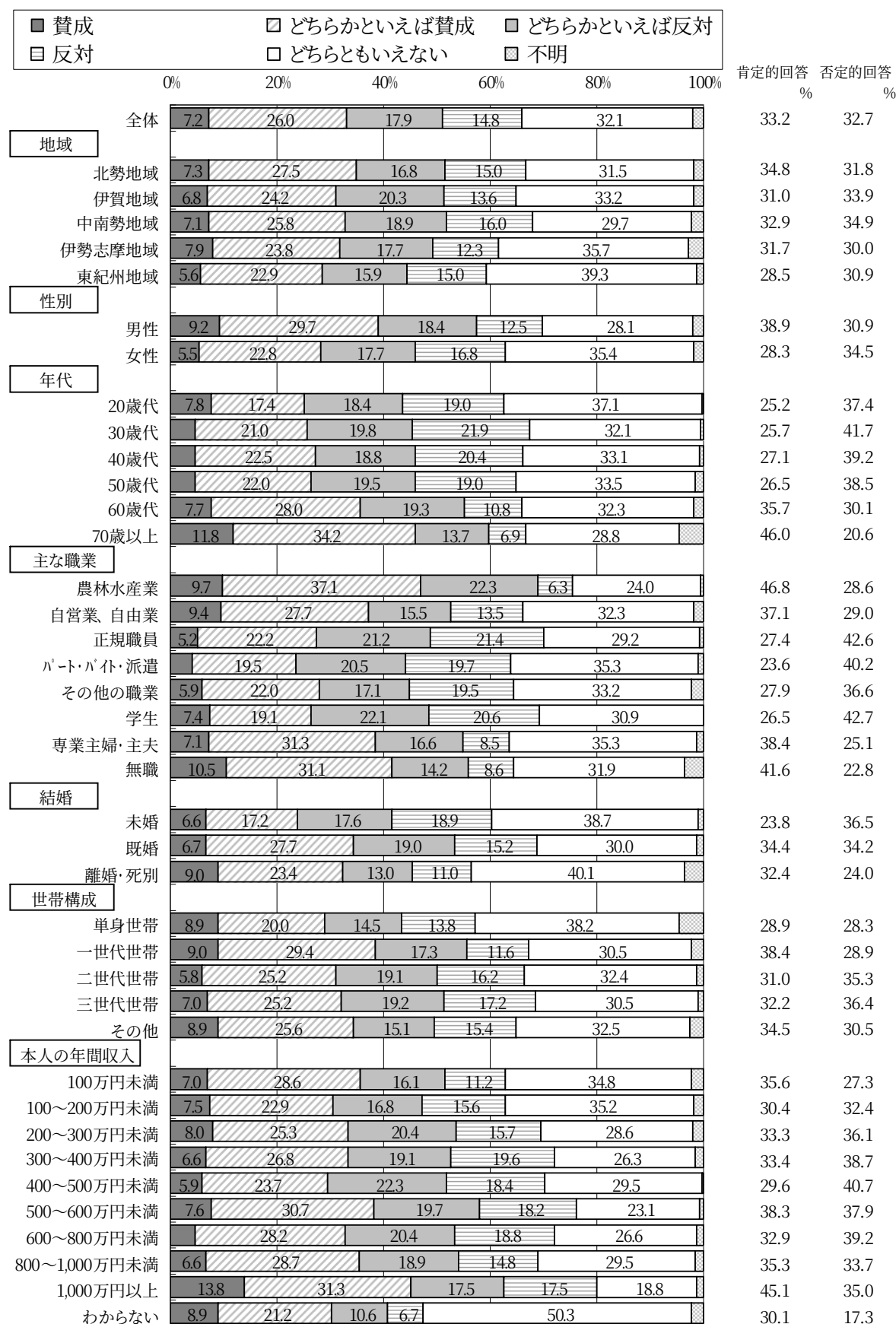
○県全体との比較において特徴の見られる主な属性項目は次のとおりです。

- ・70歳以上の「肯定的回答」の割合が46.0%で、県全体より12.8ポイント高くなっています。
- ・農林水産業の「肯定的回答」の割合が46.8%で、県全体より13.6ポイント高くなっています。
- ・本人の年間収入額が1,000万円以上の層の「肯定的回答」の割合が45.1%で、県全体より11.9ポイント高くなっています。

○属性項目間の比較において特徴が見られる主な属性は次のとおりです。

- ・性別では、男性は「肯定的回答」の割合が38.9%で、女性（28.3%）より10.6ポイント高くなっています。
- ・年代別では、年代が高くなるほど「肯定的回答」の割合が高くなる傾向にあり、特に70歳以上は「肯定的回答」の割合が46.0%で、「否定的回答」の割合（20.6%）より25.4ポイント高くなっています。
- ・職業別では、正規職員、パート・アルバイト・派遣社員、学生は「否定的回答」の割合が「肯定的回答」の割合よりそれぞれ15ポイント以上高くなっています。
- ・結婚別では、未婚だけが「否定的回答」の割合（36.5%）が「肯定的回答」の割合（23.8%）より高くなっています。
- ・世帯構成別では、単身世帯、一世代世帯は「肯定的回答」の割合が「否定的回答」の割合より高く、二世帯世帯、三世帯世帯は「否定的回答」の割合が「肯定的回答」の割合より高くなっています。
- ・本人の年間収入別では、1,000万円以上の層は「肯定的回答」の割合が45.1%、そのうち「賛成」の割合が13.8%で、本人の年間収入別の層の中でそれぞれ最も高くなっています。

図表2-4-11 男女の役割分担意識



※「肯定的回答」の割合・・・「賛成」「どちらかといえば賛成」の割合を小数点第2位で四捨五入した数値の合計

※「否定的回答」の割合・・・「反対」「どちらかといえば反対」の割合を小数点第2位で四捨五入した数値の合計

問4－6 女性が働く（収入のある仕事をする）ことについて、あなたはどのように思いますか。あなたのお考えにもっとも近いものを1つだけ選んでください。（○は1つだけ）

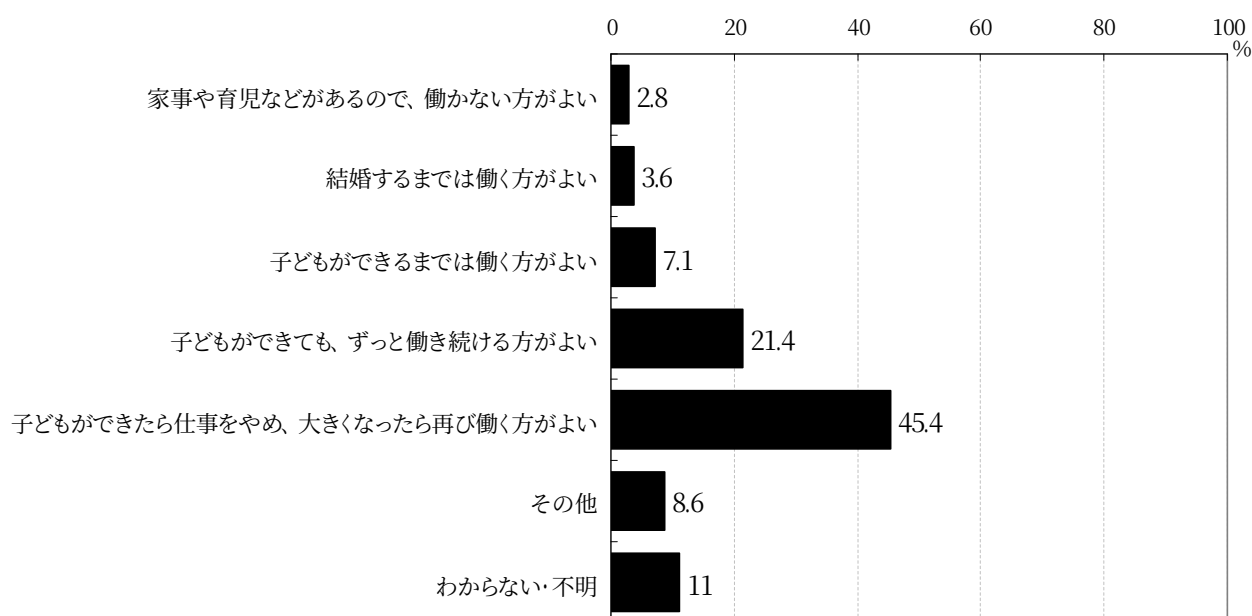
【女性就労に対する考え方】

○女性が働くことについてどう思うか質問したところ、「子どもができれば仕事をやめ、大きくなったら再び働くほうがよい」が45.4%と最も高く、次いで「子どもができて、ずっと働き続けるほうがよい」（21.4%）となっています。

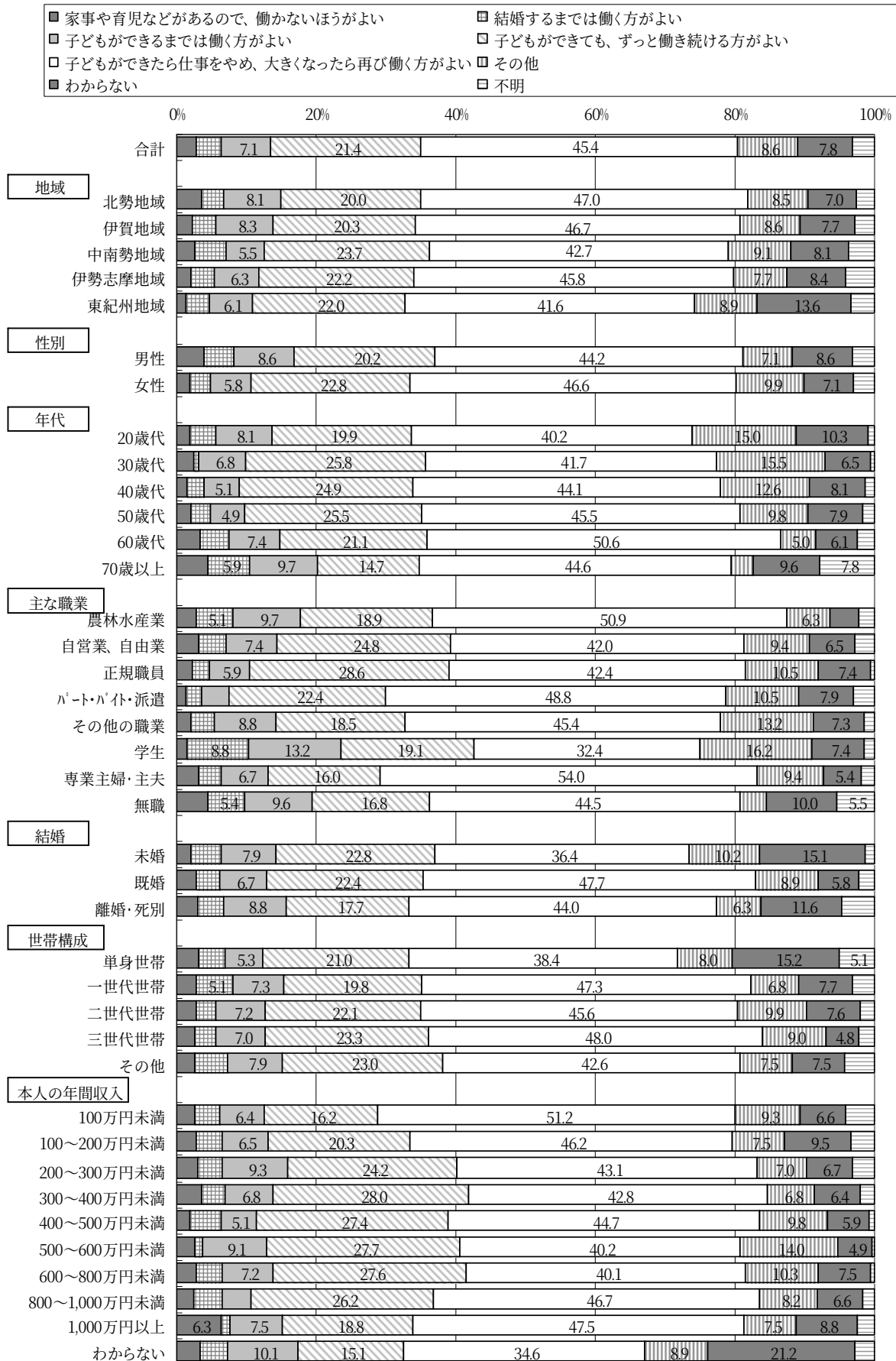
○属性項目間の比較において特徴が見られる主な属性は次のとおりです。

- ・主な職業別では、専業主婦・主夫は「子どもができれば仕事をやめ、大きくなったら再び働くほうがよい」の割合が54.0%、「子どもができて、ずっと働き続けるほうがよい」の割合が16.0%となっています。正規職員は「子どもができれば仕事をやめ、大きくなったら再び働くほうがよい」の割合が42.4%、「子どもができて、ずっと働き続けるほうがよい」の割合が28.6%となっています。
- ・結婚別では、未婚は「子どもができれば仕事をやめ、大きくなったら再び働くほうがよい」の割合が36.4%で、既婚、離婚・死別に比べて低くなっています。
- ・本人の年間収入別では、100万円未満の層は「子どもができれば仕事をやめ、大きくなったら再び働くほうがよい」の割合が51.2%と本人の年間収入別の層の中で最も高く、「子どもができて、ずっと働き続けるほうがよい」の割合が16.2%と最も低くなっています。

図表2-4-12 女性就労に対する考え方



図表2-4-13 女性就労に対する考え方



問4－7 あなたは1日の中で、家事（炊事、洗たく、そうじなど）や育児・子どもの世話、介護などにどのくらい時間をかけていますか。平日と休日に分けてお答えください。（○は1つずつ。「1」に○をつけた方は（ ）に時間も書いてください。おおよその時間でかまいません。）

【家事や育児、介護の時間（平日）】

○平日の家事や育児、介護の時間について質問したところ、「する」の割合が 63.0%、「ほとんどしない」の割合が 23.7%となっています。

また、平均時間は2時間 50 分となっています。

○属性項目間の比較において特徴が見られる主な属性は次のとおりです。

- ・性別では、男性は「ほとんどしない」の割合が「する」の割合より高く、女性は「する」の割合が「ほとんどしない」の割合より高くなっています。女性の「する」の割合は 81.0%で、男性（42.8%）より、38.2 ポイント高くなっています。

平均時間をみると、女性は4時間 25 分である一方、男性は 58 分となっています。

- ・年代別では、20 歳代以外の年代は「する」の割合が「ほとんどしない」の割合より高くなっています。30 歳代以上の年代でみると、年代が若くなるほど「する」の割合が高くなる傾向にあります。

平均時間をみると、30 歳代は4時間 13 分と年代の中で最も長く、20 歳代は1時間 40 分で最も短くなっています。

- ・主な職業別では、学生以外の職業は「する」の割合が「ほとんどしない」の割合より高くなっています。専業主婦・主夫、パート・アルバイト・派遣社員は「する」の割合がそれぞれ 88.1%、77.1%と他の職業に比べて高くなっています。

平均時間をみると、専業主婦・主夫は6時間 28 分と職業の中で最も長く、学生は 33 分と最も短くなっています。

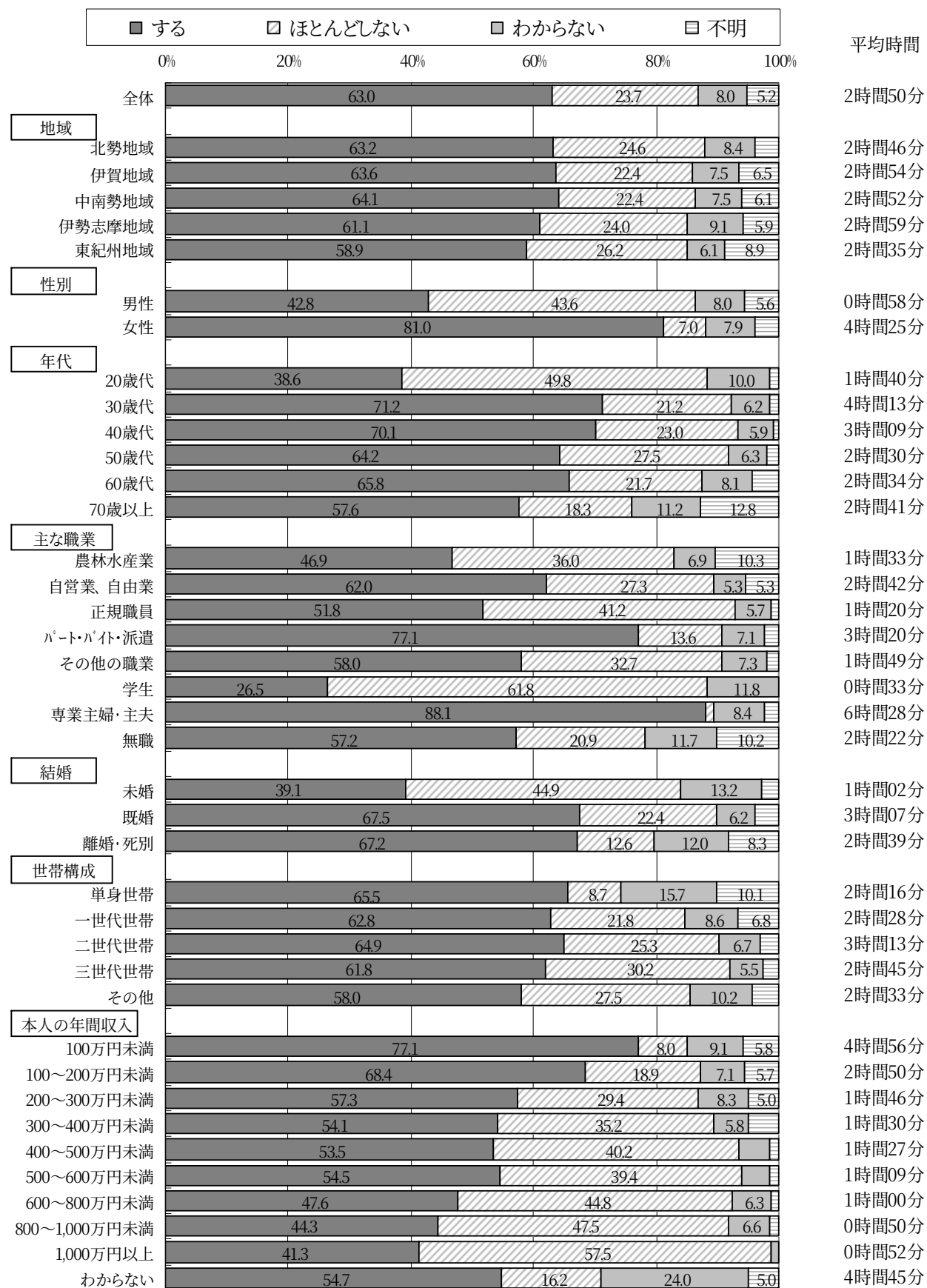
- ・結婚別では、既婚、離婚・死別は「する」の割合が「ほとんどしない」の割合より高くなっています。一方、未婚は「ほとんどしない」の割合が 44.9%と「する」の割合（39.1%）より高くなっています。

平均時間をみると、未婚は1時間 02 分と既婚、離婚・死別に比べて短くなっています。

- ・本人の年間収入別では、年間収入額が高くなるほど「ほとんどしない」の割合が高くなる傾向となっています。

平均時間は本人の年間収入額が高くなるほど短くなっています。

図表2-4-14 家事や育児、介護の時間【平日】



※【問4-7 家事や育児、介護の時間【平日】】で「1する」または「2ほとんどしない」と回答した人を対象に平均値を算出
 ※平均値については、「2ほとんどしない」の回答を「0分」とし、「1いる」の回答者のうち時間が明記された回答をもとに算出

問4－7 続き

【家事や育児、介護の時間（休日）】

○休日の家事や育児、介護の時間について質問したところ、「する」の割合が 64.4%、「ほとんどしない」の割合が 19.9%となっています。

また、平均時間は3時間 25 分となっており、平日の平均時間（2時間 50 分）より 35 分長くなっています。

○属性項目間の比較において特徴が見られる主な属性は次のとおりです。

- ・性別では、男性、女性ともに「する」の割合が「ほとんどしない」の割合より高くなっていますが、女性の「する」の割合は 78.6%で、男性（48.7%）より、29.9 ポイント高くなっています。平均時間をみると、女性は4時間 59 分である一方、男性は1時間 35 分となっています。
- ・年代別では、30 歳代以上の年代でみると、年代が若くなるほど「する」の割合が高くなっており、30 歳代は「する」の割合が 76.3%となっています。一方、20 歳代は「する」の割合が 44.5%で、年代の中で最も低くなっています。

平均時間をみると、30 歳代、40 歳代がそれぞれ5時間 41 分、4時間 18 分と他の年代に比べて長く、また平日の平均時間に比べてそれぞれ1時間以上長くなっています。

- ・主な職業別では、学生以外の職業は「する」の割合が「ほとんどしない」の割合より高くなっています。専業主婦・主夫、パート・アルバイト・派遣社員は「する」の割合がそれぞれ 84.2%、78.0%と他の職業に比べて高くなっています。

平日と比較すると、正規職員の「する」の割合が 64.6%で、平日（51.8%）より 12.8 ポイント高くなっています。

平均時間をみると、専業主婦・主夫が6時間 18 分と最も長くなっていますが、平日（6時間 28 分）と比較するとわずかながら短くなっています。一方、正規職員が2時間 47 分で、平日（1時間 20 分）より1時間以上長くなっています。

- ・結婚別では、既婚、離婚・死別は「する」の割合がそれぞれ 69.6%、64.6%である一方、未婚は 44.3%で、20 ポイント以上低くなっています。

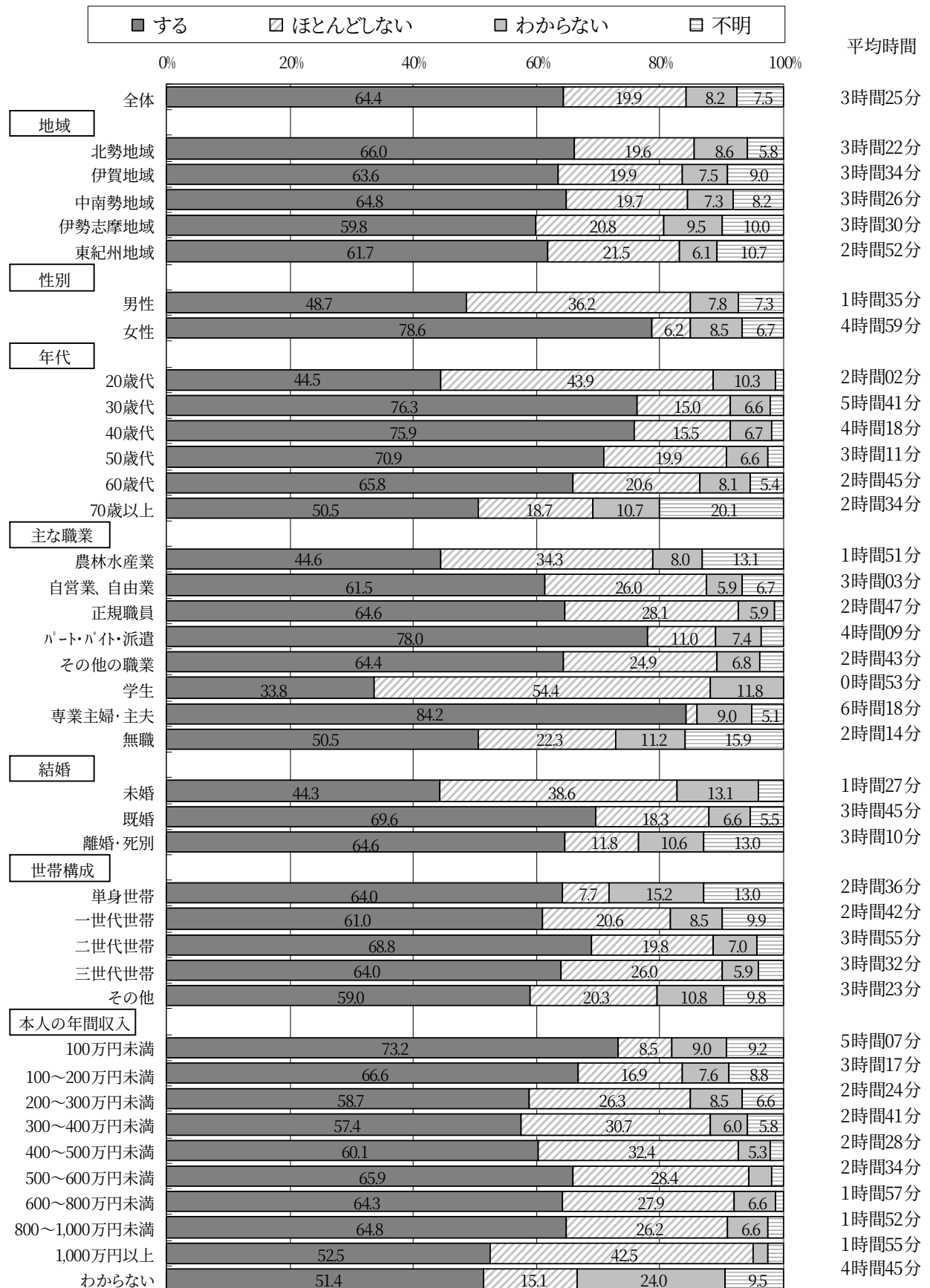
平均時間をみると、未婚は1時間 27 分で、既婚、離婚・死別と比べて短くなっています。

- ・本人の年間収入別では、100 万円未満の層は「する」の割合が 73.2%と本人の年間収入別の層の中で最も高くなっているのに対し、1,000 万円以上の層は 52.5%と最も低くなっています。

平日と比較すると、500 万円以上の層は、「する」の割合が平日に比べてそれぞれ 10 ポイント以上高くなっています。

平均時間をみると、100 万円未満の層が5時間 7 分と最も長くなっています。平日と比較すると、300 万円以上の層の多くで1時間以上長くなっています。

図表2-4-15 家事や育児、介護の時間【休日】



※【問4-7 家事や育児、介護の時間【休日】】で「1する」または「2ほとんどしない」と回答した人を対象に平均値を算出。
 ※平均値については、「2ほとんどしない」の回答を「0分」とし、「1いる」の回答者のうち時間が明記された回答をもとに算出。

5. 家計や仕事のこと

ここからは、「家計や仕事のこと」をテーマとした質問項目について記載しています。

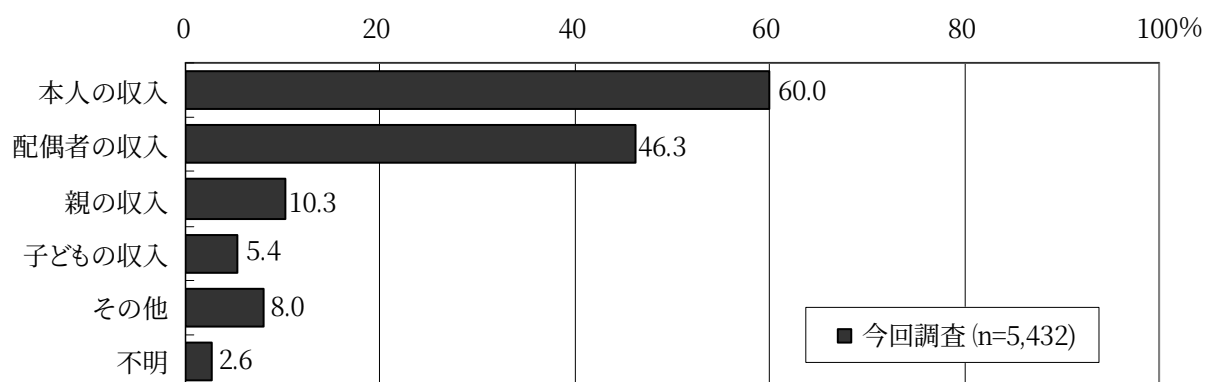
問	項目	質問文の概要
5-1	家計を主に支えている収入	・あなたの世帯の家計は、主にどなたの収入に支えられていますか。
5-2	特に負担を感じている支出	・日常生活の支出の中で、特に負担を感じている支出はありますか。 ・特に負担を感じている支出についてあてはまるものすべてに○をつけてください。
5-3	何歳まで働きたいか（就労意欲）	・何歳くらいまで働きたい（収入のある仕事をしたい）とお考えですか。 ・働きたいと考える理由は何ですか。
5-4	職業	・あなたの主な職業は何ですか。
5-5	1週間の平均的な就業時間	・あなたの1週間の平均的な就業時間（残業時間を含みます）はどのくらいですか。
6	パート・アルバイト・派遣社員の方が希望する働き方	・あなたは、今後、どのように働きたいと考えていますか。 ・正社員（正規職員）として働きたいと考える理由は何ですか。
7-1	就労していない理由	・働いていない（収入のある仕事をしていない）理由は何ですか。
7-2	専業主婦・主夫や無職の方の就労意欲	・働きたい（収入のある仕事をしたい）と思っていますか。 ・どのように働きたいと考えていますか。

問5－1 あなたの世帯の家計は、主にどなたの収入に支えられていますか。あてはまるものすべてに○をつけて下さい。（○はいくつでも）

【家計を主に支えている収入】

○世帯の家計を主に支えている収入について質問したところ、「本人の収入」が60.0%と最も高く、次いで「配偶者の収入」（46.3%）、「親の収入」（10.3%）となっています。

図表2-5-1 家計を主に支えている収入〔複数回答〕



図表2-5-2 家計を主に支えている収入

(%)

		合計	本人の収入	配偶者の収入	子どもの収入	親の収入	その他	不明
全体		5,432	60.0	46.3	5.4	10.3	8.0	2.6
地域	北勢地域	2,394	60.4	45.9	4.9	10.0	7.6	1.8
	伊賀地域	557	54.6	50.4	7.2	11.0	8.4	3.2
	中南勢地域	1,516	60.1	45.8	5.5	10.8	7.7	3.4
	伊勢志摩地域	751	61.3	46.1	6.3	9.9	9.5	3.2
	東紀州地域	214	64.0	44.9	1.4	8.9	9.8	2.8
性別	男性	2,441	83.2	23.7	4.0	11.1	7.2	1.8
	女性	2,869	40.7	66.1	6.3	9.8	8.5	2.7
年代	20歳代	321	31.5	14.3	0.6	68.8	5.3	0.3
	30歳代	666	53.6	53.3	0.6	20.7	3.0	0.3
	40歳代	864	60.2	54.3	0.9	10.6	5.1	0.6
	50歳代	937	65.1	54.4	3.0	6.7	4.9	1.1
	60歳代	1,291	67.1	49.1	6.0	2.2	9.1	1.7
	70歳以上	1,254	59.9	36.9	13.0	0.9	14.5	7.2
主な職業	農林水産業	175	78.9	40.6	8.0	5.1	10.3	0.6
	自営業 自由業	524	70.6	44.8	5.0	6.3	7.6	1.5
	正規職員	1,358	83.3	31.8	1.1	16.3	3.3	0.4
	パート・バイト・ 派遣	972	52.3	62.6	3.5	11.7	6.5	1.0
	その他の職業	205	69.8	42.4	5.9	15.1	3.9	2.0
	学生	68	7.4	1.5	1.5	92.6	2.9	-
	専業主婦・ 主夫	742	18.6	87.6	4.4	3.6	8.0	1.3
	無職	1,237	61.6	30.6	11.8	4.3	14.9	5.8
結婚	未婚	635	45.5	1.7	0.6	61.3	13.2	1.9
	既婚	3,932	62.0	59.9	4.7	3.0	5.6	1.4
	離婚・死別	509	72.1	3.7	13.6	6.1	16.9	4.5
世帯構成	単身世帯	414	75.1	6.0	1.0	5.3	12.3	6.5
	一世代世帯	1,473	63.3	56.3	1.3	0.9	8.4	2.9
	二世世代世帯	2,376	57.4	48.7	5.9	13.5	5.9	1.4
	三世世代世帯	731	56.1	49.5	11.8	20.4	6.0	0.7
	その他	305	57.0	34.8	11.1	15.1	19.0	4.3
本人の年間収入	100万円未満	1,509	26.5	69.7	7.8	9.3	9.5	3.3
	100～200万円未満	1,034	63.2	46.7	8.4	10.7	10.3	2.5
	200～300万円未満	803	76.6	34.5	3.9	13.8	7.0	1.2
	300～400万円未満	514	82.1	34.8	2.9	13.8	5.8	1.4
	400～500万円未満	376	86.2	33.5	0.5	13.0	3.5	1.3
	500～600万円未満	264	93.9	34.1	1.5	4.2	1.9	0.4
	600～800万円未満	319	94.0	27.3	0.6	6.3	3.4	-
	800～1,000万円未満	122	91.8	23.8	3.3	2.5	-	1.6
	1,000万円以上	80	95.0	17.5	1.3	1.3	1.3	2.5
	わからない	179	21.2	45.8	8.4	13.4	20.7	5.0

問5－2 日常生活の支出の中で、特に負担を感じている支出はありますか。次の中からあてはまるものを1つだけ選んでください。（○は1つだけ）

【特に負担を感じている支出の有無】

○日常生活の支出の中で特に負担を感じている支出があるか質問したところ、「ある」の割合が71.0%で、「ない」の割合（17.0%）より54.0ポイント高くなっています。

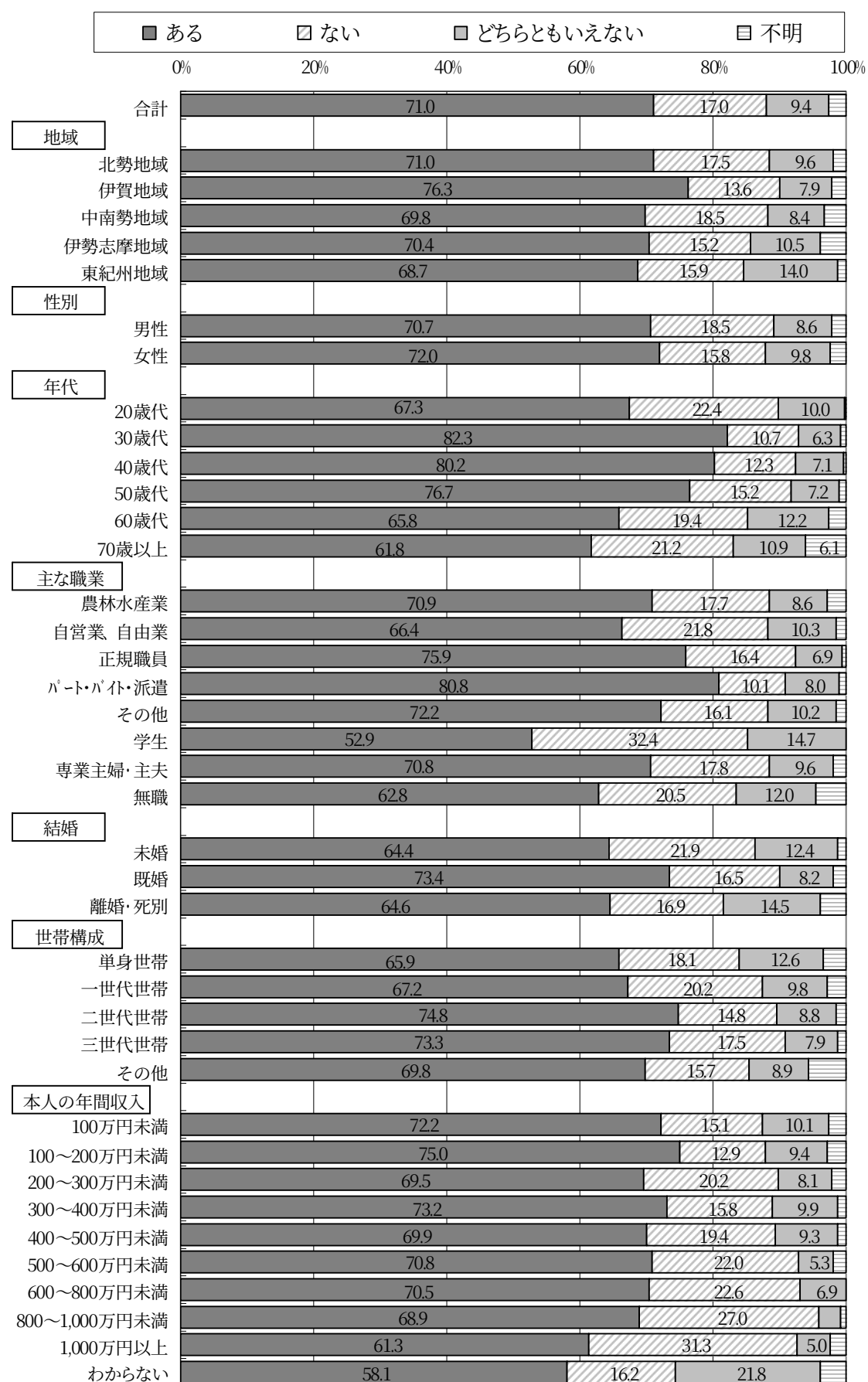
○県全体との比較において特徴の見られる主な属性項目は次のとおりです。

- ・30歳代の「ある」の割合が82.3%で、県全体より11.3ポイント高くなっています。
- ・学生の「ある」の割合が52.9%で、県全体より18.1ポイント低くなっています。

○属性項目間の比較において特徴がみられる属性については次のとおりです。

- ・年代別では、30歳代は「ある」の割合が82.3%と最も高くなっています。30歳代以上の年代でみると、年代が高くなるほど「ある」の割合が低く、70歳以上は61.8%と最も低くなっています。
- ・主な職業別では、パート・アルバイト・派遣社員は「ある」の割合が80.8%で、職業の中で最も高くなっています。一方、学生は「ある」の割合が52.9%と職業の中で最も低くなっています。
- ・本人の年間収入別では、800万円から1,000万円未満の層、1,000万円以上の層は「ない」の割合がそれぞれ27.0%、31.3%と他の本人の年間収入別の層に比べて高くなっています。

図表2-5-3 特に負担を感じている支出の有無



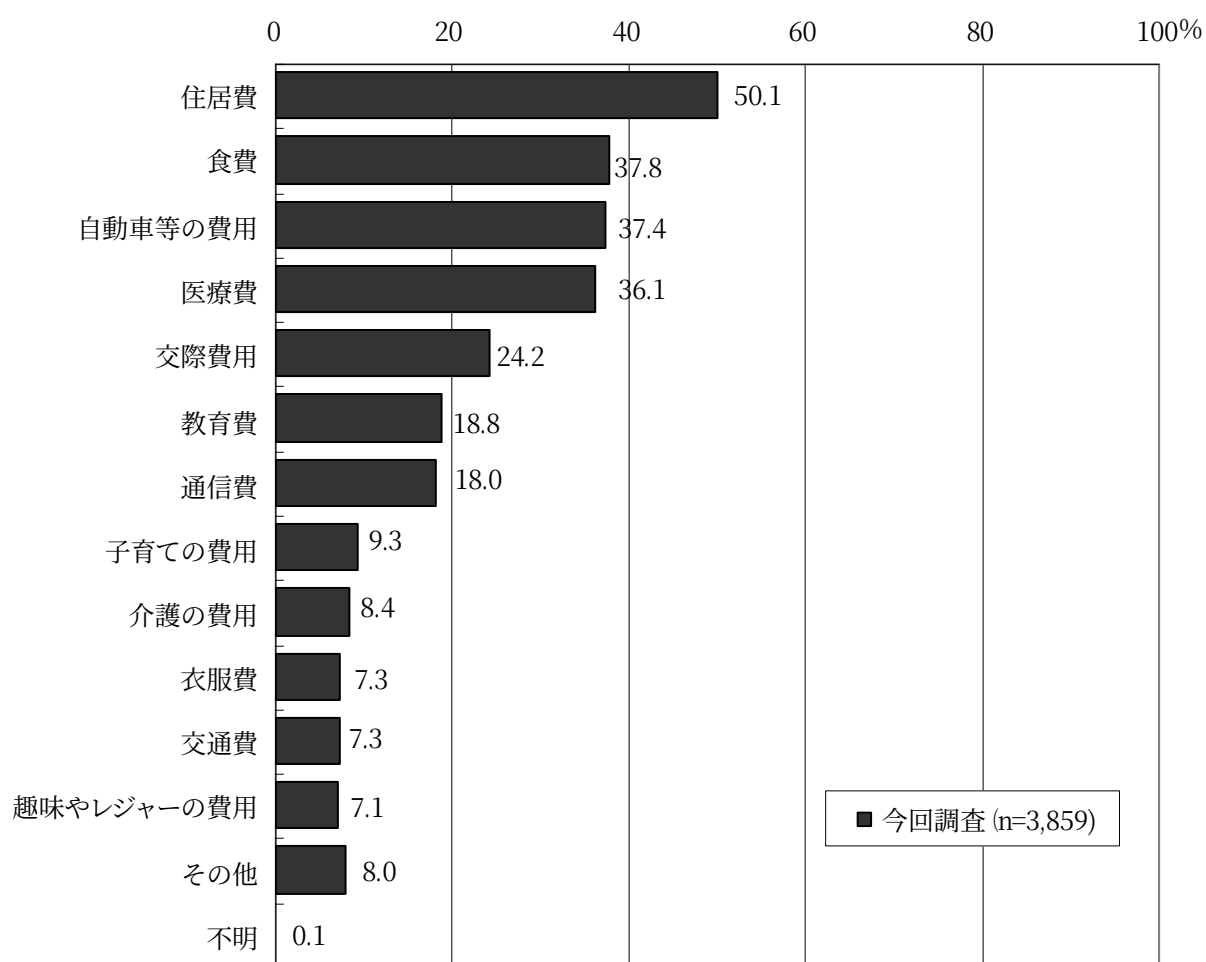
問5－2 続き

問5－2 特に負担を感じている支出の有無で「1 ある」に○をつけた方におききします。
特に負担を感じている支出についてあてはまるものすべてに○をつけてください。（○はいくつでも）

【特に負担を感じている支出】

○問5－2で特に負担を感じている支出が「1 ある」と回答した方に対して、特に負担を感じている支出の内容について質問したところ、「住居費」が50.1%と最も高く、次いで「食費」(37.8%)、「自動車やオートバイ等に関する費用」(37.4%)、「医療費」(36.1%)となっています。

図表2-5-4 特に負担を感じている支出（複数回答）



- ・地域別では、上位4項目は同じ項目となっています。5位は北勢地域だけが「教育費」（20.6%）となっています。

図表2-5-5 特に負担を感じている支出（複数回答）（地域別上位5項目）

地域	1位	2位	3位	4位	5位
北勢地域	住居費 52.5	自動車等の費用 36.8	食費 36.8	医療費 35.8	教育費 20.6
伊賀地域	住居費 50.8	自動車等の費用、 医療費 36.7		食費 34.8	交際費用 30.1
中南勢地域	住居費 47.6	食費 38.3	自動車等の費用 37.8	医療費 36.4	交際費用 26.4
伊勢志摩地域	住居費 47.6	食費 42.2	自動車等の費用 37.6	医療費 37.2	交際費用 31.9
東紀州地域	住居費 46.9	自動車等の費用 41.5	食費 39.5	医療費 31.3	交際費用 24.5

- ・性別では、男女とも「住居費」が最も高く、2位は男性が「自動車やオートバイ等に関する費用」、女性が「食費」となっています。

図表2-5-6 特に負担を感じている支出（複数回答）（性別上位5項目）

性別	1位	2位	3位	4位	5位
男性	住居費 48.0	自動車等の費用 38.6	医療費 37.4	食費 36.5	交際費用 21.0
女性	住居費 52.1	食費 38.8	自動車等の費用 36.1	医療費 34.8	交際費用 26.6

- ・年代別では、20歳代は「自動車やオートバイ等に関する費用」、30歳代から50歳代は「住居費」、60歳代以上は「医療費」が最も高くなっています。「子育ての費用」が30歳代で4位となります。「教育費」が30歳代が5位、40歳代が2位、50歳代が5位となっています。

図表2-5-7 特に負担を感じている支出（複数回答）（年代別上位5項目）

年代	1位	2位	3位	4位	5位
20歳代	自動車等の費用 46.3	住居費 39.8	食費 34.7	通信費 25.5	交際費用 21.8
30歳代	住居費 69.3	自動車等の費用 43.2	食費 33.9	子育ての費用 29.9	教育費 25.7
40歳代	住居費 65.5	教育費 46.0	自動車等の費用 36.2	食費 33.9	通信費 24.1
50歳代	住居費 54.4	自動車等の費用 34.5	食費 34.4	医療費 30.5	教育費 24.6
60歳代	医療費 51.4	食費 40.8	住居費 40.4	自動車等の費用 38.6	交際費用 32.4
70歳以上	医療費 56.0	食費 44.6	交際費用 41.0	住居費、 自動車等の費用 32.5	

- ・主な職業別では、農林水産業と無職は「医療費」が最も高く、それ以外の職業は「住居費」が最も高くなっています。農林水産業は「住居費」が5位と低い一方、「交際・つきあいの費用」(39.5%)が2位と他の職業に比べて高くなっています。

図表2-5-8 特に負担を感じている支出(複数回答)(主な職業別上位5項目)

主な職業	1位	2位	3位	4位	5位
農林水産業	医療費 46.0	交際費用 39.5	自動車等の費用 36.3	食費 31.5	住居費 28.2
自営業、自由業	住居費 48.6	食費 34.5	自動車等の費用 32.8	医療費 31.9	交際費用 21.8
正規職員	住居費 59.4	自動車等の費用 36.8	食費 31.5	教育費 26.3	医療費 22.9
パート・バイト・派遣	住居費 58.2	自動車等の費用 44.3	食費 39.2	医療費 30.7	教育費 25.4
その他の職業	住居費 48.0	自動車等の費用 43.2	食費 33.1	医療費 27.7	交際費用 24.3
専業主婦・主夫	住居費 53.1	食費 43.0	医療費 41.0	自動車等の費用 36.6	交際費用 29.3
無職	医療費 57.5	食費 44.3	住居費 34.5	交際費用 34.2	自動車等の費用 34.1

※学生についてはサンプル数が50未満のため記載していません。

- ・結婚別では、既婚、離婚・死別は「住居費」、未婚は「自動車やオートバイ等に関する費用」が最も高くなっています。また未婚は「通信費」(27.9%)が5位となっています。

図表2-5-9 特に負担を感じている支出(複数回答)(結婚別上位5項目)

結婚	1位	2位	3位	4位	5位
未婚	自動車等の費用 46.0	住居費 37.9	食費 35.9	医療費 29.3	通信費 27.9
既婚	住居費 53.2	自動車等の費用 36.7	食費 36.7	医療費 36.0	交際費用 22.8
離婚・死別	住居費 48.3	食費 42.9	医療費 36.5	自動車等の費用 35.9	交際費用 31.9

- ・世帯構成別では、一世代世帯は「医療費」が最も高く、一世代世帯以外の世帯は「住居費」が最も高くなっています。

図表 2-5-10 特に負担を感じている支出（複数回答）（世帯構成別上位5項目）

世帯構成	1位	2位	3位	4位	5位
単身世帯	住居費 42.5	医療費 39.2	食費 37.7	自動車等の費用 32.6	交際費用 30.8
一世代世帯	医療費 49.1	住居費 42.7	自動車等の費用 37.6	食費 37.2	交際費用 32.3
二世帯世帯	住居費 55.9	自動車等の費用 37.6	食費 36.9	医療費 30.1	教育費 25.2
三世帯世帯	住居費 48.5	食費 39.9	自動車等の費用 37.3	教育費 30.6	医療費 28.7
その他	住居費 51.2	食費 42.3	自動車等の費用 40.4	医療費 38.5	交際費用 30.5

- ・本人の年間収入別では、500 万円以上の層は「教育費」が他の層に比べて高く、500 万円から 600 万円未満の層は 3 位、600 万円から 800 万円未満、800 万円から 1,000 万円未満の層はそれぞれ 2 位となっています。

図表 2-5-11 特に負担を感じている支出（複数回答）（本人の年間収入別上位5項目）

本人の年間収入	1位	2位	3位	4位	5位
100万円未満	住居費 51.0	食費 43.0	医療費 40.0	自動車等の費用 36.8	交際費用 27.0
100～200万円未満	住居費 48.3	自動車等の費用 40.8	食費 40.5	医療費 40.3	交際費用 29.4
200～300万円未満	住居費 43.9	医療費 38.9	食費 37.5	自動車等の費用 36.9	交際費用 28.1
300～400万円未満	住居費 51.3	自動車等の費用 41.8	食費 32.2	医療費 30.3	通信費 20.2
400～500万円未満	住居費 56.3	自動車等の費用 38.4	食費 29.7	医療費 28.9	通信費 22.4
500～600万円未満	住居費 53.5	自動車等の費用 33.2	教育費 31.0	食費 26.7	医療費 26.2
600～800万円未満	住居費 59.6	教育費 36.9	自動車等の費用 33.8	食費 31.1	医療費 21.8
800～1,000万円未満	住居費 57.1	教育費 36.9	食費 28.6	医療費 22.6	自動車等の費用 21.4

※「1,000 万円以上」の層についてはサンプル数が 50 未満のため記載していません。

問5-3 あなたは何歳くらいまで働きたい（収入のある仕事をしたい）とお考えですか。（○は1つだけ。「1」に○をつけた方は、（ ）に年齢も書いてください。おおよその年齢でかまいません。）今働いていない方でも、いずれ働きたいとお考えの場合は、その希望をお答えください。

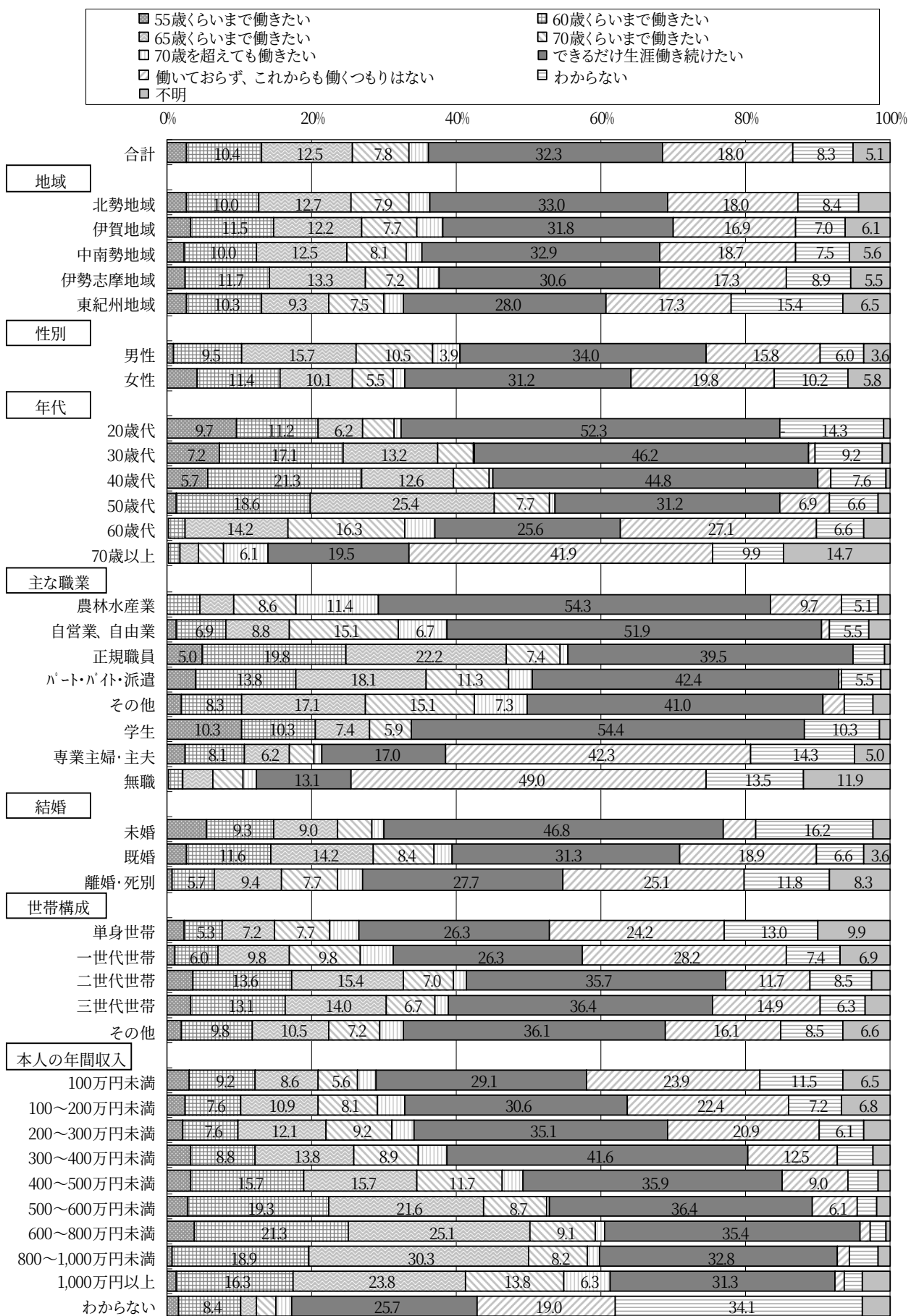
【何歳まで働きたいか（就労意欲）】

○何歳くらいまで働きたいか質問したところ、「できるだけ生涯働きたい」が 32.3%と最も高く、次いで「今、働いておらず、今後も働くつもりはない」（18.0%）、「65 歳くらいまで働きたい」（12.5%）となっています。

○属性項目間の比較において特徴がみられる属性については次のとおりです。

- ・年代別では、年代が若いほど「できるだけ生涯働きたい」が高く、20 歳代は 52.3%となっています。
- ・主な職業別では、農林水産業、自営業・自由業、学生は「できるだけ生涯働きたい」が他の職業より高くなっています。また、正規職員は、「60 歳くらいまで働きたい」や「65 歳くらいまで働きたい」の割合が他の職業に比べて高くなっています。
- ・結婚別では、未婚は「できるだけ生涯働きたい」（46.8%）が、既婚、離婚・死別に比べて 15 ポイント以上高くなっています。

図表2-5-12 何歳まで働きたいか(就労意欲)



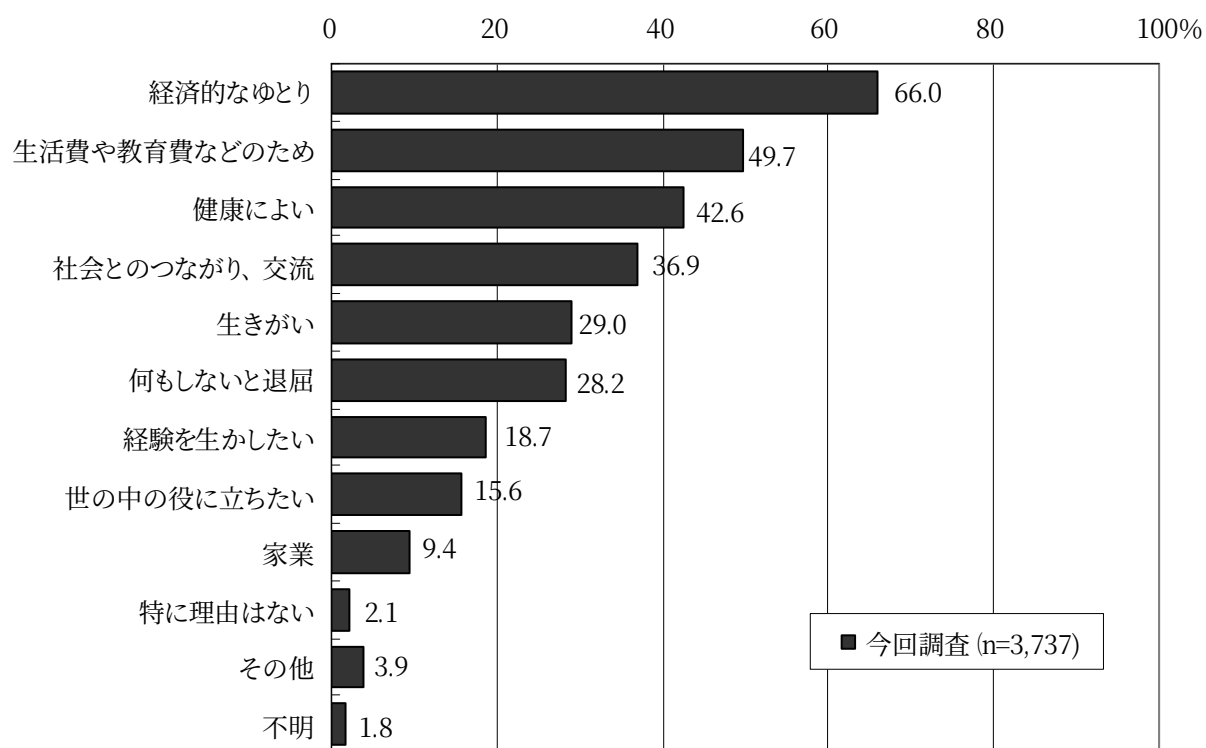
問5－3 続き

問5－3 何歳まで働きたいか（就労意欲）で、「1」または「2」に○をつけた方におききします。そうお考えの理由は何ですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。（○はいくつでも）

【就労を希望する理由】

○問5－3で「1（ ）歳くらいまで働きたい」または、「2 できるだけ生涯働きたい」と回答した方に対して、働きたい理由を質問したところ、「経済的なゆとりがほしい」が66.0%と最も高く、次いで「生活費や教育費などをまかなう必要がある」（49.7%）、「健康によい」（42.6%）、「社会とのつながり、交流がほしい」（36.9%）となっています。

図表2-5-13 就労を希望する理由（複数回答）



- ・地域別では、上位4項目まで、項目、順位ともに差はみられません。北勢地域、伊賀地域は5位が「何もしないと退屈だから」、中南勢地域、伊勢志摩地域、東紀州地域は「生きがい」となっています。

図表2-5-14 就労を希望する理由〔複数回答〕(地域別上位5項目)

地域	1位	2位	3位	4位	5位
北勢地域	経済的なゆとり 66.3	生活費や教育費などのため 49.6	健康によい 43.1	社会とのつながり、交流 38.2	何もしないと退屈 29.4
伊賀地域	経済的なゆとり 64.6	生活費や教育費などのため 48.2	健康によい 41.5	社会とのつながり、交流 35.6	何もしないと退屈 26.9
中南勢地域	経済的なゆとり 66.8	生活費や教育費などのため 48.1	健康によい 43.0	社会とのつながり、交流 37.3	生きがい 30.2
伊勢志摩地域	経済的なゆとり 64.5	生活費や教育費などのため 54.6	健康によい 42.1	社会とのつながり、交流 35.1	生きがい 30.8
東紀州地域	経済的なゆとり 65.6	生活費や教育費などのため 49.6	健康によい 38.2	社会とのつながり、交流 26.7	生きがい 26.7

- ・性別では、男女ともに「経済的なゆとりがほしい」が最も高くなっていますが、女性は71.8%と男性(60.7%)より11.1ポイント高くなっています。女性の3位は「社会とのつながり、交流がほしい」(44.6%)となっており、男性より15.6ポイント高くなっています。

図表2-5-15 就労を希望する理由〔複数回答〕(性別上位5項目)

性別	1位	2位	3位	4位	5位
男性	経済的なゆとり 60.7	生活費や教育費などのため 50.6	健康によい 42.7	何もしないと退屈 29.0	社会とのつながり、交流 29.0
女性	経済的なゆとり 71.8	生活費や教育費などのため 49.2	社会とのつながり、交流 44.6	健康によい 42.1	生きがい 31.5

- ・年代別では、60歳代までは「経済的なゆとりがほしい」が最も高く、また50歳代までは「生活費や教育費などをまかなう必要がある」が2位となっています。

図表2-5-16 就労を希望する理由〔複数回答〕(年代別上位5項目)

年代	1位	2位	3位	4位	5位
20歳代	経済的なゆとり 66.1	生活費や教育費などのため 55.5	何もしないと退屈 39.1	社会とのつながり、交流 33.6	生きがい 30.3
30歳代	経済的なゆとり 73.7	生活費や教育費などのため 65.2	社会とのつながり、交流 37.9	何もしないと退屈 32.5	健康によい 26.8
40歳代	経済的なゆとり 70.8	生活費や教育費などのため 61.6	社会とのつながり、交流 35.3	健康によい 32.3	生きがい 25.3
50歳代	経済的なゆとり 68.1	生活費や教育費などのため 52.7	健康によい 41.1	社会とのつながり、交流 40.5	生きがい 25.3
60歳代	経済的なゆとり 62.3	健康によい 60.2	社会とのつながり、交流 38.1	生活費や教育費などのため 35.9	生きがい 32.3
70歳以上	健康によい 66.0	経済的なゆとり 50.4	生きがい 39.0	社会とのつながり、交流 30.5	何もしないと退屈 28.4

- ・主な職業別では、農林水産業は「健康によい」、それ以外の職業は「経済的なゆとりがほしい」が最も高くなっています。農林水産業は「家業だから」が50.0%で2位、自営業・自由業でも45.7%で3位と他の職業に比べて高く、「生活費や教育などのため」がそれぞれ4位と低くなっています。また、学生は「世の中の役に立ちたい」(39.3%)が3位、専業主婦・主夫は「社会とのつながり、交流がほしい」(45.6%)が2位と他の職業に比べて高くなっています。

図表2-5-17 就労を希望する理由(複数回答)(主な職業別上位5項目)

主な職業	1位	2位	3位	4位	5位
農林水産業	健康によい 63.0	家業 50.0	経済的なゆとり 41.1	生活費や教育費などのため 32.9	生きがい 31.5
自営業・自由業	経済的なゆとり 53.5	健康によい 46.5	家業 45.7	生活費や教育費などのため 36.9	生きがい 33.5
正規職員	経済的なゆとり 69.3	生活費や教育費などのため 58.7	社会とのつながり、交流 34.0	健康によい 33.1	何もしないと退屈 29.8
パート・バイト・派遣	経済的なゆとり 72.6	生活費や教育費などのため 54.6	社会とのつながり、交流 46.2	健康によい 45.4	何もしないと退屈 30.2
その他の職業	経済的なゆとり 64.4	健康によい 51.6	生活費や教育費などのため 45.7	生きがい 38.3	社会とのつながり、交流 37.8
学生	経済的なゆとり 68.9	生活費や教育費などのため 47.5	世の中の役に立ちたい 39.3	生きがい 37.7	何もしないと退屈 36.1
専業主婦・主夫	経済的なゆとり 74.4	社会とのつながり、交流 45.6	生活費や教育費などのため 43.5	健康によい 40.4	生きがい 34.0
無職	経済的なゆとり 59.1	健康によい 57.5	生活費や教育費などのため 35.8	社会とのつながり、交流 34.9	生きがい 33.0

- ・結婚別では、未婚は「社会とのつながり、交流がほしい」が3位となっています。

図表2-5-18 就労を希望する理由(複数回答)(結婚別上位5項目)

結婚	1位	2位	3位	4位	5位
未婚	経済的なゆとり 65.3	生活費や教育費などのため 53.3	社会とのつながり、交流 34.3	何もしないと退屈 34.1	生きがい 28.6
既婚	経済的なゆとり 67.2	生活費や教育費などのため 49.4	健康によい 44.6	社会とのつながり、交流 37.9	生きがい 29.0
離婚・死別	経済的なゆとり 60.7	生活費や教育費などのため 57.9	健康によい 44.6	社会とのつながり、交流 35.4	生きがい 26.4

- ・世帯構成別では、すべての世帯で「経済的なゆとり」が最も高くなっていますが、2位は単身世帯と一世代世帯は「健康によい」、二世代世帯と三世代世帯は「生活費や教育費などをまかなう必要がある」となっています。

図表 2-5-19 就労意欲〔複数回答〕（世帯構成別上位5項目）

世帯構成	1位	2位	3位	4位	5位
単身世帯	経済的なゆとり 62.4	健康によい 47.5	生活費や教育費 などのため 44.8	社会とのつながり、 交流 37.6	生きがい 37.1
一世代世帯	経済的なゆとり 65.7	健康によい 52.5	生活費や教育費 などのため 36.5	社会とのつながり、 交流 35.9	生きがい 32.0
二世代世帯	経済的なゆとり 67.8	生活費や教育費 などのため 54.7	健康によい 38.3	社会とのつながり、 交流 37.1	何もしないと退 屈 27.5
三世代世帯	経済的なゆとり 64.8	生活費や教育費 などのため 56.0	社会とのつながり、 交流 38.4	健康によい 37.7	何もしないと退 屈 27.4
その他	経済的なゆとり 62.9	生活費や教育費 などのため 51.4	健康によい 45.7	生きがい 33.3	社会とのつながり、 交流 32.4

- ・本人の年間収入別では、1,000 万円未満の層でみると、上位4項目の順位に変化はありません。一方、1,000 万円以上の層は、「社会とのつながり、交流がほしい」（47.3%）が2位、「生きがい」（36.5%）が3位となっています。

図表 2-5-20 就労意欲〔複数回答〕（本人の年間収入別上位5項目）

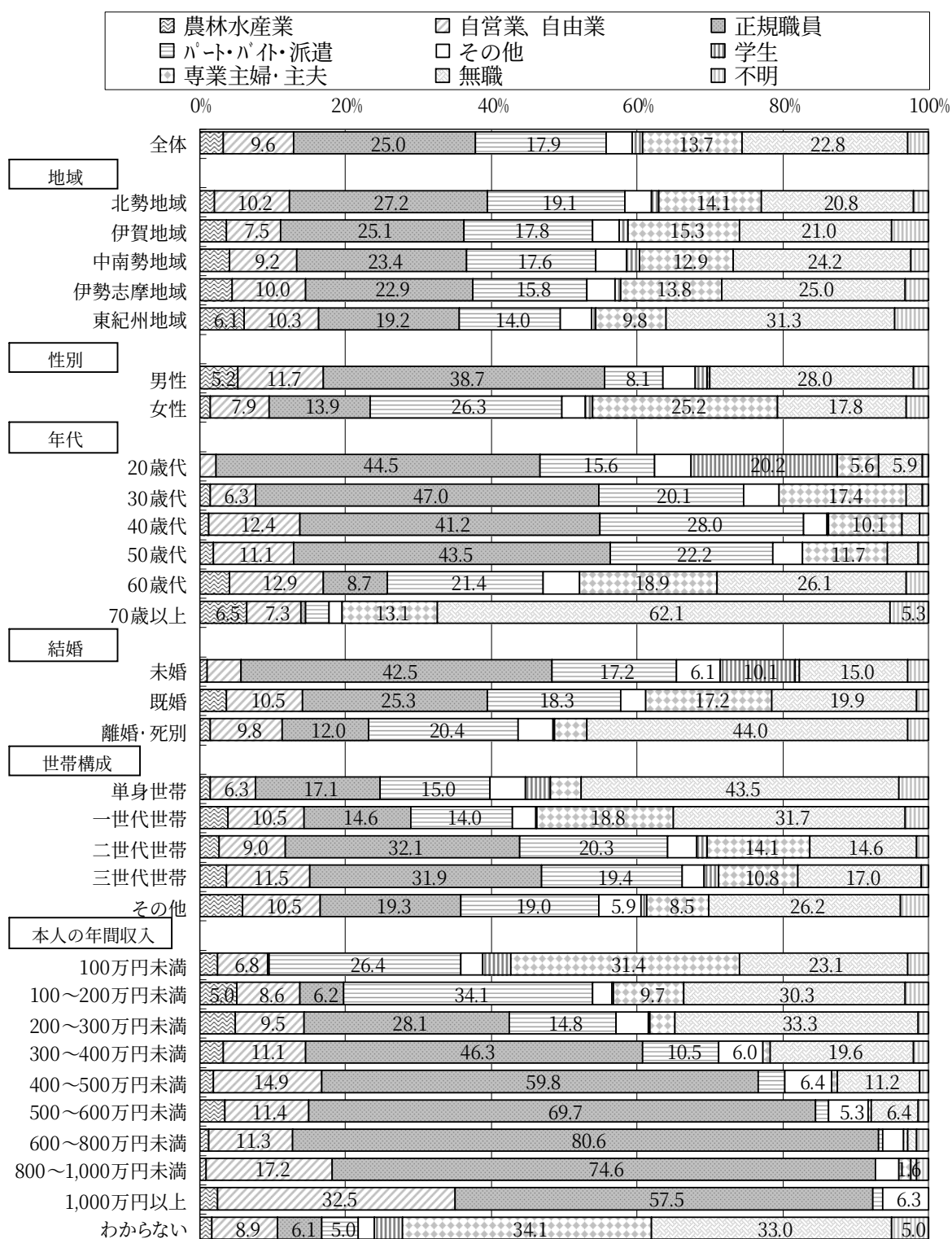
本人の年間収入	1位	2位	3位	4位	5位
100万円未満	経済的なゆとり 70.8	生活費や教育費 などのため 46.6	健康によい 46.1	社会とのつながり、 交流 41.4	生きがい 33.6
100～200万円未満	経済的なゆとり 66.1	生活費や教育費 などのため 51.1	健康によい 46.7	社会とのつながり、 交流 40.0	生きがい 30.5
200～300万円未満	経済的なゆとり 64.1	生活費や教育費 などのため 48.8	健康によい 45.4	社会とのつながり、 交流 38.2	何もしないと退 屈 31.1
300～400万円未満	経済的なゆとり 66.7	生活費や教育費 などのため 50.5	健康によい 41.3	社会とのつながり、 交流 32.9	何もしないと退 屈 28.3
400～500万円未満	経済的なゆとり 70.7	生活費や教育費 などのため 56.4	健康によい 34.0	社会とのつながり、 交流 33.3	何もしないと退 屈 31.2
500～600万円未満	経済的なゆとり 64.3	生活費や教育費 などのため 55.9	健康によい 37.0	社会とのつながり、 交流 30.3	何もしないと退 屈 26.1
600～800万円未満	経済的なゆとり 59.6	生活費や教育費 などのため 54.1	健康によい 36.8	社会とのつながり、 交流 30.6	何もしないと退 屈 30.0
800～1,000万円未満	経済的なゆとり 62.8	生活費や教育費 などのため 45.1	健康によい 38.9	社会とのつながり、 交流 31.9	何もしないと退 屈 25.7
1,000万円以上	経済的なゆとり 56.8	社会とのつながり、 交流 47.3	生きがい 36.5	健康によい 35.1	生活費や教育費 などのため 29.7
わからない	経済的なゆとり 62.3	生活費や教育費 などのため 54.5	健康によい 41.6	社会とのつながり、 交流 36.4	生きがい 31.2

問5-4 あなたの主な職業は何ですか。(○は1つだけ)

【主な職業】

○主な職業については、「正規職員」が25.0%と最も高く、次いで「無職」(22.8%)、「パート・アルバイト・派遣社員」(17.9%)、「専業主婦・主夫」(13.7%)となっています。

図表2-5-21 主な職業

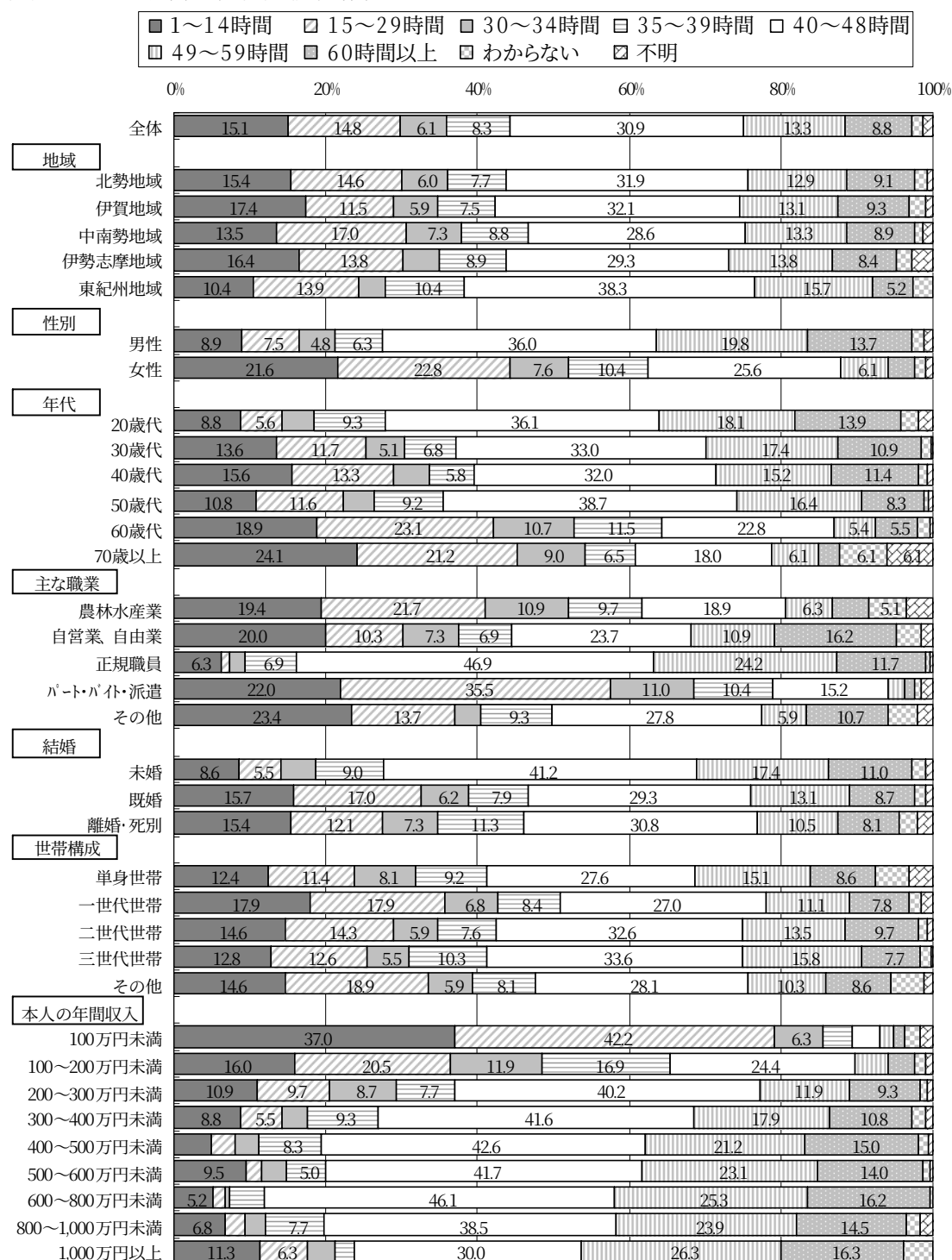


問5-5 あなたの1週間の平均的な就業時間（残業時間を含みます）はどのくらいですか。もっとも近いものに○をつけてください。（○は1つだけ）

【1週間の平均的な就業時間】

○1週間の平均的な就業時間はどのくらいか質問したところ、「40～48時間」が30.9%と最も高く、次いで「1～14時間」（15.1%）、「15～29時間」（14.8%）、「49～59時間」（13.3%）となっています。

図表2-5-22 一週間の平均的な就業時間



※「本人の年間収入がわからない」の層についてはサンプル数が50未満のため記載していません。

問5-4で「4.パート・アルバイト・派遣社員など」を選択した方に対する質問

問6 あなたは、今後、どのように働きたいと考えていますか。次の中からあてはまるものを1つだけ選んでください。(○は1つだけ)

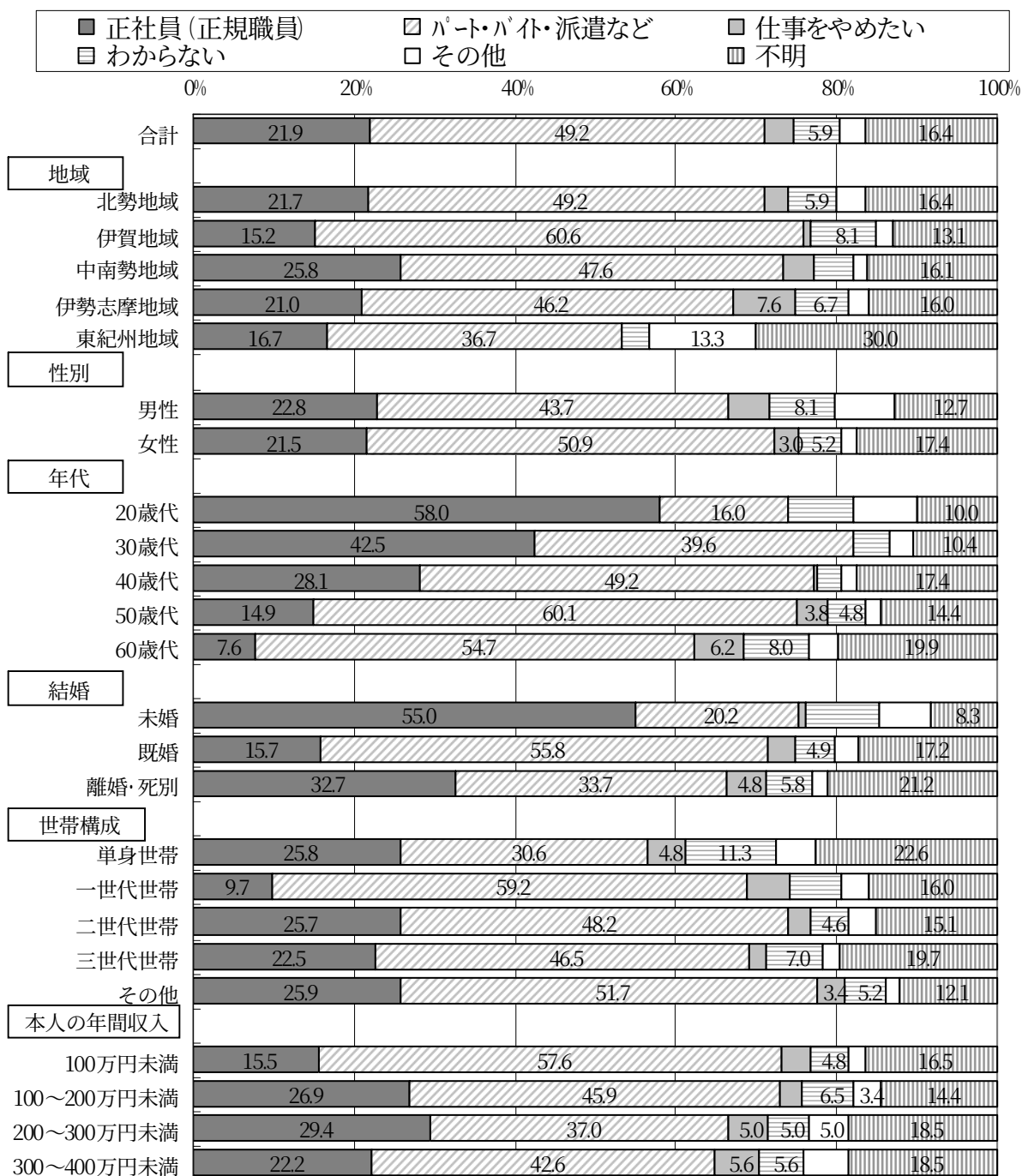
【パート・アルバイト・派遣社員の方が希望する働き方】

○パート・アルバイト・派遣社員などの方に、今後、どのように働きたいか質問したところ、「パート・アルバイト・派遣社員などとして働きたい」(49.2%)が最も高く、次いで「正社員(正規職員)として働きたい」(21.9%)となっています。

○属性項目間の比較において特徴がみられる属性については次のとおりです。

- ・地域別では、伊賀地域は「パート・アルバイト・派遣社員などとして働きたい」が60.6%で、他の地域より10ポイント以上高くなっている一方、「正社員(正規職員)として働きたい」が15.2%と地域の中で最も低くなっています。
- ・年代別では、年代が若いほど「正社員(正規職員)として働きたい」の割合が高く、20歳代は58.0%と年代の中で最も高くなっています。一方、50歳代は「パート・アルバイト・派遣社員などとして働きたい」が60.1%となっており、年代の中で最も高くなっています。
- ・結婚別では、未婚は、「正社員(正規職員)として働きたい」(55.0%)、既婚は「パート・アルバイト・派遣社員などとして働きたい」(55.8%)が最も高くなっています。離婚・死別は、「パート・アルバイト・派遣社員などとして働きたい」(33.7%)、「正社員(正規職員)として働きたい」(32.7%)がほぼ同率となっています。
- ・世帯構成別では、一世代世帯は「パート・アルバイト・派遣社員などとして働きたい」が59.2%と世帯構成の中で最も高くなっている一方、「正社員(正規職員)として働きたい」は9.7%と他の世帯構成に比べて10ポイント以上低くなっています。
- ・本人の年間収入別では、200万円から300万円未満の層は「正社員(正規職員)として働きたい」(29.4%)が本人の年間収入別の層の中で最も高く、「パート・アルバイト・派遣社員などとして働きたい」(37.0%)が最も低くなっています。

図表2-5-23 パート・アルバイト・派遣社員の方が希望する働き方



※東紀州地域のサンプル数は30です。

※「70歳以上」、「本人の年間収入が400万円以上」の層についてはサンプル数が50未満のため記載していません。

問5-4で「4.パート・アルバイト・派遣社員など」を選択した方に対する質問

問6 続き 問6の今後の働き方で「1 正社員（正規職員）として働きたい」に○をつけた方におききします。

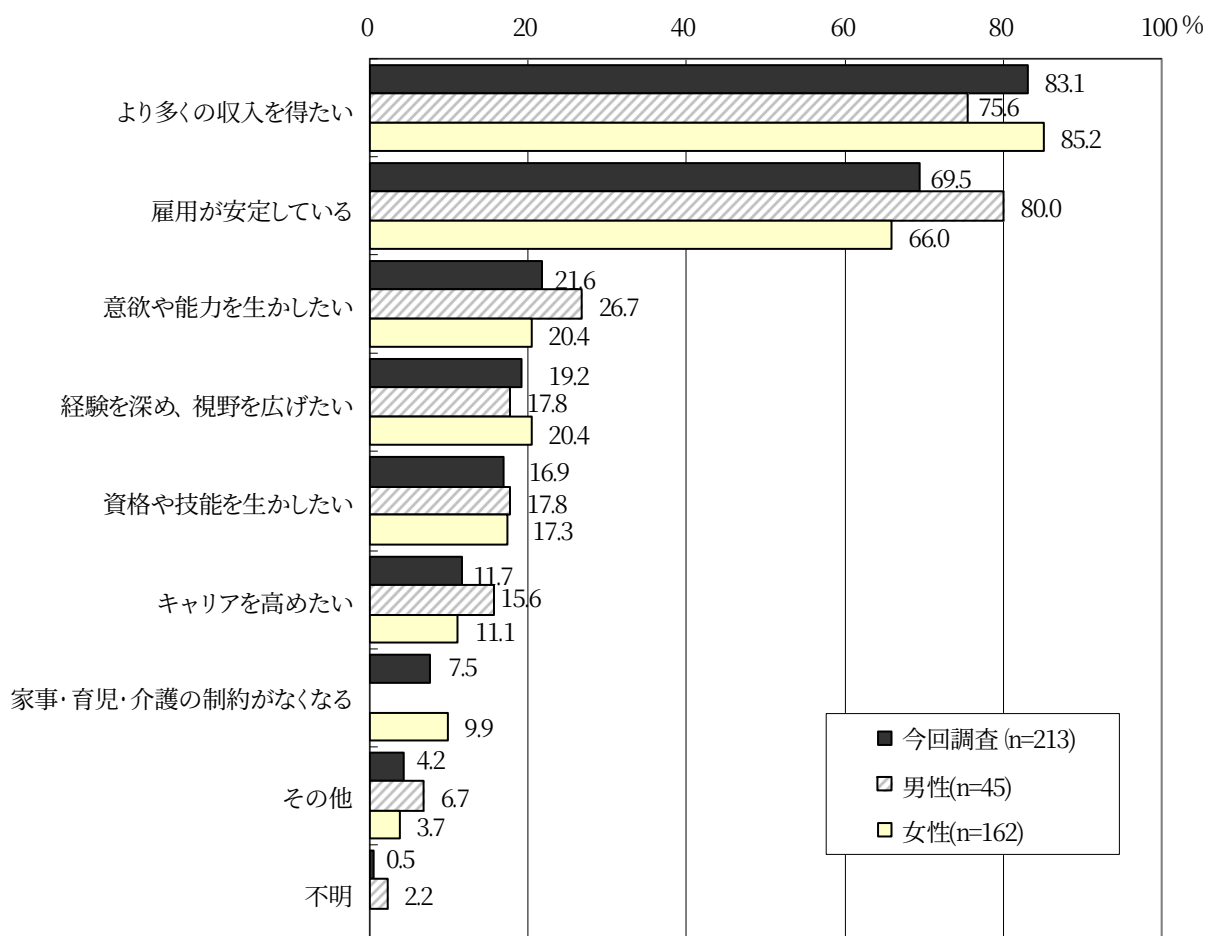
正社員（正規職員）として働きたいと考える理由は何ですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。（○はいくつでも）

【正社員として働きたい理由】

○問6のパート、アルバイト、派遣社員などの方の今後、希望する働き方について、「1 正社員（正規職員）として働きたい」と回答した方に対して、正社員として働きたいと考える理由を質問したところ、「より多くの収入を得たい」が83.1%と最も高く、次いで「雇用が安定している」(69.5%)となっています。

○属性別でみると、男性は「雇用が安定している」(80.0%)が最も高く、次いで「より多くの収入を得たい」(75.6%)となっています。女性は「より多くの収入を得たい」(85.2%)が最も高く、次いで「雇用が安定している」(66.0%)となっています。「雇用が安定している」は男性が女性より14.0ポイント高くなっています。

図表2-5-24 正社員として働きたい理由（複数回答）



問5-4で「7.専業主婦・専業主夫」または「8. 無職」を選択した方に対する質問

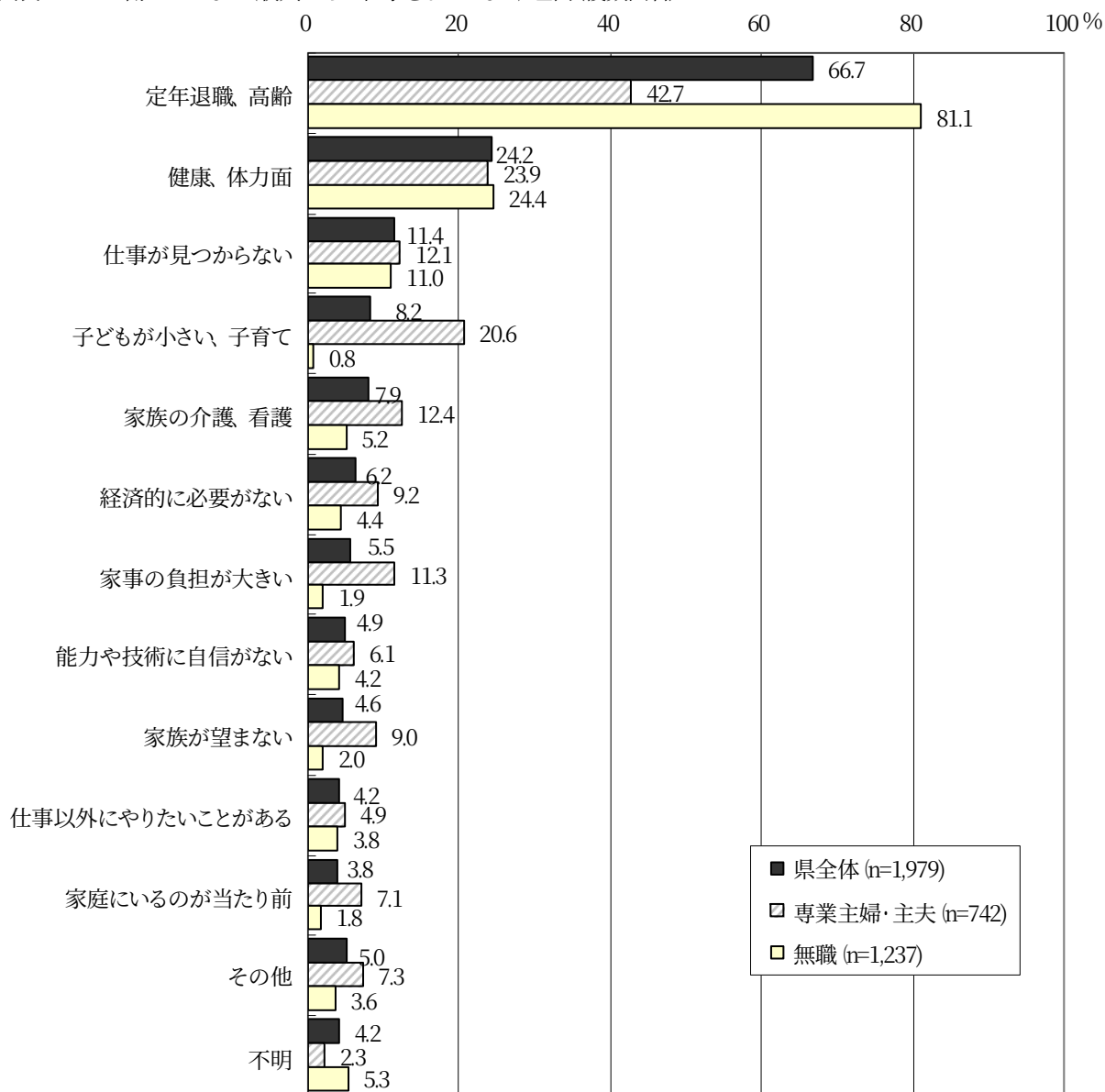
問7-1 働いていない（収入のある仕事をしていない）理由は何ですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。（○はいくつでも）

【就労していない理由】

○専業主婦・主夫、無職の方に、働いていない理由を質問したところ、「定年退職、高齢」が66.7%と最も高く、次いで「健康、体力面」（24.2%）となっています。

専業主婦・主夫、無職の職業別でみると、専業主婦・主夫、無職ともに「定年退職、高齢」が最も高くなっていますが、無職は81.1%と専業主婦・主夫（42.7%）より38.4ポイント高くなっています。一方、専業主婦・主夫は「子どもが小さい、子育て」（20.6%）が無職より19.8ポイント高くなっています。

図表2-5-25 働いていない（収入のある仕事をしていない）理由（複数回答）



問5-4で「7.専業主婦・専業主夫」または「8. 無職」を選択した方に対する質問

問7-2 働きたい（収入のある仕事をしたい）と思っていますか。（○は1つだけ）

【専業主婦・主夫や無職の方の就労意欲】

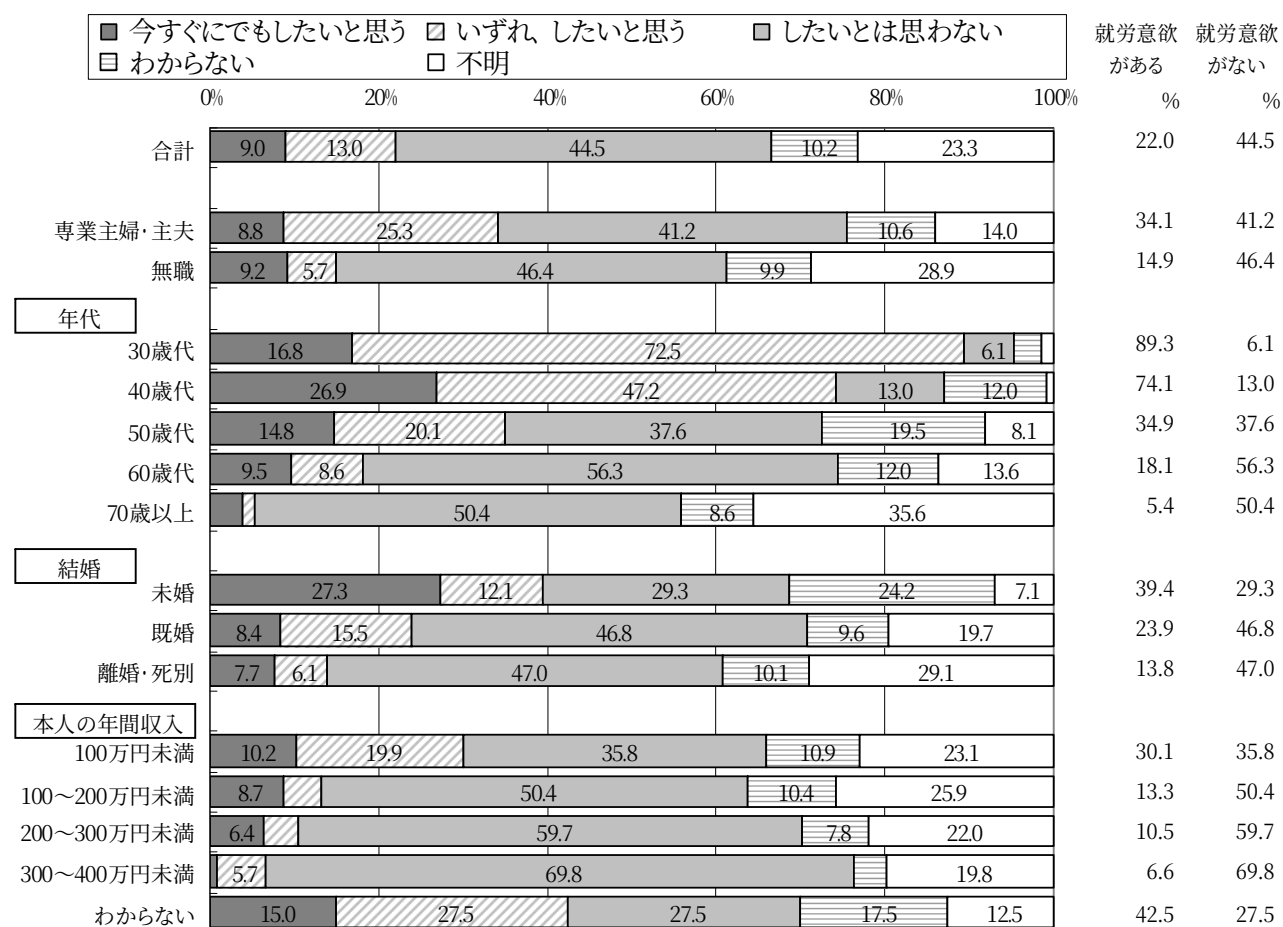
○専業主婦・主夫、無職の方に、働きたい（収入のある仕事をしたい）と思っているかを質問したところ「したい（働きたい）とは思っていない」が44.5%となっており、「今すぐにでもしたい（働きたい）と思っている」と「いずれ、したい（働きたい）と思っている」の割合を合計した「就労意欲がある」割合（22.0%）より22.5ポイント高くなっています。

専業主婦・主夫の「いずれ、したい（働きたい）と思っている」が25.3%で、無職より19.6ポイント高くなっています。

○属性項目間の比較において特徴がみられる属性については次のとおりです。

- ・年代別では、30歳代、40歳代は「就労意欲がある」割合がそれぞれ89.3%、74.1%で、「したい（働きたい）とは思っていない」より高くなっています。特に40歳代は「今すぐにでもしたいと思う」が26.9%と年代の中で最も高くなっています。
- ・結婚別では、未婚は「就労意欲がある」割合が39.4%、そのうち「今すぐにでもしたいと思っている」が27.3%となっています。
- ・本人の年間収入別では、400万円未満の層で見ると、本人の年間収入額が高くなるほど「したいとは思っていない」の割合が高く、300万円から400万円未満の層は69.8%となっています。一方、100万円未満の層は、「就労意欲がある」割合が30.1%で、他の層より10ポイント以上高くなっています。

図表2-5-26 専業主婦・主夫や無職の方の就労意欲



※「就労意欲がある」の割合・・・「今すぐにもしたいと思っている」「いずれ、したいと思っている」の割合を小数点第2位で四捨五入した数値の合計

※「就労意欲がない」の割合・・・選択肢の「したいとは思っていない」の数値を記載

問5－4で「7.専業主婦・専業主夫」または「8. 無職」を選択した方に対する質問

問7－2 続き 問7－2の就労意欲で「1 今すぐにでもしたいと思っている」または「2 いずれ、したいと思っている」に○をつけた方におききします。

どのように働きたいと考えていますか。次の中からあてはまるものすべてに○をつけてください。
(○はいくつでも)

【専業主婦・主夫や無職の方が希望する働き方】

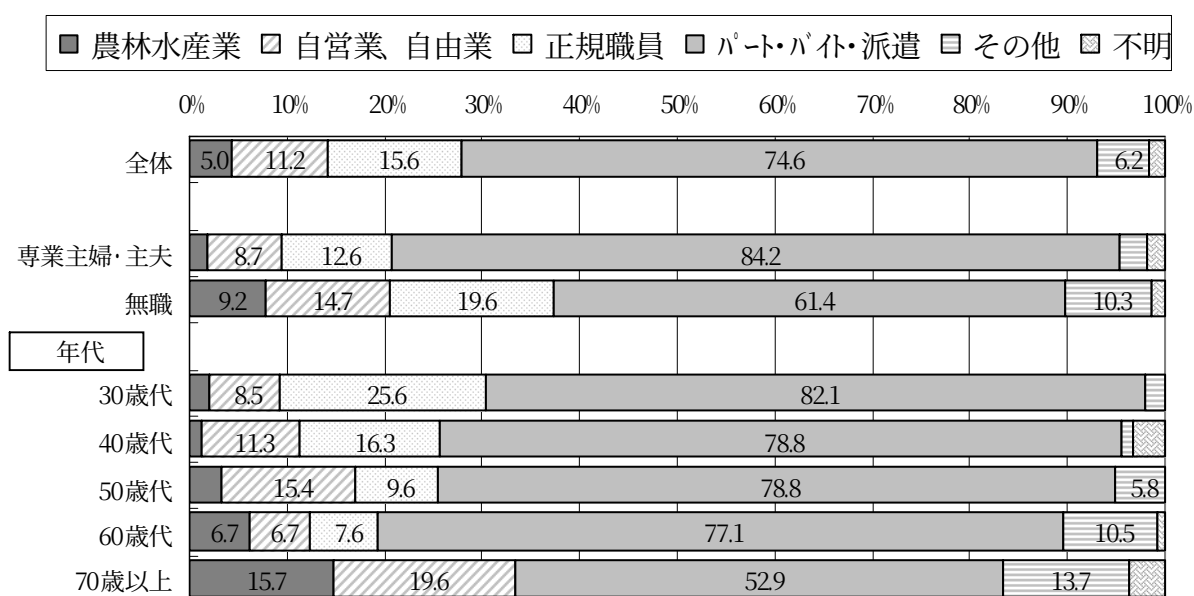
○専業主婦・主夫や無職の方の就労意欲について、「1 今すぐにでもしたいと思っている」または「2 いずれ、したいと思っている」と回答した人にどのように働きたいと考えているか質問したところ、「パート・アルバイト・派遣社員など」が74.6%と最も高く、次いで「企業、役所、団体などの正規職員」(15.6%)、「自営業、自由業」(11.2%)となっています。

専業主婦・主夫、無職の職業別でみると、専業主婦・主夫、無職ともに「パート・アルバイト・派遣社員など」が最も高くなっていますが、専業主婦・主夫は84.2%となっているのに対し、無職は61.4%となっており、「企業、役所、団体などの正規職員」(19.6%)、「自営業、自由業」(14.7%)等の割合が専業主婦・主夫より高くなっています。

○属性項目間の比較において特徴がみられる属性については次のとおりです。

- ・年代別では、30歳代以上のすべての年代でみると、年代が低くなるほど「企業、役所、団体などの正規職員」の割合が高くなっており、30歳代(25.6%)が最も高くなっています。70歳以上は「自営業、自由業」「農林水産業」の割合が他の年代より高くなっています。

図表2-5-27 専業主婦・主夫や無職の方の希望する働き方



その他

最後に このたびのアンケート調査に対するご感想、または三重県政に対するご意見などございましたら、ご自由にお書き下さい。今後の参考にさせていただきます。

【自由意見】

今回の調査では、計 1,287 人の方から延べ 1,491 件の自由意見が寄せられました。
調査に関するご意見と調査以外のことに関するご意見の 2 つに整理しました。

(1) みえ県民意識調査に関するご意見 (170 件)

今後でもできるだけ多くの方にご回答いただけるよう、ご意見を踏まえ、調査方法の改善などについて努めてまいります。

① 目的や活用方法に関すること

- ・ 調査にも税金が使われていることを認識してほしい。
- ・ 単なる調査に終わらないことを願う。結果をもとに、県民がより幸せを実感できるような、長期、短期の具体的施策を期待する。

② 実施方法に関すること

- ・ 粗品があれば嬉しい。
- ・ アンケート用紙を返送する時に、三つ折をしないとイケないが、折りにくい。

③ 調査票の構成に関すること

- ・ 設問が抽象的な感じがする。もう少し具体的な設問があってもいいのではないか。
- ・ 質問の数が多い。
- ・ 割合答えやすいアンケートであった。

④ 対象者の抽出方法に関すること

- ・ 高齢者ではなく、若い人を対象に調査した方がよい。
- ・ 改めて考え直す、よい機会がもてた。

⑤ 集計結果の公表に関すること

- ・ 結果が楽しみである。
- ・ 結果を公開してほしい。

(2) 調査以外のことに関するご意見 (1,321 件)

さまざまな分野に関するご意見もたくさんいただきました。

ご意見につきましては、関係部署に伝達し、諸施策の今後の展開を検討するための参考資料として活用させていただきます。なお、参考までに「みえ県民力ビジョン」における 16 の政策別およびその他に分類した内訳は次の通りです。

「みえ県民力ビジョン」

01.危機管理	58 件
02.命を守る	77 件
03.暮らしを守る	24 件
04.共生の福祉社会	76 件
05.環境を守る持続可能な社会	25 件
06.人権の尊重と多様性を認め合う社会	12 件
07.教育の充実	70 件
08.子どもの育ちと子育て	73 件
09.スポーツの推進	10 件
10.地域との連携	33 件
11.文化と学び	15 件
12.農林水産業	19 件
13.強じんて多様な産業	25 件
14.雇用の確保	110 件
15.世界に開かれた三重	68 件
16.安心と活力を生み出す基盤	131 件

その他

01.行政全般・その他について	410 件
02.知事に対して	72 件
03.幸福感について	13 件

(参考) 世帯構成の考え方

今回の調査では、前回お聴きした世帯構成に代えて同居の家族（問8－3）について質問していますが、前回との比較を行うため、同居の家族の回答の組み合わせにより、世帯構成を判断しています。

(例)

回答例（同居の家族）	世帯構成
配偶者	一世代世帯
配偶者、親	二世代世帯
配偶者、子ども（既婚）、孫	三世代世帯
孫	その他世帯
親、その他	その他世帯

※回答に「その他」が含まれている場合には、「その他世帯」とみなしました。

(参考) 標本誤差と調査の精度

母集団から一部の標本を抽出して調査を行い、その結果からもとの全体の値を推定するのが標本調査ですが、この際に生ずる“標本調査の結果”と“全数調査の結果”との差が標本誤差です。標本誤差の幅は、回答数（N）、および回答率（P）によって決定されます。

$\text{標本誤差} \quad E = \pm 2 \sqrt{\frac{P(100 - P)}{N}}$	E : 標本誤差 N : 回答数 (人) P : 回答率 (%)
---	--

次表は、上式にNとPの値を代入して標本誤差を求め、作成したものです。

標本誤差の早見表

回答率(p) 標本数(n)	5%	10%	15%	20%	25%	30%	35%	40%	45%	50%
	(95%)	(90%)	(85%)	(80%)	(75%)	(70%)	(65%)	(60%)	(55%)	
10,000	0.4	0.6	0.7	0.8	0.9	0.9	1.0	1.0	1.0	1.0
5,432	0.6	0.8	1.0	1.1	1.2	1.2	1.3	1.3	1.4	1.4
5,000	0.6	0.8	1.0	1.1	1.2	1.3	1.3	1.4	1.4	1.4
1,000	1.4	1.9	2.3	2.5	2.7	2.9	3.0	3.1	3.1	3.2
500	1.9	2.7	3.2	3.6	3.9	4.1	4.3	4.4	4.4	4.5
100	4.4	6.0	7.1	8.0	8.7	9.2	9.5	9.8	9.9	10.0

アンケート調査を行う場合、許容できる標本誤差の範囲は3%程度の範囲までが望ましいといわれています。

仮に、ある設問のある選択肢が選ばれる場合（回答の比率）が50%の場合、信頼度95%、標本誤差±3%（同じ調査を異なる調査対象で行った場合、100回中95回までは-3%～+3%の間に収まること）では、1,111件のサンプル数が必要であり、同様に標本誤差±2%では2,500件のサンプル数が必要であるという考え方となります。

今回の調査では、5,432件の有効回答数が得られており、三重県全体の意見を推定するために十分な精度を得ていると考えられます。（次式及び「サンプル数決定の早見表」参照）

$$\text{サンプル数 } N = \left(\frac{k}{E} \right)^2 \times P \times (100 - P) \quad (1) \quad ※1$$

N：サンプル数 P：回答率（%） E：標本誤差 k：信頼度係数 ※2

※1：一般に人口1万人以上を目安に無限母集団と捉えるため、本調査においては、無限母集団のサンプル数を決定する式（1）を使用した。

※2：信頼度係数は、正規分布表から求められ、信頼度95%の場合は1.96であるであるが、近似値として2を用いている。

サンプル数決定の早見表（信頼度95%）

標本誤差 回答率	±1%	±2%	±3%	±4%	±5%
1,99	396				
5,95	1,900	475	211	119	
10,90	3,600	900	400	225	144
20,80	6,400	1,600	711	400	256
30,70	8,400	2,100	933	525	336
40,60	9,600	2,400	1,067	600	384
50,50	10,000	2,500	1,111	625	400